ATSUMI 侵入警報システム 自動監視システム

EX-SDI レコーダー

ADX1004

ADX1008

ADX2016

HDD 増設ユニット

NS04R

取扱説明書

このたびは本製品をご採用いただき、ありがとうございます。取付工事前・ご利用前には必ずこの取扱説明書をお読みいただき、正しくご取付け工事を実施し、正しくご利用ください。
本書は大切に保管し、必要なときにいつでも読めるようにしておいてください。

注意事項

- 本製品は記録媒体としてハードディスクを使用しています。ハードディスクは衝撃や振動を与えると故障の原因となります。衝撃や振動を与えないでください。
- ハードディスクと冷却ファンは消耗品です。お買い上げの販売店にご相談いただき、定期的な点検と交換を実施することをお勧めします。定期交換の目安は２～3年です。
- 録画データー、バックアップデーターについてはどのような場合でも保証いたしません。
- 本製品は屋内設置専用です。
- 本製品は横置き（前面の文字が読める方向）専用です。通風孔をふさがない状態であっても縦置きや盤付けはできません。
- 本製品は内部冷却のため、ファンが常時回転しています。寝室等ファンの音が気になる場所には設置しないでください。

１ はじめに
２ 本製品を正しく取り扱っていただくために
３ 製品の特長
４ 同梱品
５ 各部の名称と働き
６ 設置
７ 基本操作
８ 運用設定
９ ライブ画面
１０ 検索
１１ コピー
１２ ツール
１３ 情報
１４ システム
１５ 遠隔モニタリング
１６ 外形寸法
１７ 仕様

目次

1 はじめに **6**

2 本製品を正しく取り扱っていただくために **7**

3 製品の特徴 **11**

4 同梱品 **12**

5 各部の名称と働き **13**

5-1 ADX1004 13
5-2 ADX1008 16
5-3 ADX2016 19
5-4 NS04R（HDD 増設ユニット） 22
5-5 リモコン 24
5-6 マウス 27

6 設置 **28**

6-1 設置場所について 28
6-2 ラックへの取り付けについて 28
6-3 配線 29
6-3-1 端子台に使用可能な線材 *29*
6-3-2 アースの接続 *29*
6-3-3 カメラの接続 *30*
6-3-4 映像信号と線材と配線距離 *34*
6-3-5 *RS485* ケーブルの接続 *34*
6-3-6 モニターの接続 *1*（*VIDEO OUT*） *37*
6-3-7 モニターの接続 *2*（*VGA*） *38*
6-3-8 モニターの接続 *3*（*SPOT*） *39*
6-3-9 モニターの接続 *4*（*SDI*） ※*ADX2016* のみ *40*
6-3-10 マイクおよびスピーカーの接続 *41*
6-3-11 センサー機器の接続 *42*
6-3-12 移報機器の接続 *42*
6-3-13 *USB* 機器の接続 *43*
6-3-14 ネットワークの接続（*LAN* 接続のみ） *44*
6-3-15 ネットワークの接続（*NS04R* 接続のみ） *45*
6-3-16 ネットワークの接続（*LAN* と *NS04R* を両方接続） *46*
6-4 システムの起動（電源オン） 48

7 基本操作 **51**

7-1 出荷時の管理者 ID とパスワード 51

7-2 レコーダーの操作手段.....51
7-3 ソフトウェアキーボードの使い方.....51
7-4 電源オンの手順.....52
7-5 電源オフの手順.....52
7-6 ログイン手順.....53
7-7 ログアウト手順.....53
7-8 操作ロックの手順.....54
7-9 操作ロック解除の手順.....54

8 運用設定.....55

8-1 設定作業の始め方と終わり方.....55
8-1-1 設定の始め方.....*55*
8-1-2 設定の終わり方.....*56*
8-2 管理者 ID とパスワードを変更する。.....56
8-3 NS04R（増設 HDD ユニット）を使えるようにする.....58
8-4 カメラをレコーダーに登録する.....61
8-5 マイクをレコーダーに登録する.....63
8-6 録画モード・プログラムを調整して録画期間を希望に合わせる.....64
8-7 ビデオロスと HDD 異常を ALARM OUT へ出力する.....66
8-8 ネットワークに接続する.....68
8-8-1 ネットワーク設定を接続先の *LAN* に合わせる.....*68*
8-8-2 自動時刻補正を使う（*NTP*）.....*72*
8-8-3 ビデオロス・*HDD* 異常を電子メールで通知する（*SMTP*）.....*73*
8-8-4 レコーダーを遠隔モニタリングする（*DDNS*）.....*76*

9 ライブ画面.....78

9-1 ライブ画面上の表示・アイコン・ボタン.....78
9-2 ファンクションメニュー（ライブ）.....80

１０ 検索.....82

１０-1 検索・再生を始める.....82
１０-2 検索・再生を終わる（ライブ画面に戻る）.....82
１０-3 検索・再生画面の構成.....82
１０-4 ファンクションメニュー（検索・再生）.....84
１０-5 再生する日付、時間を決定する.....85
１０-5-1 カレンダーとタイムラインで指定する.....*85*
１０-5-2 日時を直接指定する.....*86*
１０-5-3 イベントログから選択する.....*86*
１０-5-4 サムネイル検索機能を使う.....*87*

１０-５-５ ブックマークから選択する *90*
１０-６ 再生操作 91

１１ コピー 92

１１-１ 録画画像を USB メモリーにコピーする 92
１１-２ コピーした映像を再生する 94

１２ ツール 95

１２-１ PTZ 95
１２-１-１ *PTZ* カメラを操作する。 *95*
１２-２ インスタント PTZ 96
１２-２-１ インスタント *PTZ* をオン／オフする *96*
１２-２-２ インスタント *PTZ* 制御を行う *96*
１２-３ カメラ設定 97
１２-４ マルチ 98
１２-５ シーケンス 99
１２-５-１ シーケンスを開始する *99*
１２-５-２ シーケンスを終了する *99*
１２-６ カスタム設定 100
１２-７ SPOT 101
１２-８ デジタルズーム 102
１２-９ フリーズ（ライブ画面の一時停止） 103
１２-９-１ 画面をフリーズする *103*
１２-９-２ フリーズを解除する *103*
１２-１０ スナップ写真（静止画記録） 104
１２-１１ マニュアルリレー 105
１２-１２ 緊急録画 106
１２-１２-１ 緊急録画を開始する *106*
１２-１２-２ 緊急録画を終了する *106*
１２-１３ ALL EVENT CONFIRM 107
１２-１４ ブックマーク 108

１３ 情報 109

１３-１ 画面表示設定 109
１３-２ SCREEN（SPOT） 110
１３-３ ビデオ 111
１３-４ 録画 112
１３-５ ディスク 112
１３-６ システム 113

１３-７ システムアラーム 113

１４ システム 114

１４-１ メニュー 114

１４-１-１ メニュー画面の使い方 *114*

１４-１-２ メインメニュー、サブメニューマップ *115*

１４-１-３ システム *116*

１４-１-４ ネットワーク *127*

１４-１-５ デバイス *134*

１４-１-６ イベント *148*

１４-１-７ 録画 *155*

１４-１-８ 出荷時設定 *157*

１４-２ ロック 161

１４-２-１ 操作ロックの手順 *161*

１４-２-２ 操作ロック解除の手順 *161*

１４-３ ログアウト 161

１４-４ 電源オフ 161

１４-５ 再起動 162

１５ 遠隔モニタリング 163

１５-１ 接続の種類とできること 163

１５-２ PC からの接続 163

１５-２-１ *ActiveX Webviewer（InternetExplorer）* *163*

１５-２-２ *HTML5 Webviewer（Google Chrome）* *177*

１５-２-３ *Control Center（Windows アプリケーション）* *185*

１５-３ スマートフォンからの接続 185

１５-３-１ *Web Eye（iOS）* *185*

１５-３-２ *Web Eye（Android）* *185*

１６ 外形寸法 186

１７ 仕様 190

1 はじめに

この「取扱説明書」では、本製品を安全に設置していただくと同時に、本製品をご使用になる方や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するための、守っていただきたい事項を下記の「シンボルマーク」で表示しています。この「シンボルマーク」の意味を十分にご理解のうえ、この「取扱説明書」をお読みいただくようお願い申し上げます。

表　示	意　　味
⚠ **警 告**	**このシンボルマークの欄は、「死亡または重傷を負う可能性がある」場合を示しています。**
⚠ **注 意**	**このシンボルマークの欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性がある」場合を示しています。**

お守りいただく内容の種類を、次のシンボルマークで区分し、説明しています。

表　示	意　　味
⃠	このシンボルマークは、してはいけない「禁止」内容です。
❗	このシンボルマークは、必ず実行していただく「強制」内容です。
要　点	正しい設置の仕方や点検上のポイントを示しています。

- **本書は、ご使用になるお客様に必ずお渡しください。**
- **保証書には、必要事項を記入してお客様にお渡しください。**
- **定期点検は必ず実施してください。**
- **消耗部品は定期的に交換してください。**

商標及び登録商標について

Microsoft、InternetExplorer、Windows®、Windows7®、Windows8®、Windows8.1®、Windows10®は米国MicrosoftCorporation および日本マイクロソフト株式会社の登録商標です。
イーサネットは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。
iPhone、iPad は米国AppleInc. およびApplejapan 合同会社の商標または登録商標です。
iPhone 商標は、アイホン株式会社のライセンスに基づき使用されています。
Google、Android は、米国GoogleInc. およびGoogle 株式会社の商標または登録商標です。
UPnP は、米国UPnPImplementersCorporation の商標です。
その他、本書に記載されている各会社名および各商品名は、各会社の商標または登録商標です。

2 本製品を正しく取り扱っていただくために

⚠警 告	
⃠	分解・改造は、本製品の性能や機能を損ないます。 分解・改造の結果、火災や感電、故障が起きる可能性があります。 分解・改造をしないでください。
⃠	水などの液体が本製品の内部に入ると、本製品の機能が損なわれます。 それにより本製品からの火災や感電、故障が起きる可能性があります。 水などの液体をかけないでください。
⃠	本製品内部に金属、紙その他の異物が入ると本製品の機能が損なわれます。 それにより本製品からの火災や感電、故障が起きる可能性があります。 通風孔などから本製品内部に異物を入れないでください。
⃠	本製品の通風孔および排気孔をふさぐと、内部に熱がこもります。 それにより本製品からの火災や感電、故障が起きる可能性があります。 通風孔はふさがないでください。
⃠	故障や異常を放置したまま使用すると、本製品の性能や機能を損ないます。 故障の拡大や予期せぬ事故が発生する可能性があります。 このような場合はただちに使用を中止して、お買い上げの販売店にお申し出ください。 そのまま使用すると、故障の拡大や思わぬ事故の原因となります。

⚠注 意	
⃠	本製品内部にはハードディスクが内蔵されています。 ハードディスクに衝撃や振動を与えると故障の原因となります。 強い衝撃や振動を与えないでください。
⃠	本製品の電源をオフにしてから約20 秒間は内部機器が作動し続けている場合があります。 内部機器が作動中に本製品を移動すると故障の原因となります。 電源をオフにした後約 20 秒間は本製品を移動しないでください。

設置の際にお守りいただく内容

⚠警 告	
⃠	本製品は屋内設置専用です。 屋外に設置すると、風雨や雷により本製品からの火災や感電、故障が起きる可能性があります。 屋外には設置しないでください。
⃠	直射日光や雨の当たる場所に設置すると、本製品の性能や機能を損ないます。 それにより本製品からの火災や感電、故障が起きる可能性があります。 直射日光や雨の当たる場所に設置しないでください。
⃠	本製品はAC100V 専用です。 AC100V 以外の電源電圧で使用すると、火災や感電、故障の原因となります。 本製品をAC100V 以外の電源電圧で使用しないでください。

⚠注 意	
⃠	本製品には使用温度範囲および使用湿度範囲が定められています。 使用温度範囲および使用湿度範囲を超える場所に本製品を設置すると故障の原因となります。 本製品を使用温度範囲および使用湿度範囲を超える場所に設置しないでください。
⃠	本製品に強い衝撃や振動を与えると、性能や機能を損ないます。 その結果、故障や破損に至る可能性があります。 強い衝撃や振動が発生する場所に設置しないでください。
⃠	本製品は水平設置を前提に設計されています。 本製品を水平に設置しなかった場合、故障の原因となります。 本製品が水平にならない場所には設置しないでください。
⃠	本製品を磁石や強い磁気の発生する機器の近くで使用すると、性能や機能を損ないます。 誤作動や故障を起こす可能性があります。 磁石や強い磁気の発生する機器の近くに設置しないでください。
⃠	本製品を風通しの悪い場所で使用すると、内部に熱がこもります。 それにより本製品からの火災や感電、故障が起きる可能性があります。 本製品から壁面までは背面15cm 以上、左右それぞれ5cm 以上の間隔を確保し、風通しの良い場所に設置してください。
⃠	電気的ノイズや電磁波は本製品の性能や機能を損ないます。 誤作動や故障を起こす可能性があります。 携帯電話や無線機、電子レンジなどの電磁波を発生するものの近くに設置しないでください。
⃠	本製品を腐食性ガスや粉じんの多い場所で使用すると、性能や機能を損ないます。 そのまま使用を続けると、故障や寿命低下の可能性があります。 腐食性ガスや粉じんが多量に発生する場所には設置しないでください。
❗	設置場所の強度が不足していると、本製品が脱落します。 その結果、本製品の変形や故障、けがの可能性があります。 強度不足の場所には設置しないでください。
❗	本製品は雷サージへの対策はされておりません。 雷サージを受けると本製品からの火災や感電、故障が起きる可能性があります。 本製品に接続するカメラ・集音マイクなどの配線に屋外配線が含まれる場合は、地中配管による配線や市販の雷サージアブソーバを接続するなどの対策をして、機器の保護をしてください。
❗	本製品は内部冷却のため、ファンが常時回転しています。 ファンの音は場合によって他の人に不快感を与える場合があります。 ファンの音が聞こえると問題のある場所（寝室や居間、静かな事務所など）には設置しないでください。

工事・保守点検の際にお守りいただく内容

⚠警 告	
⃠	電源を、数多く分岐するタコ足配線状のタップなどから取ると、電圧の不安定化や配線の過熱などが起きます。 火災・故障・誤動作の原因となります。 本製品の電源は、必ず壁面のコンセントまたは専用の電源ボックスから直接取ってください。
⃠	電源を入れたまま工事・配線をすると、本製品の機能が損なわれます。 それにより本製品からの火災や感電、故障が起きる可能性があります。 電源を入れたまま工事・配線をしないでください。
⃠	雷のときは、直撃や側撃を受けることがあります。 それにより本製品からの火災や感電、故障が起きる可能性があります。 雷のときは工事・配線をしないでください。
❗	本製品の電源を他機器（カメラ用電源装置など）のサービスコンセントから取ると、電圧の不安定化や配線の過熱が起きます。 故障や誤動作の原因となります。 本製品の電源は、必ず壁面のコンセントまたは専用の電源ボックスから直接取ってください。
❗	本製品に内蔵されているハードディスクおよび冷却ファンは消耗品です。 メンテナンスを受けずに長期間使い続けると、突然の故障につながります。 本製品の安定動作のため、定期的な点検の実施および交換をお勧めします。 定期交換の目安は２～3 年です。
❗	HDD 内の録画データー、ならびにバックアップデーターについては、いかなる場合でも保証・修理の対象外となります。
❗	服装によっては人体に静電気が蓄積している場合があります。 静電気は機器の故障や誤作動の原因となります。 工事・点検の前には、必ず金属部分などに触れて、体の静電気を除去してください。

⚠注 意	
❗	すべての人には、自己の容貌などをみだりに撮影されたり、公表されたりすることのない自由があり、プライバシーに関する権利の一つとして憲法13 条（個人の尊重）により保障されています。集音される音声についても同様です。 カメラ・マイクの設置の際は、個人のプライバシーを侵害することがないよう、十分にご注意ください。また、「隠し撮り」とならないよう、防犯カメラが設置されていることを表示するなどのご配慮をお願いします。
❗	使用するネットワーク（回線事業者、プロバイダを含みます）やブロードバンドルーター、ADSL モデムなど、ネットワークを構成する機器の状態によっては、本製品との通信ができない場合があります。 その点をご理解いただいたうえでご使用ください。

⚠注 意	
❗	本製品をインターネット接続環境でご使用になる場合は、インターネット接続機器（ブロードバンドルーターなど）の接続設定または動作仕様が、常時接続であることが必要です。 常時接続でない場合、正常に通信できないなどの原因になります。 インターネット接続環境でご使用になる場合は、常時接続の環境でご使用ください。
❗	本製品に遠隔地からインターネット経由でアクセスするためには、本製品のネットワーク設定のほかに、ブロードバンドルーターのポート解放などの設定が必要になる場合があります。 ブロードバンドルーターの設定について不明な点は、ブロードバンドルーターの説明書をお読みいただくか、購入先もしくはブロードバンドルーターのメーカーにお問い合わせください。
❗	本製品が提供する無料のDDNS サービス（mycam.to）は、メンテナンスその他の要因により予告なくサービスの提供を停止することがあります。 ご了解いただける場合のみご利用ください。 確実な接続が求められる場合には、本製品を接続する回線に固定IP アドレスをご用意ください。
❗	本製品が提供する無料の接続情報管理サービス（WRS）は、メンテナンスその他の要因により予告なくサービスの提供を停止することがあります。 ご了解いただける場合のみご利用ください。 確実な接続が求められる場合には、本製品を接続する回線に固定IP アドレスをご用意ください。
❗	本製品には工場出荷時に管理者用IDとパスワードが登録されていて、本書内にはそれらの初期値が記載されています。 初期値のまま使用すると、不正なアクセスによる画像・音声・情報の閲覧、漏洩につながる恐れがあります。 管理者用IDとパスワードは必ず工場出荷時の初期値から変更してご使用ください。
❗	本製品は、電磁波の放射について業務用環境で使用する前提で設計されています。 設置環境によっては、本製品から生じる電磁波によりラジオ等の機器に影響を与える可能性があります。 設置環境には十分にご注意いただき、場合によっては本製品の使用を中止してください。
❗	何らかの異常にお気付きの場合、速やかにお買い上げの販売店にご相談ください。

ご使用の際にお守りいただく内容

⚠注 意	
⊘	本製品の設定情報および録画した画像・音声などの利用情報は、お客様の責任管理下にあります。 お客様およびお客様が許可した利用者以外の第三者が情報に触れることのないよう、十分にご注意ください
❗	何らかの異常にお気づきの場合、速やかにお買い上げの販売店にご相談ください。
❗	本製品へ接続する際に使用するブラウザーは、InternetExplorer®11 以降（日本語版）、もしくはGoogle Chrome（日本語版）をご使用ください。

3 製品の特徴

- **4M/4K 録画機能（ADX2016 のみ対応）**
  フル HD（1920×1080）を超える 4M（2560×1440）、4K（3840×2160）の高精細映像を録画できます（録画できるカメラの数などに条件があります、条件についてはこの取扱説明書本文をご覧ください）。

- **ハイブリッド録画機能（ADX1004/ADX1008 のみ対応）**
  EX-SDI（HD-SDI）に加え、CVBS のカメラも接続・録画できます。

- **TDM ハブ対応（ADX2016 のみ対応）**
  TDM ハブを利用することで、最大 8 台の EX-SDI カメラを 1 本の同軸ケーブルで本製品に接続できます。

- **長時間録画**
  ADX2016 に HDD 増設ユニット「NS04R」を接続（最大 8 台）することで長時間の録画ができます。

- **高信頼性**
  ADX2016 本体と HDD 増設ユニット「NS04R」はハードディスクを RAID 構成にできます（RAID1/ 5/ 10 対応）。

- **多彩な検索機能**
  日時検索、カレンダー検索、イベント検索、サムネイル検索、ブックマーク検索と多彩な検索方式で、目的の映像に素早くアクセスできます。

- **録画データーの取り出し**
  録画映像を簡単な手順で USB メモリーにコピー（バックアップ）して取り出すことができます。

- **アラーム入力機能**
  センサーや押しボタンなどの接点入力をトリガーに録画を開始したり、イベントを記録したりすることができます。

- **アラーム出力機能**
  アラーム入力、モーション検知、ビデオロス、HDD 異常などから任意の情報を選んで接点出力し、フラッシュやサイレンなどを動作させたり、そのほかの機器に情報を伝達したりすることができます。

- **遠隔監視機能**
  インターネットを経由して、遠隔地からライブ画面の監視や録画映像の再生などを行うことができます。
  Windows PC、スマートフォン（iOS/Android）に対応しています。

4 同梱品

開梱時、以下の同梱品がそろっているか、必ず確認してください。

同梱品一覧（レコーダー）

品名	数量		
	ADX1004	ADX1008	ADX2016
レコーダー本体	1	1	1
AC/DC アダプター	1	1	0
電源コード	1	1	1
ラック取り付け金具	0	0	2
ねじ（ラック取り付け金具用）	0	0	8
USB マウス（試供品）	1	1	1
リモコン	1	1	1
単 4 型乾電池（試供品）	2	2	2
ソフトウェア・取扱説明書 CD	1	1	1
クイックマガイド（インストール/ユーザー）	1	1	1
保証書	1	1	1

同梱品一覧（NS04R HDD 増設ユニット）

品名	数量
HDD 増設ユニット本体	1
電源コード	1
ラック取り付け金具	2
ねじ（ラック取り付け金具用）	10
LAN ケーブル	1
保証書	1

弊社ホームページよりダウンロードできるマニュアル類

弊社ホームページから、以下のマニュアル類がダウンロードできます。

- 取扱説明書
- 外形寸法図
- 集中監視ソフト Control Center（Windows PC 用）
- 録画時間表

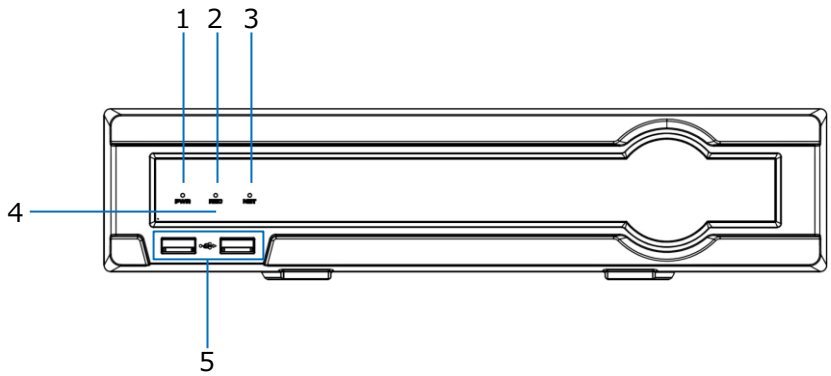
など。

[ダウンロード先]
弊社ホームページ（http://www.atsumi.co.jp）にアクセスし、「製品情報＞映像製品＞EX-SDI ソリューション＞デジタルレコーダー＞製品名（ADX1004/ADX1008/ADX2016）＞資料ダウンロード」からダウンロードしてください。

5 各部の名称と働き

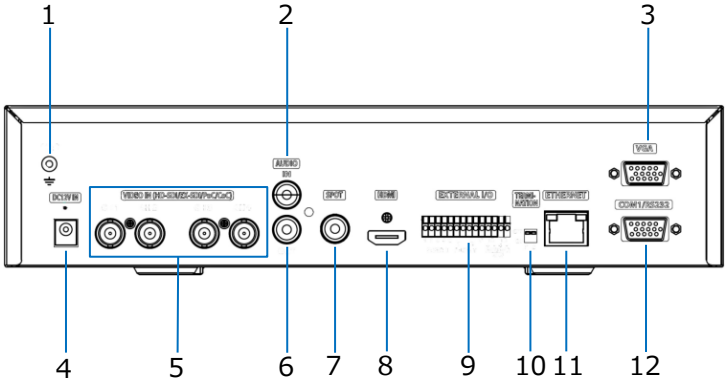
5 - 1 ADX1004

●前面



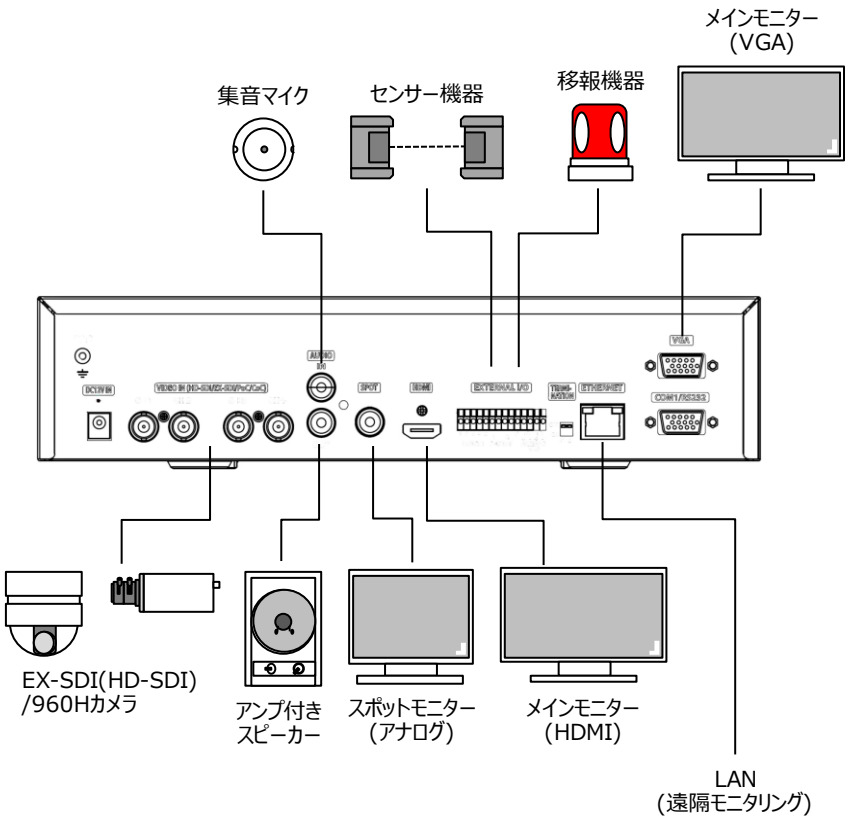
番号	名称	機能
1	PWR 電源灯（赤）	レコーダーに電源が供給されているとき、赤点灯します。
2	REC 録画灯（青）	録画中に青点灯します。
3	NET ネットワーク通信灯	ネットワーク通信中に、青点灯します。
4	リモコン受信部	リモコンからの信号を受信します。 リモコン受信部の前に物をおいたり、この部分にシールを貼ったりしないでください。リモコンからの信号を受信できなくなります。
5	USB ポート	USB メモリーや USB マウスを取り付けます。 （USB2.0 以降、消費電流 200mA 以下）

●背面



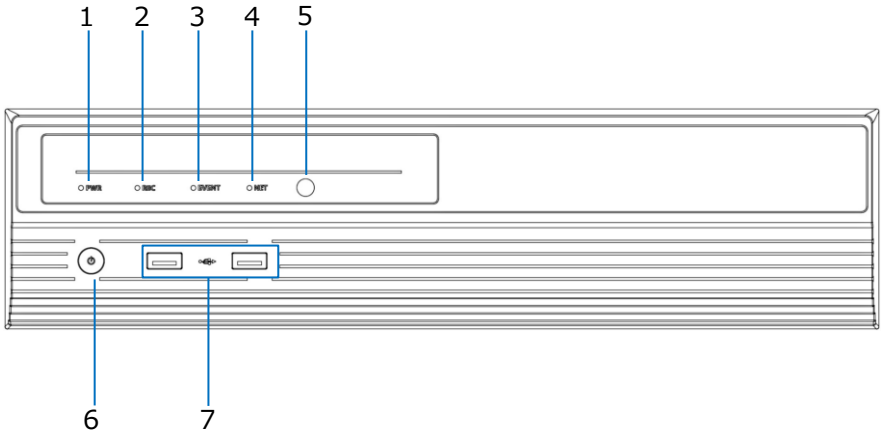
番号	名称	機能
1	GND（接地）端子	アース接続用端子です。
2	AUDIO IN（音声入力）端子	集音マイクを接続します（ラインレベル）。
3	VGA 端子	VGA モニターを接続します。
4	DC12V IN（電源）端子	電源アダプター接続用端子です。 必ず製品付属の電源アダプターを接続してください。
5	VIDEO IN（映像入力）端子	カメラ信号接続用端子です。 EX-SDI/HD-SDI/CVBS の信号に対応します。
6	AUDIO OUT（音声出力）端子	集音マイクの音声モニター、録画音声の確認用のアンプ付きスピーカーを接続します（ラインレベル）。
7	SPOT（スポット出力）端子	スポットモニターを接続します。 出力信号は CVBS です。
8	VIDEO OUT（映像出力）端子	HDMI モニターを接続します。
9	EXTERNAL OUT（外部出力）端子	センサー入力（無電圧接点）、リレー出力（DC24V/0.5A）、RS485（COM2/COM3）をまとめた複合端子台です。
10	TERMINATION（終端抵抗）スイッチ	RS485（COM2/COM3）の終端抵抗を設定します。 レコーダーがRS485の終端になるときは、スイッチをONにします。
11	ETHERNET 端子	ネットワーク接続のための LAN ケーブルを接続します。 **要　点** ・ LAN ケーブルはカテゴリー6 以上のものを使用してください。 ・ ハブはギガビット対応のスイッチングハブを使用してください。
12	COM1/RS232C 端子	使用しません。

●システム構成イメージ


メインモニター
(VGA)
集音マイク
センサー機器
移報機器
EX-SDI(HD-SDI)
/960Hカメラ
アンプ付き
スピーカー
スポットモニター
(アナログ)
メインモニター
(HDMI)
LAN
(遠隔モニタリング)

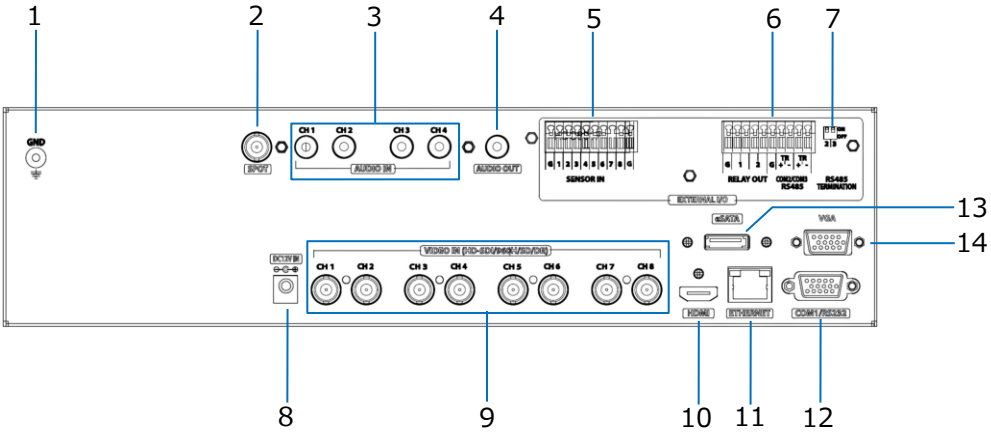
5 - 2 ADX1008

●前面



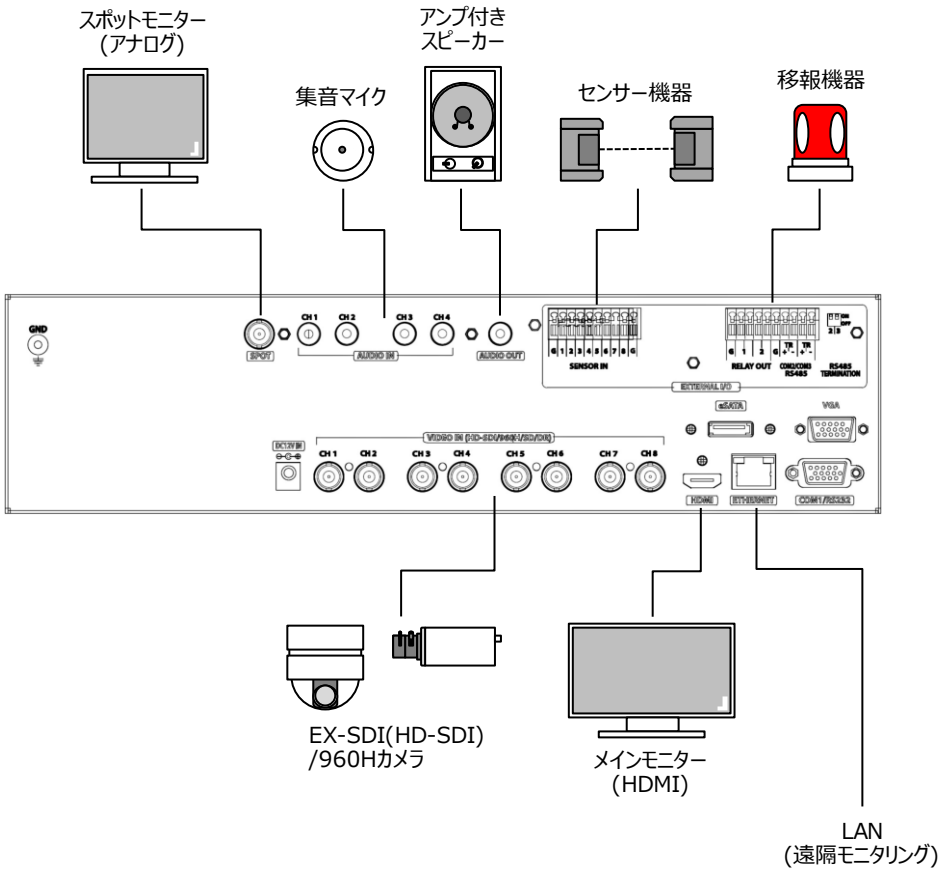
番号	名称	機能
1	PWR 電源灯（赤）	レコーダーに電源が供給されているとき、赤点灯します。
2	REC 録画灯（青）	録画中に青点灯します。
3	EVENT イベント灯（青）	イベントが発生したとき、青点灯します。
4	NET ネットワーク通信灯	ネットワーク通信中に、青点灯します。
5	リモコン受信部	リモコンからの信号を受信します。 リモコン受信部の前に物をおいたり、この部分にシールを貼ったりしないでください。リモコンからの信号を受信できなくなります。
6	電源ボタン	電源をオン／オフします。
7	USB ポート	USB メモリーや USB マウスを取り付けます。 （USB2.0 以降、消費電流 200mA 以下）

●背面



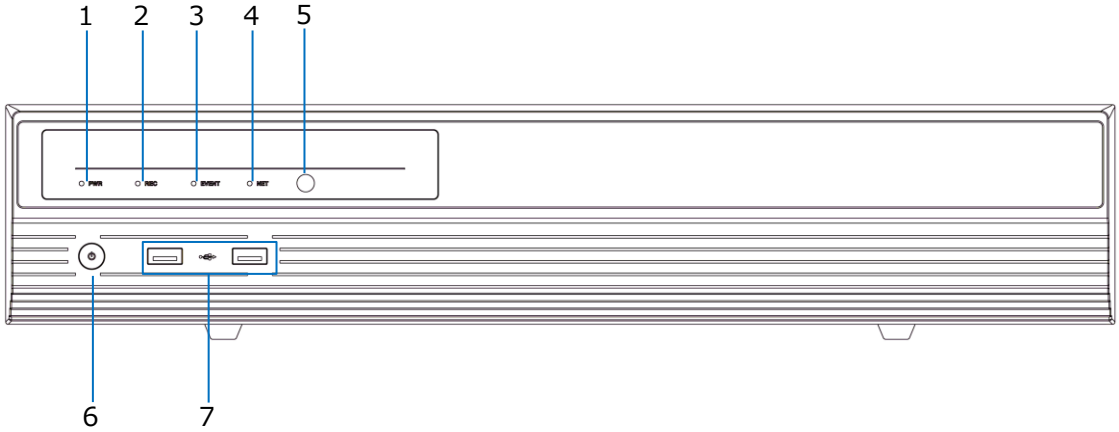
番号	名称	機能
1	GND（接地）端子	アース接続用端子です。
2	SPOT（スポット出力）端子	スポットモニターを接続します。 出力信号は CVBS です。
3	AUDIO IN（音声入力）端子	集音マイクを接続します（ラインレベル）。
4	AUDIO OUT（音声出力）端子	集音マイクの音声モニター、録画音声の確認用のアンプ付きスピーカーを接続します（ラインレベル）。
5	SENSOR IN（センサー入力）端子ブロック	センサー等、センサーイベント発生用機器を接続します（無電圧接点）。
6	RELAY OUT（リレー出力）、RS485 端子ブロック	リレー出力（DC24V/0.5A）、RS485（COM2/COM3）をまとめた複合端子台です。
7	TERMINATION（終端抵抗）スイッチ	RS485（COM2/COM3）の終端抵抗を設定します。 レコーダーがRS485の終端になるときは、スイッチをONにします。
8	DC12V IN（電源）端子	電源アダプター接続用端子です。 必ず製品付属の電源アダプターを接続してください。
9	VIDEO IN（映像入力）端子	カメラ信号接続用端子です。 EX-SDI/HD-SDI/CVBS の信号に対応します。
10	VIDEO OUT（映像出力）端子	HDMI モニターを接続します。
11	ETHERNET 端子	ネットワーク接続のための LAN ケーブルを接続します。 **要　点** ・ LAN ケーブルはカテゴリー6 以上のものを使用してください。 ・ ハブはギガビット対応のスイッチングハブを使用してください。
12	COM1/RS232C 端子	使用しません。
13	eSATA 端子	使用しません。
14	VGA 端子	VGA モニターを接続します。

●システム構成イメージ


スポットモニター
(アナログ)
集音マイク
アンプ付き
スピーカー
センサー機器
移報機器
EX-SDI(HD-SDI)
/960Hカメラ
メインモニター
(HDMI)
LAN
(遠隔モニタリング)

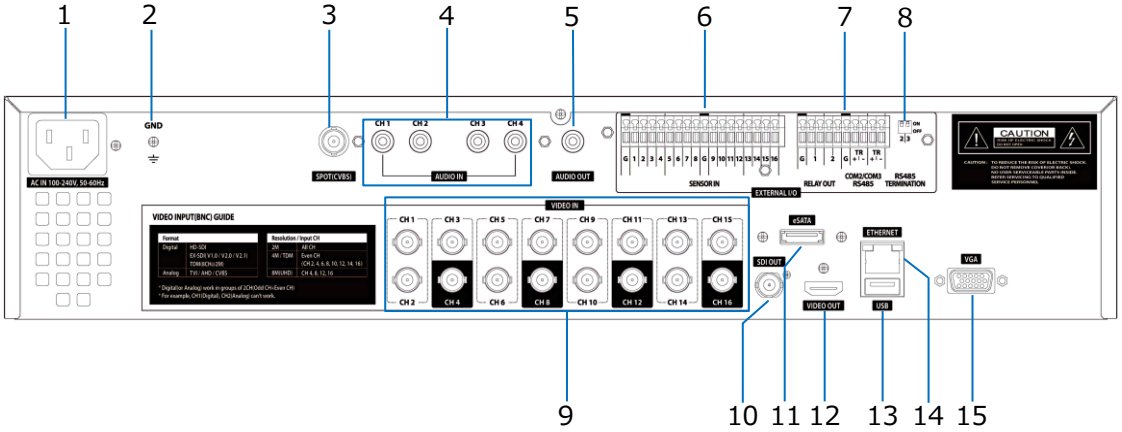
5 - 3 ADX2016

●前面



番号	名称	機能
1	PWR 電源灯（赤）	レコーダーに電源が供給されているとき、赤点灯します。
2	REC 録画灯（青）	録画中に青点灯します。
3	EVENT イベント灯（青）	イベントが発生したとき、青点灯します。
4	NET ネットワーク通信灯	ネットワーク通信中に、青点灯します。
5	リモコン受信部	リモコンからの信号を受信します。 リモコン受信部の前に物をおいたり、この部分にシールを貼ったりしないでください。リモコンからの信号を受信できなくなります。
6	電源ボタン	電源をオン／オフします。
7	USB ポート	USB メモリーや USB マウスを取り付けます。 （USB2.0 以降、消費電流 200mA 以下）

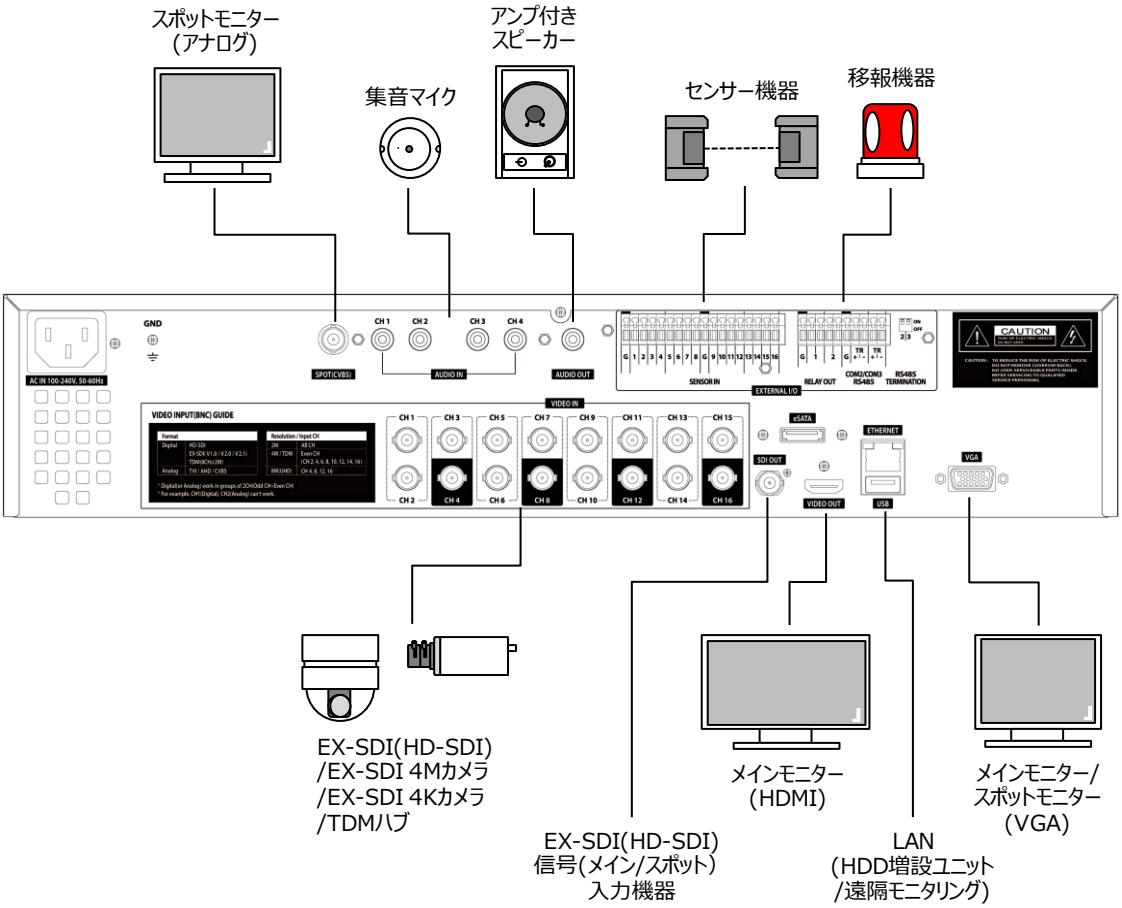
●背面



番号	名称	機能
1	電源端子	電源コードを接続します。
2	GND（接地）端子	アース接続用端子です。
3	SPOT（スポット出力）端子	スポットモニターを接続します。 出力信号は CVBS です。
4	AUDIO IN（音声入力）端子	集音マイクを接続します（ラインレベル）。
5	AUDIO OUT（音声出力）端子	集音マイクの音声モニター、録画音声の確認用のアンプ付きスピーカーを接続します（ラインレベル）。
6	SENSOR IN（センサー入力）端子ブロック	センサー等、センサーイベント発生用機器を接続します（無電圧接点）。
7	RELAY OUT（リレー出力）、RS485 端子ブロック	リレー出力（DC24V/0.5A）、RS485（COM2/COM3）をまとめた複合端子台です。
8	TERMINATION（終端抵抗）スイッチ	RS485（COM2/COM3）の終端抵抗を設定します。 レコーダーがRS485の終端になるときは、スイッチをONにします。
9	VIDEO IN（映像入力）端子	カメラ信号接続用端子です。 EX-SDI/HD-SDI/TDM ハブの信号に対応します。
10	SDI OUT（EX-SDI 出力）	メイン画面、スポット画面を EX-SDI/HD-SDI 信号で出力します。VGA 端子と排他利用です。
11	eSATA 端子	使用しません。
12	VIDEO OUT（映像出力）端子	HDMI モニターを接続します。
13	USB ポート	USB メモリーや USB マウスを取り付けます。 （USB2.0 以降、消費電流 200mA 以下）

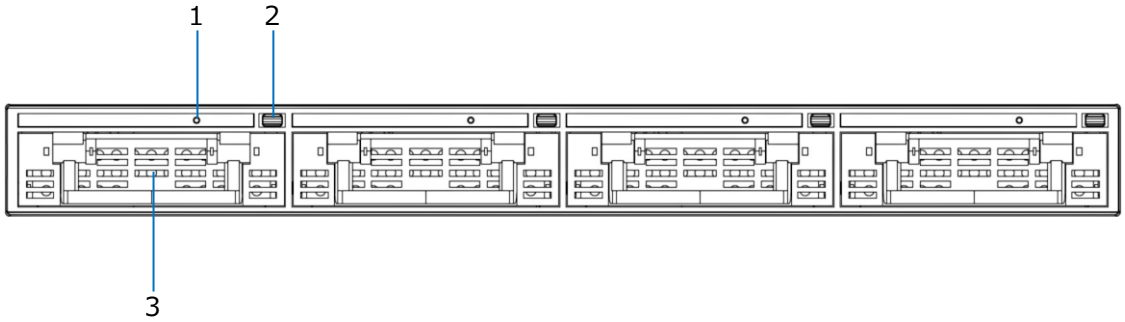
番号	名称	機能
14	ETHERNET 端子	ネットワーク接続のための LAN ケーブルを接続します。 HDD 増設ユニットの LAN ケーブルもここに接続します。 ネットワーク接続と HDD 増設ユニットの接続を両方行う場合は、この端子にハブを接続して、ハブ経由で行います。 **要　点** ・ LAN ケーブルはカテゴリー6 以上のものを使用してください。 ・ ハブはギガビット対応のスイッチングハブを使用してください。
15	VGA 端子	VGA モニターを接続します。メイン画面、スポット画面を出力します。SDI OUT（EX-SDI 出力）と排他利用です。

●システム構成イメージ



5 - 4 NS04R（HDD 増設ユニット）

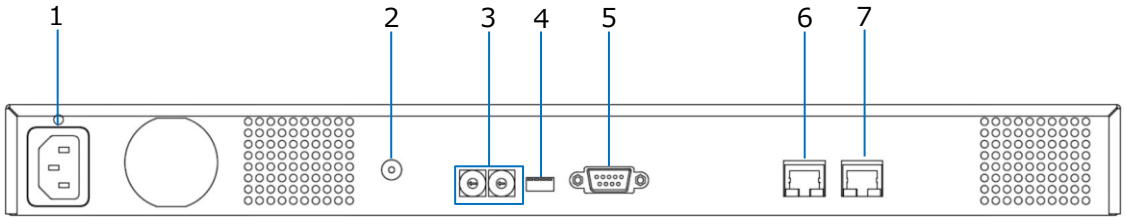
●前面



番号	名称	機能
1	HDD アクセス灯（緑/赤）	・ HDD 増設ユニットが正常動に動作しているとき、すべてのアクセス灯が緑点灯します。 ・ HDD 増設ユニットがレコーダーと接続されていないとき、アクセス灯が流れるように緑点滅します。 ・ HDD アクセス中は、アクセスが発生している HDD カートリッジに対応したアクセス灯が緑点滅します。 ・ HDD 増設ユニットに異常があるときは、異常が発生している HDD カードリッジに対応したアクセス灯が赤点灯します。 ・ HDD のリビルド中は、リビルトを行っている HDD カードリッジに対応したアクセス灯が赤点滅します。
2	HDD カートリッジ取り出しボタン	HDD カートリッジの取り外し、取り付けのときに使用します。
3	HDD カートリッジ	HDD をマウントするためのカートリッジです。

要　点
HDD カートリッジの取り外し、ならびに取り付けは NS04R の電源をオフにして行います。 NS04R がレコーダーに接続されている場合は、レコーダーも含めシステム全体の電源をオフにした状態で行うようにしてください。 レコーダーを含めシステム全体の電源オフ、電源オンの手順については、「7-4 電源オンの手順」「7-5 電源オフの手順」を参照してください。

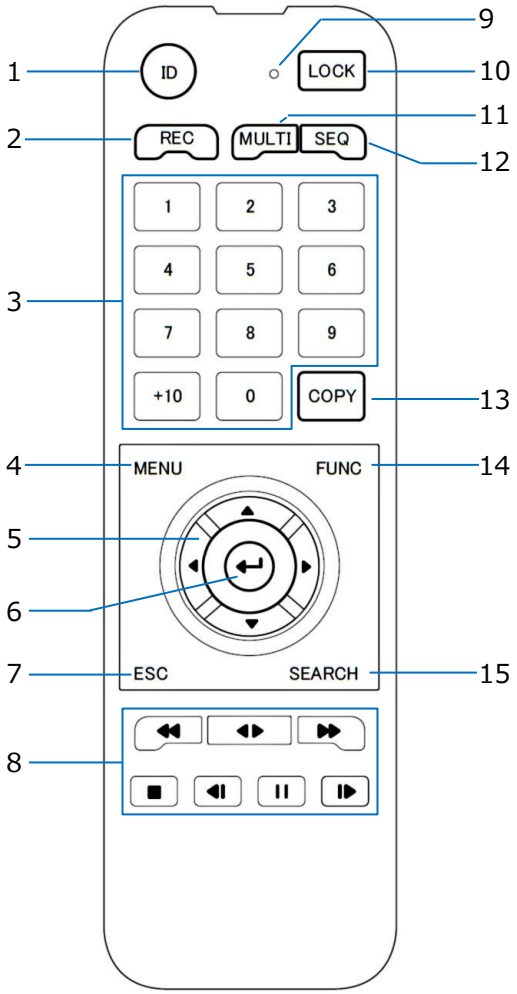
●背面



番号	名称	機能
1	電源端子	電源コードを接続します。
2	GND（接地）端子	アース接続用端子です。
3	ID 設定ダイヤル	HDD 増設ユニットのグループ ID と、グループ内での識別用 ID を設定します。
4	モードスイッチ	使用しません。必ず初期状態（1～4 すべて OFF）でご利用ください。
5	RS232C 端子	使用しません。
6	ETHERNET CASCADE 端子	HDD 増設ユニットを複数台接続するときに、増設側の HDD 増設ユニットの ETHERNET DVR 端子と LAN ケーブルで接続します。
7	ETHERNET DVR 端子	レコーダーの ETHERNET 端子と LAN ケーブルで接続します。レコーダーとの間に別の HDD 増設ユニットがあるときは、その HDD 増設ユニットの ETHERNET CASCADE 端子と LAN ケーブルで接続します。

要　点
・ LAN ケーブルはカテゴリー6 以上のものをご使用ください。

5 - 5 リモコン



番号	名称	機能
1	ID ボタン	操作するレコーダーを選択するときに使います。
2	緊急録画ボタン	ボタンを押すと緊急録画がスタートします。もう一度押すと確認画面が表示され［停止］を選ぶと緊急録画が停止します。
3	チャンネル選択ボタン	押した番号のカメラチャンネルが全画面表示になります。 10～16 のカメラチャンネルを選択するときは、[+10] → [0]（カメラチャンネル 10 のとき）のようにボタン操作をしてください。
4	MENU ボタン	メニュー画面を表示します。
5	方向ボタン	メニュー画面で［◀］［▶］ボタンを押すと、編集箇所が移動します。 数値入力欄で［▲］［▼］ボタンを押すと、数値が増減します。
6	決定ボタン	選択したメニュー項目を決定します。
7	ESC ボタン	実行している機能やメニュー画面を終了します。

<table>
<tr><th>番号</th><th>名称</th><th>機能</th></tr>
<tr><td>8</td><td>再生ボタン</td><td>録画再生に関する各種操作を行います。
<table>
<tr><th>ボタン</th><th>機能</th></tr>
<tr><td>◀◀</td><td>巻き戻し
ボタンを押すごとに 1 倍速→2 倍速→4 倍速→8 倍速→16 倍速→32 倍速→64 倍速の順に再生速度切り替わります。</td></tr>
<tr><td>◀▶</td><td>再生
ボタンを押すごとに通常再生と逆再生が切り替わります。</td></tr>
<tr><td>▶▶</td><td>早送り
ボタンを押すごとに 1 倍速→2 倍速→4 倍速→8 倍速→16 倍速→32 倍速→64 倍速の順に再生速度切り替わります。</td></tr>
<tr><td>■</td><td>停止（ライブ画面に戻る）</td></tr>
<tr><td>◀I</td><td>コマ戻し</td></tr>
<tr><td>II</td><td>一時停止</td></tr>
<tr><td>I▶</td><td>コマ送り</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>9</td><td>送信灯</td><td>リモコンから信号を送出したときに点灯します。</td></tr>
<tr><td>10</td><td>LOCK ボタン</td><td>レコーダーをロックして操作できないようにします。
再度操作を行うときは、パスワードの入力が必要となります。</td></tr>
<tr><td>11</td><td>MULTI ボタン</td><td>画面分割を切り替えます。</td></tr>
<tr><td>12</td><td>SEQ ボタン</td><td>カメラ画像を一定時間ごとに切り替えるシーケンス機能を開始します。</td></tr>
<tr><td>13</td><td>COPY ボタン</td><td>録画映像を USB メモリーにコピーする COPY 機能を開始します。</td></tr>
<tr><td>14</td><td>FUNC ボタン</td><td>ファンクションメニューを表示します。</td></tr>
<tr><td>15</td><td>SEARCH ボタン</td><td>検索・再生機能を開始します。</td></tr>
</table>

要　点

リモコンで操作するレコーダーを選択するには以下の手順でリモコンを操作してください。

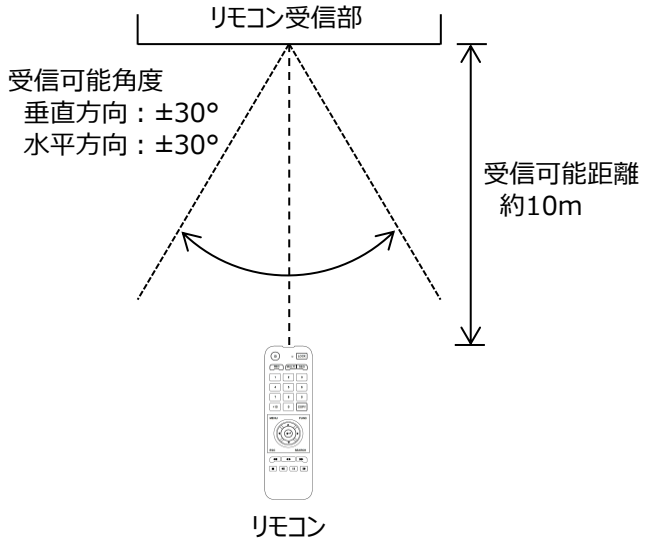
① 操作したいレコーダーにリモコンを向けて「ID ボタン」を押してレコーダーの画面上にリモコン ID を表示させます。

② リモコンをレコーダーに向けたまま、「チャンネル選択ボタン」で ID を入力します。

③ リモコンをレコーダーに向けたまま、もう一度「ID ボタン」を押す

要　点

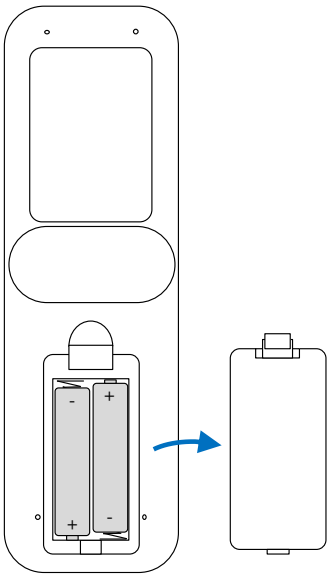
リモコンは、以下の条件内でご利用ください。



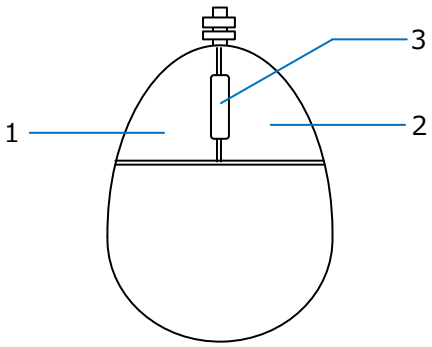
要　点

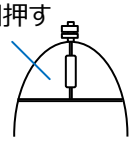
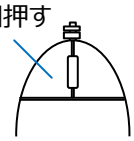
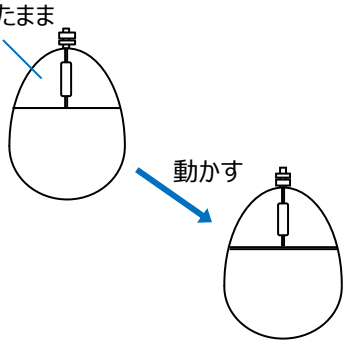
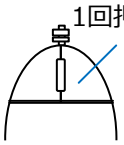
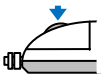
リモコンの電池は、リモコン裏側の電池ふたを取り外して取り付けます。プラス、マイナスを間違えないようご注意ください。

電池切れなどで電池の交換をする際は、「単四型乾電池（2 本）」をご用意ください。



5 - 6 マウス



番号	名称	機能	
1	左ボタン	クリック	1回押す 
		ダブルクリック	素早く 2回押す 
		ドラッグ	押したまま 
2	右ボタン	クリック	1回押す 
3	ホイール	回転	ホイールを回す
		クリック	ホイールを押し込む 

6 設置

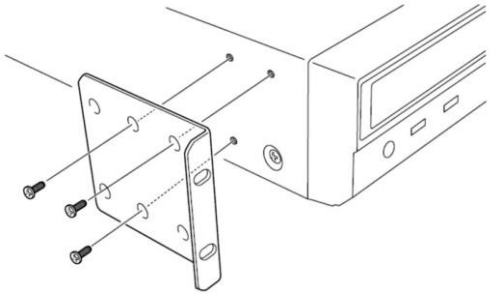
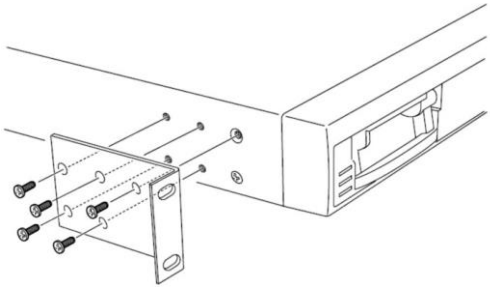
6 - 1 設置場所について

本製品の設置場所については、以下の点にご注意ください。

- 安定した水平な場所に設置してください。
- 冷却ファンの音が気になる場所（例：寝室や静かな事務所）を避けて設置してください。
- 腐食性ガスや粉じんが大量に発生する場所を避けて設置してください。
- 直射日光や雨の当たる場所や、使用温度範囲および使用湿度範囲を超える場所を避けて設置してください。
- 本製品から壁面までは、背面 15cm 以上、左右それぞれ 5cm 以上の間隔を確保してください。

6 - 2 ラックへの取り付けについて

ADX2016、ならびに NS04R にはラック取り付け金具が付属します。ラック取り付け金具を使用することで、19 インチラックに対応します（ADX1004・ADX1008 は 19 インチラックに対応しません）。

1	**ADX2016、NS04R の側面にラック取り付け金具を取り付ける。** ラック取り付け金具を同梱品のねじを使用して取り付けます。ラック取り付け金具は左右共通ですので、どちらにも取り付けられます。 ADX2016  NS04R  **要　点** ラック取り付け金具はレコーダーに確実に固定してください。固定が不充分な場合、レコーダーがラックから脱落する可能性があります。

2	**レコーダーをラックに取り付ける**

要　点
・　ラックへの取り付け方法についてはラックの説明書をお読みください。 ・　本製品にラックへの取り付け用ボルトやねじ類は付属しておりません。取り付けるラックに適合するものをご用意ください。

6 - 3 配線

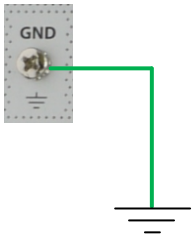
6 - 3 - 1 端子台に使用可能な線材

SENSOR IN（センサー入力）／RELAY OUT（リレー出力）／RS485 の各端子に使用可能な線材は以下の通りです。

線種	適合径	配線仕様
撚線	AWG22～26	被覆を 8～10mm 剥ぎ取り、はんだコートしてください。
単線	AWG20～26	被覆を 8～10mm 剥ぎ取ってください。

6 - 3 - 2 アースの接続

背面のアース端子にアース線を接続してください。

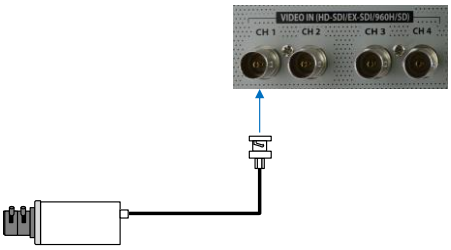


要　点
アース線は確実に接地してください。

6 - 3 - 3 カメラの接続

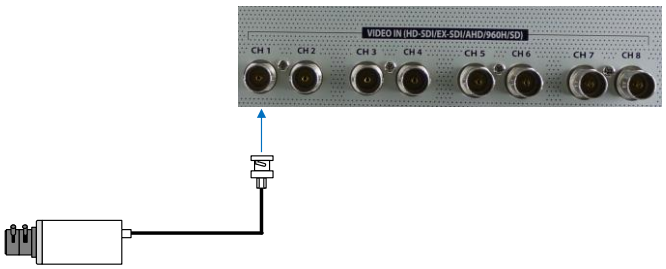
背面の VIDEO IN 端子にカメラを接続します。接続できるカメラの種類・台数は機種により異なりますのでご注意ください。

ADX1004



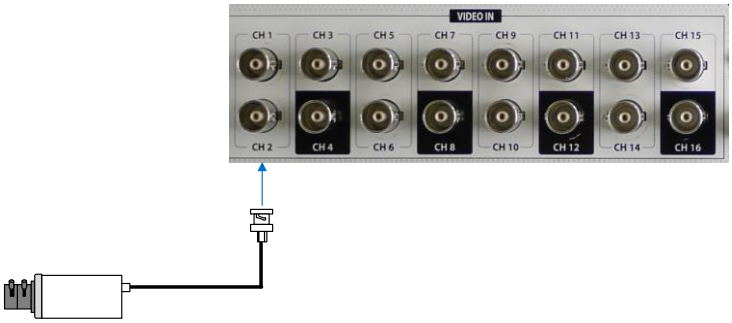
EX-SDI・HD-SDI・アナログのカメラを 4 台まで接続できます。

ADX1008



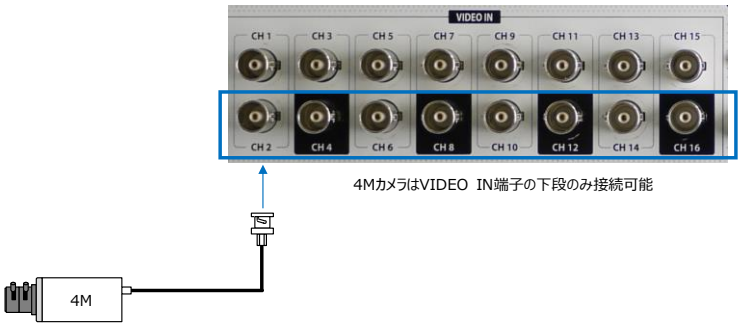
EX-SDI・HD-SDI・アナログのカメラを 8 台まで接続できます。

ADX2016　　＜EX-SDI･HD-SDI カメラの接続＞



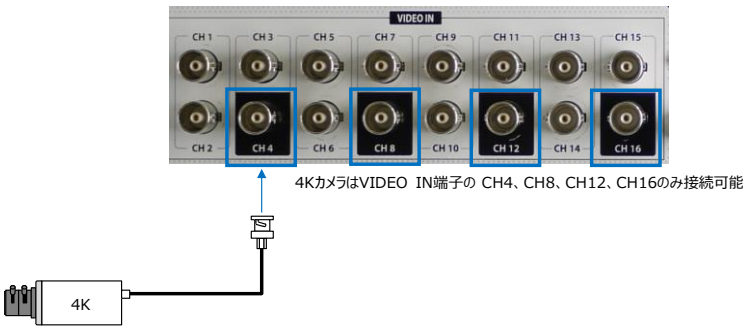
EX-SDI･HD-SDI のカメラを 16 台まで接続できます。すべての VIDEO IN 端子が使用できます。

＜EX-SDI(4M)カメラの接続＞



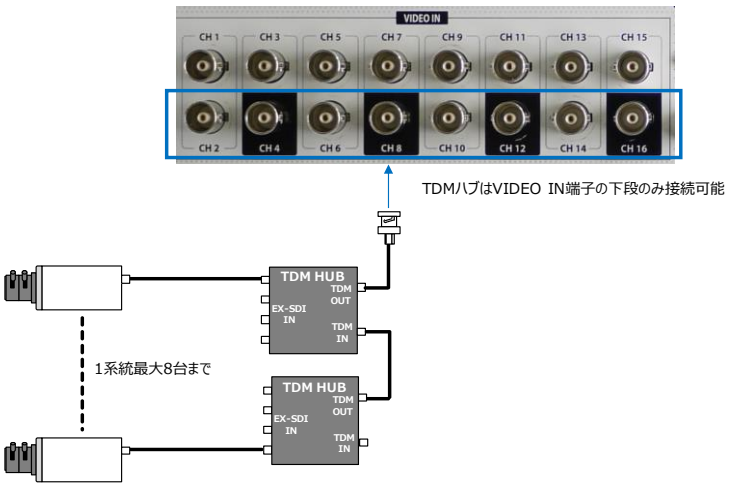
EX-SDI(4M)のカメラを 8 台まで接続できます。偶数 CH の VIDEO IN 端子が使用できます。
EX-SDI(4M)のカメラを接続する際は、ペアとなる奇数 CH（カメラを接続する CH の上段）にカメラを接続することはできません。

＜EX-SDI(4K)カメラの接続＞



EX-SDI(4K)のカメラを 4 台まで接続できます。VIDEO IN 端子の CH4、CH8、CH12、CH16 が使用できます。
EX-SDI(4K)のカメラを接続する際は、カメラを接続した CH の前 3 CH にカメラを接続することはできません（例：CH4 に 4 K カメラを接続すると、CH1～CH3 にはカメラを接続できません）。

＜TDM ハブの接続＞



TDM ハブを経由して EX-SDI カメラを 16 台まで接続できます。VIDEO IN 端子の CH2,4,6,8,10,12,14,16 が使用できます。
TDM ハブを接続する CH と、割り当て可能なカメラの台数、レコーダー上に表示する CH の関係は以下の通りです。

VIDEO IN （接続 CH）	TDM 数 （カメラ台数）	TDM ID	カメラチャンネル （表示する CH）
2	2	1,2	1,2
4	1	1	4
	2	1,2	3,4
	3	1～3	2～4
	4	1～4	1～4
6	2	1,2	5,6
	3	1～3	4～6
	4	1～4	3～6
	5	1～5	2～6
	6	1～6	1～6
8	2	1,2	7,8
	3	1～3	6～8
	4	1～4	5～8
	5	1～5	4～8
	6	1～6	3～8
	7	1～7	2～8
	8	1～8	1～8

VIDEO IN （接続 CH）	TDM 数 （カメラ台数）	TDM ID	カメラチャンネル （表示する CH）
10	2	1,2	9,10
	3	1～3	8～10
	4	1～4	7～10
	5	1～5	6～10
	6	1～6	5～10
	7	1～7	4～10
	8	1～8	3～10
12	2	1,2	11,12
	3	1～3	10～12
	4	1～4	9～12
	5	1～5	8～12
	6	1～6	7～12
	7	1～7	6～12
	8	1～8	5～12
14	2	1,2	13,14
	3	1～3	12～14
	4	1～4	11～14
	5	1～5	10～14
	6	1～6	9～14
	7	1～7	8～14
	8	1～8	7～14
16	2	1,2	15,16
	3	1～3	14～16
	4	1～4	13～16
	5	1～5	12～16
	6	1～6	11～16
	7	1～7	10～16
	8	1～8	9～16

要　点

TDM ハブに接続するカメラ側の RS485 ID はすべて 1 に設定してください。

6 - 3 - 4 映像信号と線材と配線距離

線材	最長配線距離（m）				
	4K/TDM	EX-SDI データー重畳あり	EX-SDI データー重畳なし	HD-SDI	アナログ （NTSC）
3C-2V	60	150	200	60	250
5C-2V	100	250	300	100	500
5C-FB	150	320	500	150	—

- 接続端子は 75Ωの BNC プラグをご使用ください。
- 配線の中継には 75Ωの BNC 中継アダプターをご使用ください（圧着・はんだ付けなどでは信号が正常に伝送できません）。

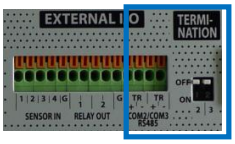
要　点

- 上の表に記載された数値は、配線を新規に敷設するときのものです。既存配線を利用する場合、配線の経年劣化などの要因により、上の表以下の配線距離でも信号を伝送できないことがあります。
- EX-SDI/HD-SDI は超高速デジタル映像信号です。配線距離が長い、または外乱ノイズなどの影響で信号レベルが一定以下になると、アナログ映像信号のように映像の乱れ・色抜けといった症状ではなく、映像が表示されない症状が発生します。

6 - 3 - 5 RS485 ケーブルの接続

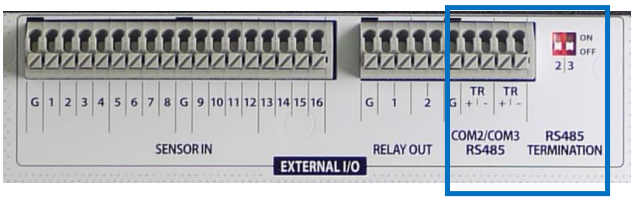
PTZ 機能対応カメラを接続する場合は、背面の COM2/COM3 RS485 端子ブロックの TR+/TR-に、カメラからの RS485 ケーブルを接続します（有極性）。接続するカメラごとに COM2、COM3 のどちらを使用するかの設定が可能です。

ADX1004

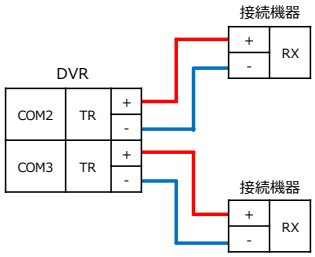


ADX1008

ADX2016



配線イメージ

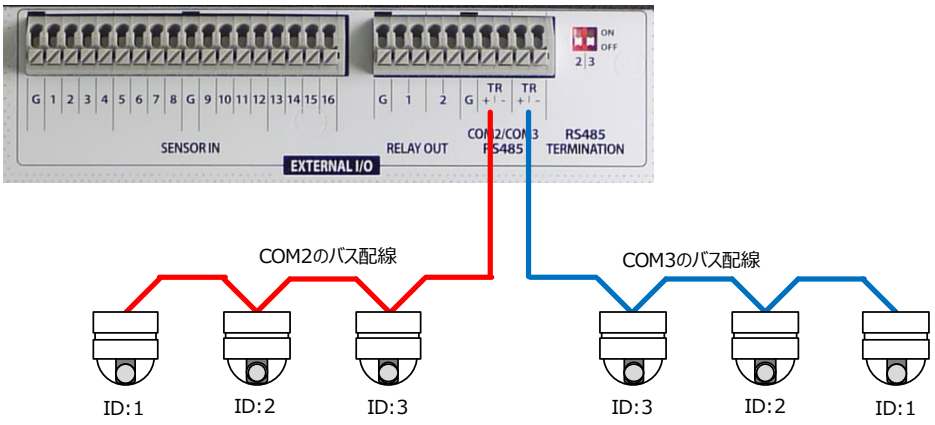


要　点

RS485 配線には、必ず CPEV-S などのツイストペアケーブルをご使用ください。

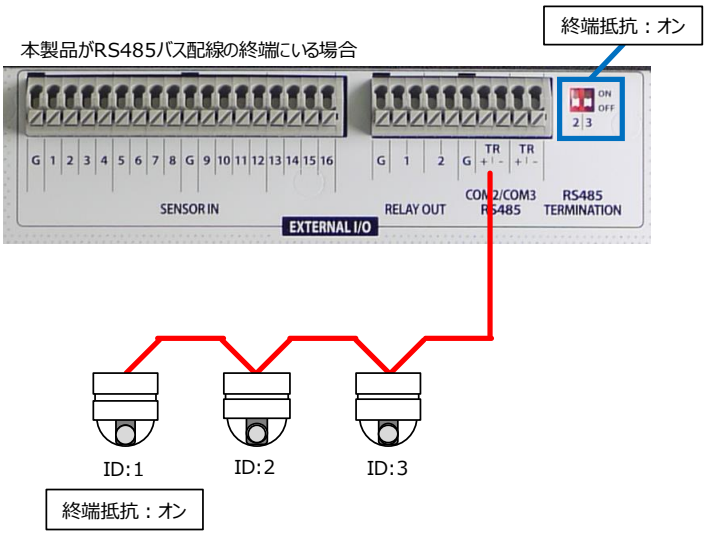
要　点

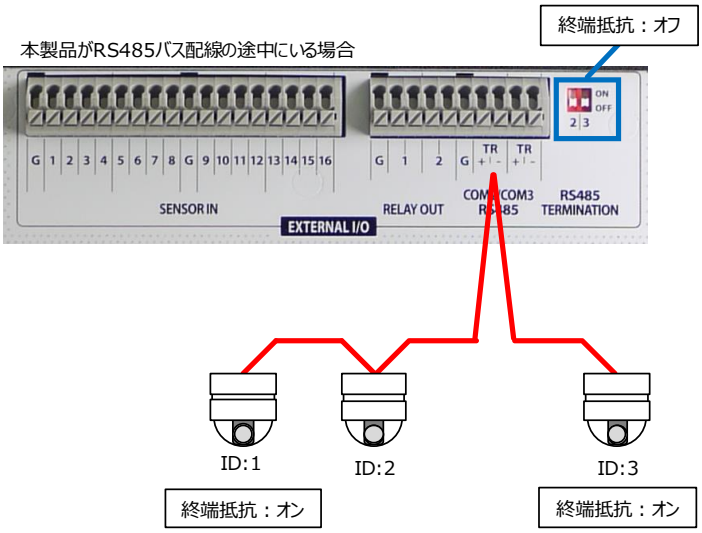
レコーダーに複数のカメラを接続する場合、COM2、COM3 の配線をそれぞれバス配線にしたうえで、カメラに対し ID を重複しないよう設定してください（COM2 と COM3 は別の RS485 となりますので、COM2 に接続したカメラと、COM3 に接続したカメラで同じ ID が発生することは問題ありません）。
カメラに ID を設定する方法についてはカメラの説明書を参照してください。



要　点

本製品が RS485 バス配線の終端になる場合は、DIP スイッチ「TREMI-NATION(ADX1004)」、「RS485 TERMINATION(ADX1008/ADX2016)」を ON 側にして終端抵抗を有効にしてください（SW2 が COM 2、SW3 が COM3 の終端抵抗です）。





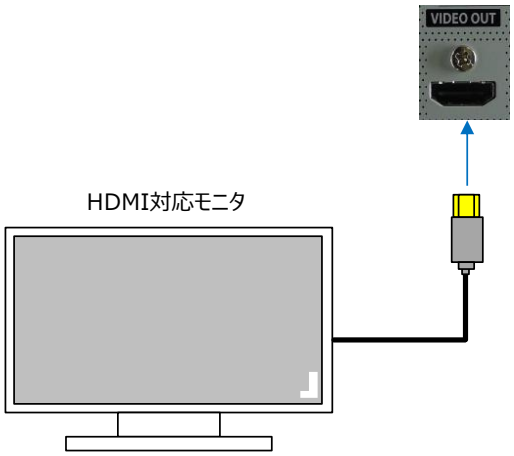
終端抵抗スイッチの ON/OFF 方向	
ADX1004	
ADX1008/ ADX2016	

6 - 3 - 6 モニターの接続 1（VIDEO OUT）

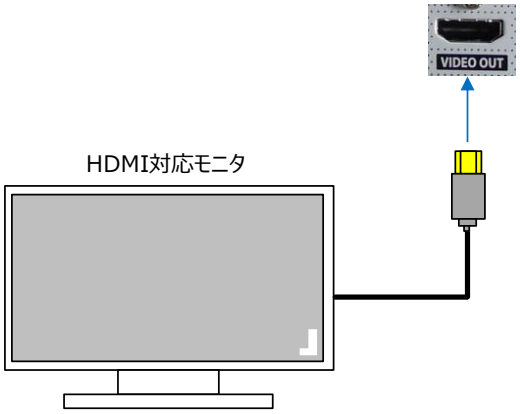
背面の VIDEO OUT 端子にメインモニターを接続します。

タイプ A の HDMI コネクター（オス）を備えたモニターを接続できます。

ADX1004



ADX1008/
ADX2016



要　点

VIDEO OUT 端子から出力される映像解像度は以下の通りです。

レコーダー名	映像解像度
ADX1004/ADX1008	1920×1080(60P)
ADX2016	1920×1080(60P)、3840×2160(30P) 初期値：1920×1080(60P)

要　点

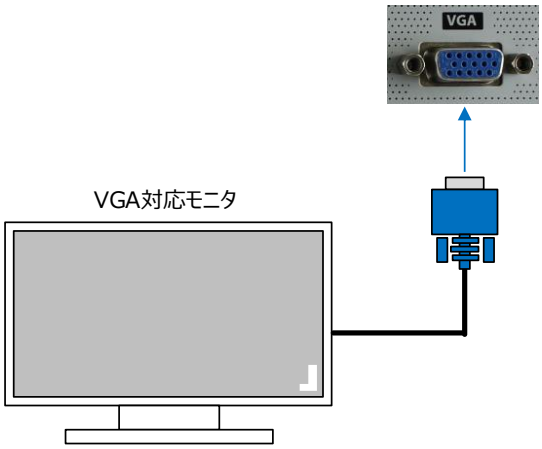
レコーダーの VIDEO OUT 端子の信号には音声信号が含まれます。

6 - 3 - 7 モニターの接続 2（VGA）

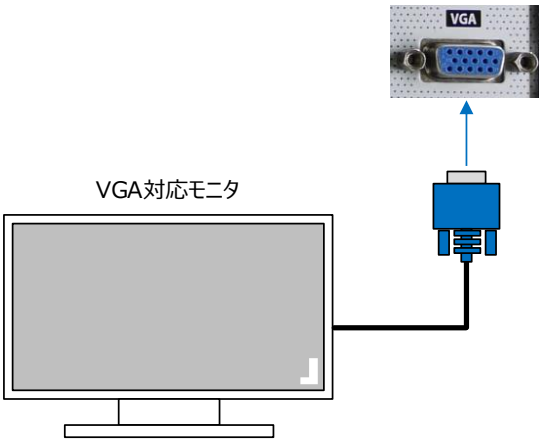
背面の VGA 端子にメインモニターを接続します。

VGA の D-Sub15 ピンコネクター（オス）を備えたモニターを接続できます。

ADX1004



ADX1008/
ADX2016



要　点

- ADX2016 の VGA 端子から出力される映像は、メイン/スポットから選択できます。
- ADX2016 は VGA 端子と SDI 端子のいずれかからのみ映像を出力できます。VGA 端子を使用する場合、SDI 端子から映像は出力されません。
- VGA 端子から出力される映像解像度は以下の通りです。

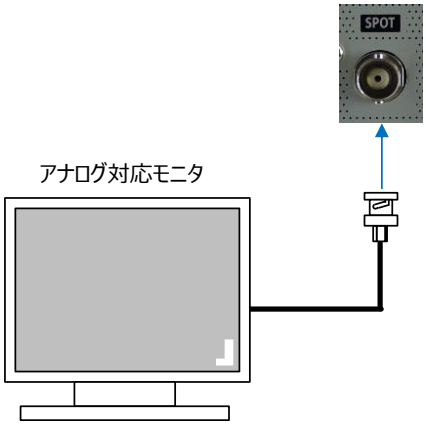
レコーダー名	映像解像度
ADX1004	1920×1080
ADX1008/ADX2016	1920×1080、1280×1024、1024×768、800×600 初期値：1920×1080 1280×1024、1024×768、800×600 の解像度を選択したとき、画面に表示される文字がややぼやけて見える場合がありますが正常です。本製品は 1920×1080 での利用を推奨しています。

6 - 3 - 8 モニターの接続 3（SPOT）

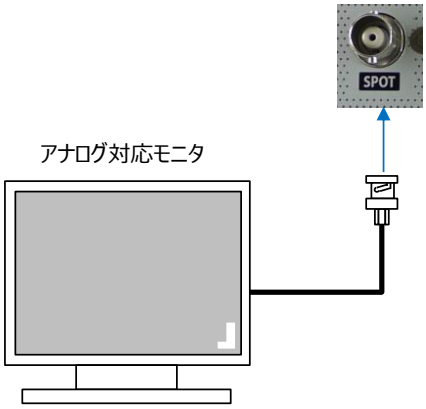
背面の SPOT 端子スポットモニターを接続します。

BNC プラグを備えたアナログモニターを接続できます。

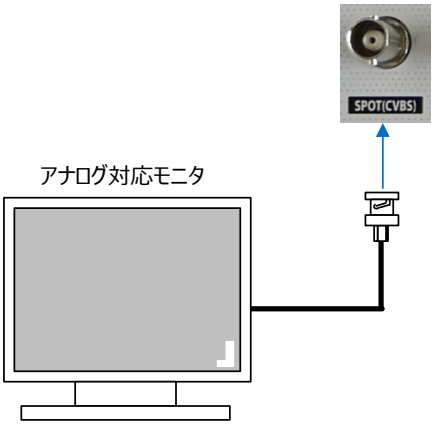
ADX1004



ADX1008



ADX2016

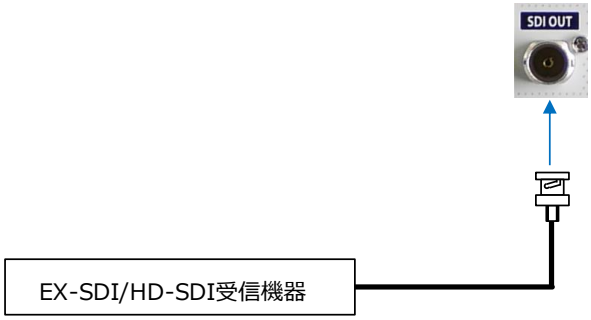


要　点
SPOT 端子から出力されるのはアナログ映像信号（NTSC）です。VIDEO OUT 端子や VGA 端子に接続したモニターと比べ荒い映像になります。映像信号の特性をご理解の上でご利用ください。

6 - 3 - 9 モニターの接続 4（SDI） ※ADX2016 のみ

背面の SDI OUT 端子に EX-SDI/HD-SDI 映像信号に対応する機器を接続します。
BNC（75Ω）プラグを備えた機器を接続できます。

ADX2016



要　点

- SDI 端子からの出力は HD-SDI/EX-SDI/EX-SDI Ver.2 から選択可能です。
- SDI 端子から出力される映像は、メイン/スポットから選択できます。
- SDI 端子と VGA 端子は、いずれかからのみ映像を出力できます。SDI 端子を使用する場合、VGA 端子から映像は出力されません。
- SDI OUT 端子から出力される映像解像度は以下の通りです。

レコーダー名	映像解像度
ADX2016	1920×1080

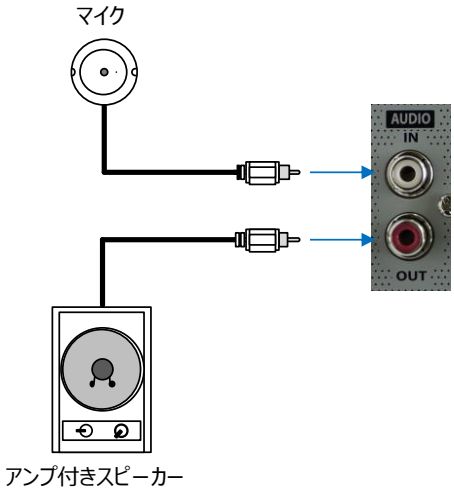
6-3-10 マイクおよびスピーカーの接続

背面の AUDIO IN 端子に集音マイクを接続します。入力信号はラインレベルです。

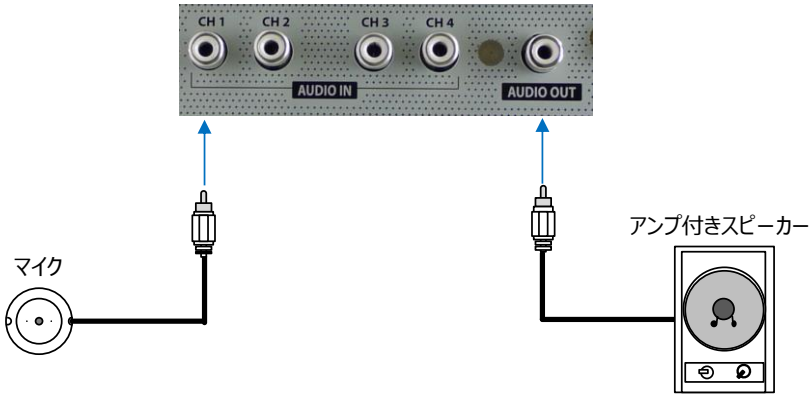
背面の AUDIO OUT 端子にアンプ付きスピーカーを接続します。出力信号はラインレベルです。

いずれも RCA ピンジャック（オス）を備えた機器を接続できます。

ADX1004



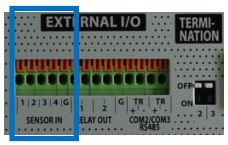
ADX1008/
ADX2016



6-3-1 1センサー機器の接続

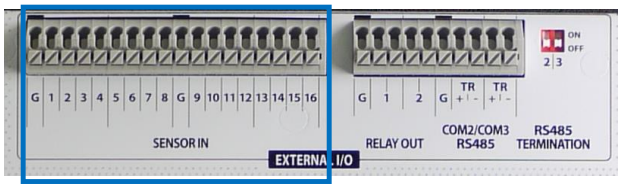
背面の SENSOR IN 端子にイベント録画のトリガーとして使用するセンサーなどの入力機器を接続します。NO/NC の接点を接続することができます。必ず無電圧の接点を接続してください（有電圧の接点はリレー等を使用して無電圧接点に変換してから接続してください）。G（GND）は共通です（内部で接続しています）。
配線ループ抵抗 300Ω以下になるようにしてください。

ADX1004

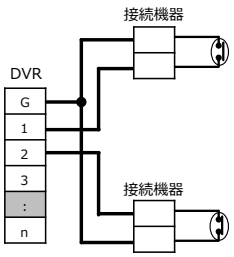


ADX1008

ADX2016



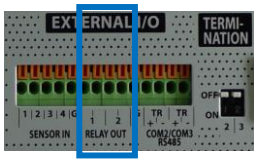
配線イメージ



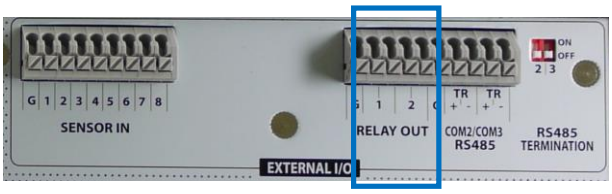
6-3-1 2移報機器の接続

背面の RELAY OUT 端子にフラッシュや通報装置などの移報機器を接続します。
NO 固定、無極性で DC24V/0.5A までの機器を接続できます。

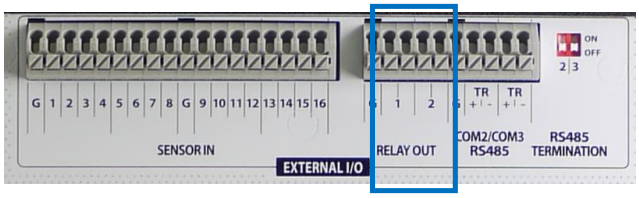
ADX1004



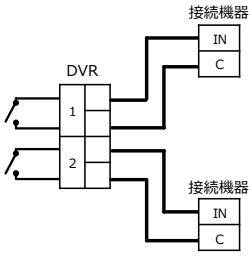
ADX1008



ADX2016



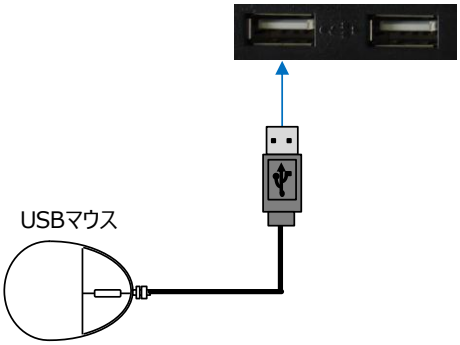
配線イメージ



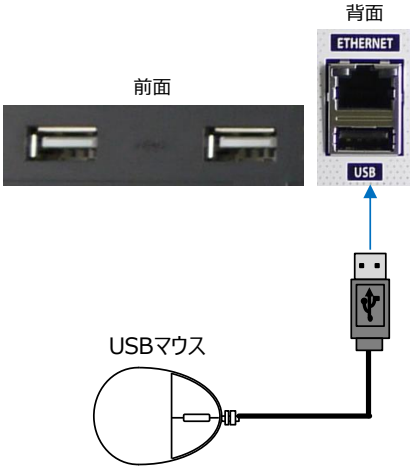
6 - 3 - 1 3 USB 機器の接続

前面・背面（背面は ADX2016 のみ）の USB ポートに USB マウスを接続します。

ADX1004/
ADX1008



ADX2016



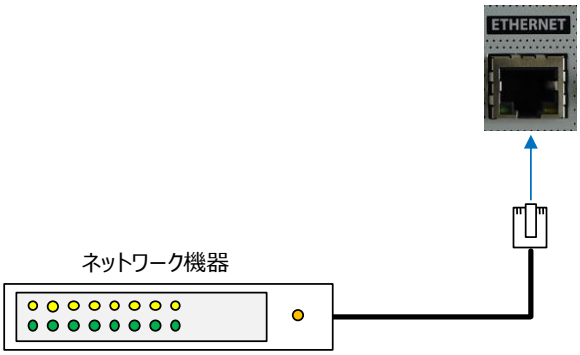
要　点
本製品の USB ポートには USB2.0 以降、消費電力 200mA 以下の機器を接続することができます。

6 - 3 - 1 4 ネットワークの接続（LAN 接続のみ）

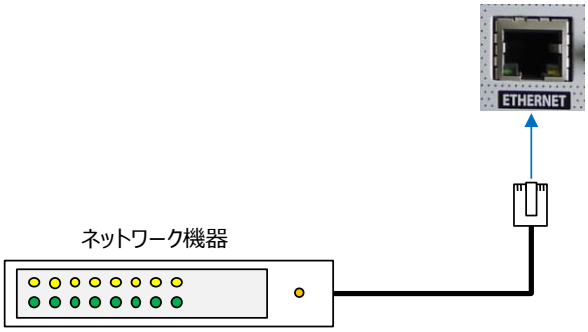
背面の ETHERNET 端子にハブ・ルーターなどのネットワーク機器を接続します。

RJ-45 プラグを備えた機器を接続できます。

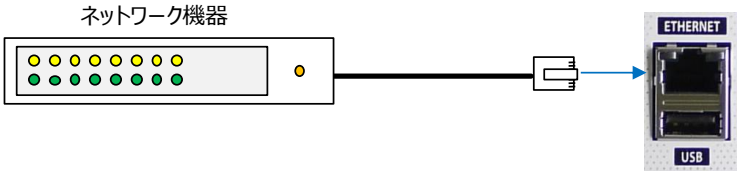
ADX1004



ADX1008



ADX2016



要　点
・　レコーダーとハブ・ルーターを接続するときはストレートケーブルをご使用ください。 ・　レコーダーと PC を直接接続するときはクロスケーブルをご使用ください。 ・　LAN ケーブルはカテゴリー6 以上のものをご使用ください。

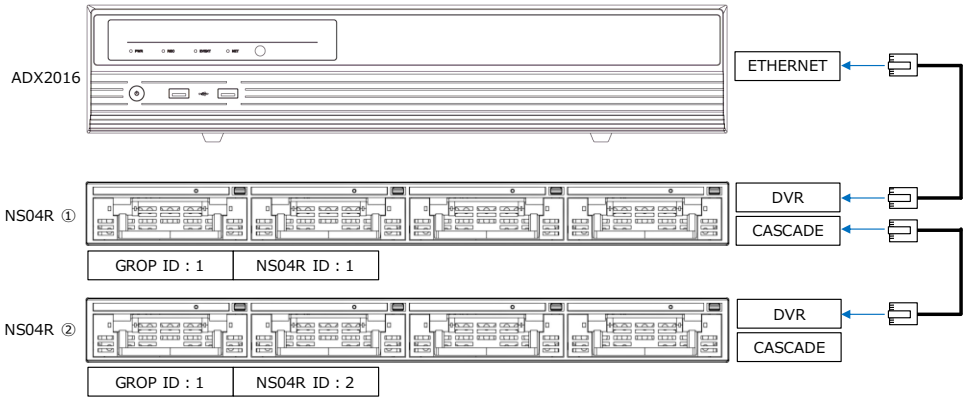
6 - 3 - 1 5 ネットワークの接続（NS04R 接続のみ）

背面の ETHERNET 端子に HDD 増設ユニット NS04R を接続します。

1	**製品背面の ETHERNET 端子と NS04R の ETHERTNET DVR 端子を NS04 付属の LAN ケーブルで接続する** 複数の NS04R を使用するときは、DVR 側を ETHERNET DVR 端子、カスケード接続する NS04R 側を ETHERNET CASCADE 端子になるように LAN ケーブルを接続してください。
2	**GROP ID と NS04R ID を設定する** 接続する NS04R のグループと、グループ内での識別用 ID を設定します。 本装置に接続するすべての NS04R を同じグループ ID に設定したうえで、同じグループ ID 内で重複の無いように NS04 ID を設定してください。

要　点

ADX2016 に NS04R を 2 台接続するときの例を示します。



要　点

- NS04R を接続したときは、レコーダーの各種設定メニュー［システム］＞［ディスク］の［ディスクマネージャ］と［RAID マネージャ］を設定し、NS04R を使用する準備をしてください。
- LAN ケーブルはカテゴリー6 以上のものをご使用ください。

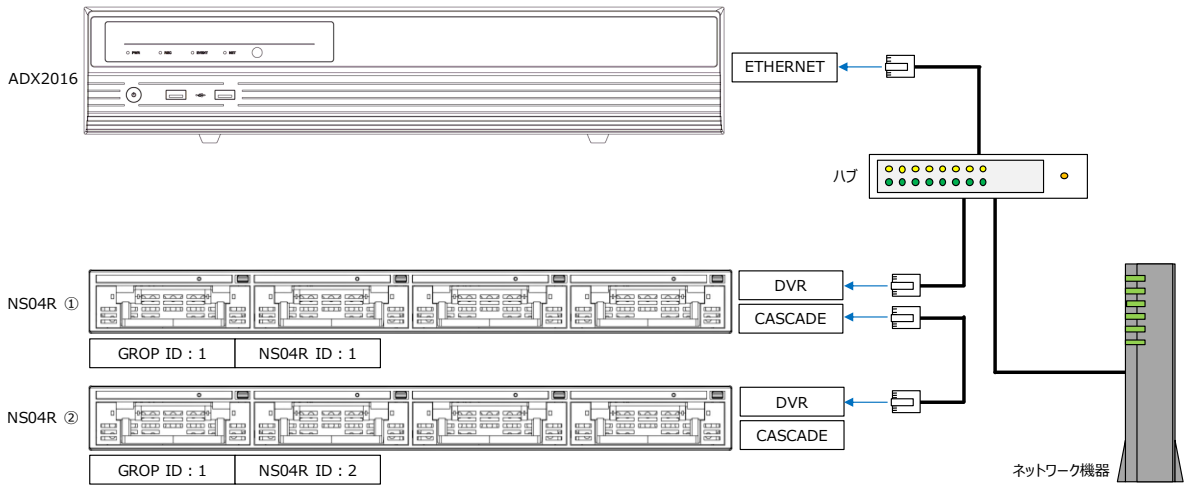
6-3-1 6ネットワークの接続（LANとNS04Rを両方接続）

背面のETHERNET端子にネットワーク機器とHDD増設ユニット NS04Rの両方を接続します。

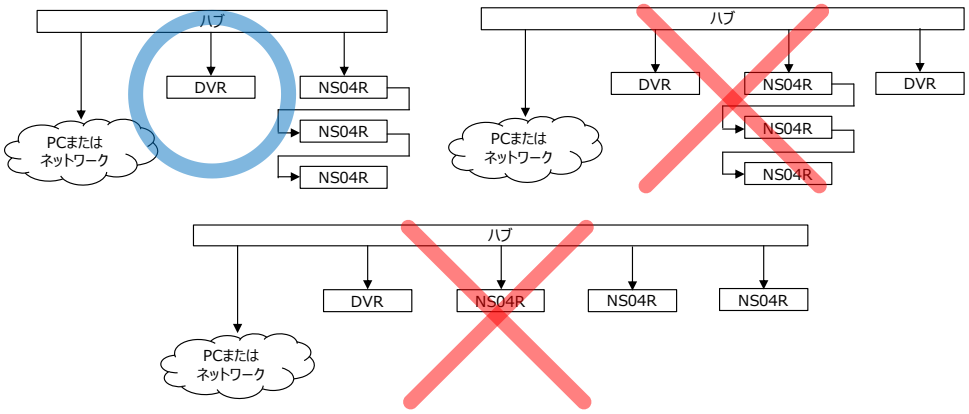
1	**製品背面のETHERNET端子とハブをLANケーブルで接続する** ハブの接続方法については「ネットワーク接続（LAN接続のみ）」を参照してください。
2	**接続するすべてのNS04RをLANケーブルで接続し、GROUP IDとNS04R IDを設定する。** HDD増設ユニットの接続、GROUP ID・NS04R IDの設定方法については「ネットワーク接続（NS04R接続のみ）」を参照してください。
3	**ネットワーク機器とNS04Rをハブに接続する** 接続するNS04Rのうち、一番レコーダー寄りのNS04RのETHERNET DVR端子とハブを接続します。 ルーターなどのネットワーク機器もハブに接続します。

要　点

ADX2016にNS04Rを2台と、ネットワーク機器（ルーターを想定）を接続するときの例を示します。



ネットワーク機器とNS04Rの両方を接続するときは、必ず以下の図で○が付いている構成としてください。×が付いている構成にならないように気を付けてください。

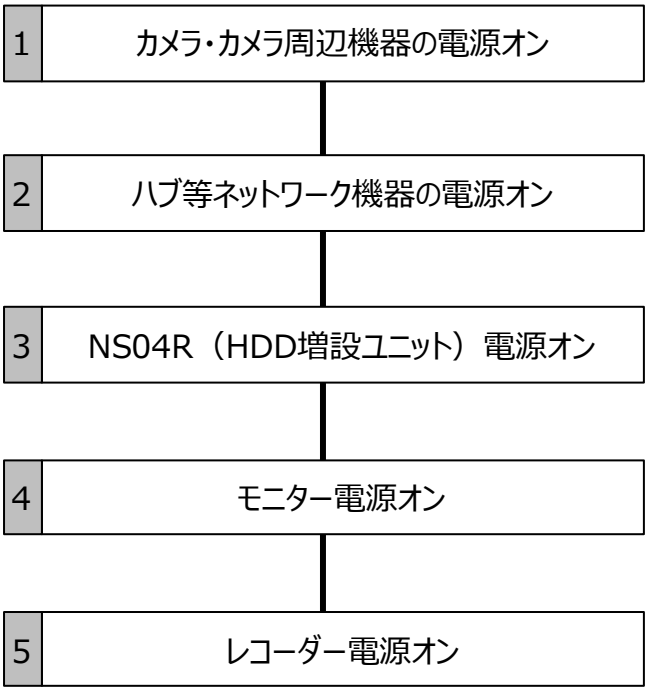


要　点
・ HDD 増設ユニット NS04R を使用するときは、レコーダーと NS04R の間に大量のデーターが常時流れます。そのため、既存のネットワークに参加する形態でのシステム構成では、接続先のネットワークに対し予測不能な影響が発生する可能性があります。必ずレコーダーシステムで独立した LAN を構築してください。 ・ 電源の投入は必ず ハブ→NS04R→レコーダーとしてください。 ・ LAN ケーブルはカテゴリー6 以上のものをご使用ください。 ・ ハブはギガビット対応のスイッチングハブをご使用ください。

6 - 4 システムの起動（電源オン）

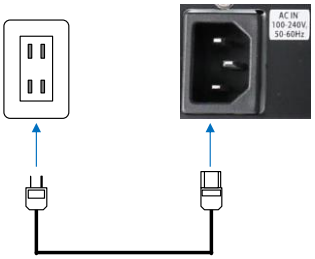
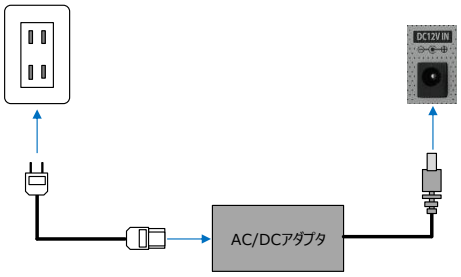
全ての配線が完了した後、レコーダーと周辺機器の電源をオンにしてシステムを起動します。

電源のオンは以下の順番で行います。



要　点
システムの起動（電源オン）はすべての配線作業が完了していることを確認してから行ってください。 配線途中で電源をオンにすると、思わぬ短絡や予期せぬ動作により機器故障の原因になる場合があります。

1	**カメラ・カメラ周辺機器の電源オン** カメラの電源をオンにします。そのほかカメラの周辺機器（TDM ハブ、ワンケーブルアダプタ、マイクなど）の電源をオンにします。 カメラとカメラ周辺機器の電源をオンにする方法については、各機器の説明書をご覧ください。
2	**ハブ等ネットワーク機器の電源オン** レコーダーと NS04R（HDD 増設ユニット）を、ハブを介して接続しているときは、そのハブの電源をオンにします。 ハブ等ネットワーク機器の電源をオンにする方法については、各機器の説明書をご覧ください。

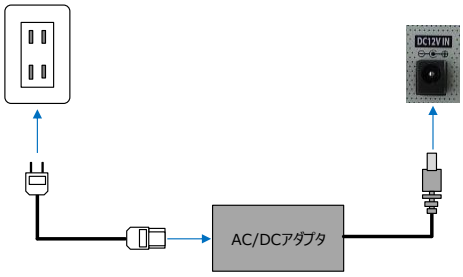
3	**NS04R（HDD 増設ユニット）の電源オン** NS04R の電源をオンにします。 NS04R 背面の電源端子に付属の電源コードを接続し、電源コードの電源プラグを AC100V 電源に接続すると電源がオンになります。  **要　点** NS04R には電源スイッチはありません。 NS04R が複数ある場合、電源を入れる順番は自由です。ただしレコーダーの電源をオンにする時点ですべての NS04R の電源がオンになっている必要があります。 NS04R の起動にはおよそ 1 分かかります。
4	**モニター電源オン** レコーダーに接続したモニターの電源をオンにします。 モニターの電源をオンにする方法については、各機器の説明書をご確認ください。 **要　点** 接続したモニターが複数の映像入力系統を備えている場合は、レコーダーと接続した方式の入力に合わせておいてください。
5	**レコーダー電源オン（ADX1004）** ADX1004 の電源をオンにします。 製品に付属する AC/DC アダプターと電源コードを接続し、AC/DC アダプターの DC 側プラグをレコーダーの DC12V IN 端子に接続します。 そのあと電源コードの電源プラグを AC100V 電源に接続します。  **要　点** ADX1004 には電源スイッチはありません。AC100V を接続がそのまま電源のオンになります。

レコーダー電源オン（ADX1008）

ADX1008 の電源をオンにします。

製品に付属する AC/DC アダプターと電源コードを接続し、AC/DC アダプターの DC 側プラグをレコーダーの DC12V IN 端子に接続します。

そのあと電源コードの電源プラグを AC100V 電源に接続します。

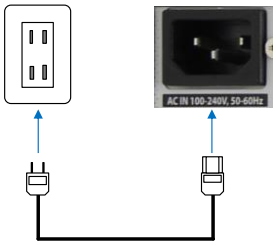


要　点
ADX1008 は AC100V が未接続の状態から AC100V を接続すると、通常自動的に電源オンになります。 自動的に電源がオンにならないときは、製品前面の電源ボタン（⏻）を押して電源をオンにしてください。

レコーダー電源オン（ADX2016）

ADX2016 の電源をオンにします。

ADX2016 背面の電源端子に付属の電源コードを接続し、電源コードの電源プラグを AC100V 電源に接続すると電源がオンになります。



要　点
ADX2016 は AC100V が未接続の状態から AC100V を接続すると、通常自動的に電源オンになります。 自動的に電源がオンにならないときは、製品前面の電源ボタン（⏻）を押して電源をオンにしてください。

7 基本操作

7 - 1 出荷時の管理者 ID とパスワード

本製品は、出荷状態で以下の管理者 ID とパスワードが設定されています。

管理者 ID	admin
パスワード	12345

7 - 2 レコーダーの操作手段

レコーダーの操作はマウス、またはリモコンで行います。

マウスでの操作	画面上のアイコンやメニューを選択するときは、その項目にマウスカーソルを合わせて左クリックしてください。 ライブ画面、録画再生画面の任意の場所で右クリックするとファンクションメニューが表示されます。ファンクションメニューから各種操作や設定を行うことができます。
リモコンでの操作	マウスと同等の操作ができます、リモコンの操作方法については、「5 各部の名称と働き」の「リモコン」を参照してください。

7 - 3 ソフトウェアキーボードの使い方

設定画面など、文字や数字の入力が必要な個所では、ソフトウェアキーボードを使用します。

文字/記号/数字	マウスの場合は入力する文字上で左ボタンをクリックします。リモコンの場合は、[▲][▼][◀][▶]ボタンで入力する文字を選び、[↵] ボタンで決定します。 入力できない文字はグレーアウトします。
←	一文字削除します。
Caps	アルファベットの大文字・小文字を切り替えます。
Shift	1 文字だけアルファベットの大文字を入力できるようになります。
エンター	入力内容を確定してソフトウェアキーボードを閉じます。
キャンセル	入力内容を適用しないでソフトウェアキーボードを閉じます。

7 - 4 電源オンの手順

レコーダーの電源をオンにするときは、以下の手順に従ってください。

1	**周辺機器の電源オン** カメラ、カメラの周辺機器（TDM ハブ、ワンケーブルアダプタ、マイクなど）、ハブ等ネットワーク機器、ならびに NS04R（HDD 増設ユニット）の電源をオンにします。
2	**レコーダーの電源オン** レコーダーに AC100V が接続されていないときは、AC100V を接続します。レコーダーは AC100V を接続すると、自動的に電源がオンになります。 レコーダーの電源がオフ状態で、かつレコーダーに AC100V が接続されているときは、以下の手順で電源をオンにしてください。 ADX1004 の場合 → 電源プラグを AC100V からいったん外し、再度電源プラグを AC100V に接続してください。ADX1004 は AC100V を接続すると自動的に電源がオンになります。 ADX1008/ADX2016 の場合 → レコーダー前面の電源ボタンを押して電源をオンにします。

要　点
周辺機器を電源オンにする順番の詳細については「6-4 システムの起動（電源オン）」を参照してください。

7 - 5 電源オフの手順

レコーダーの電源をオフにするときは、以下の手順に従ってください。

1	**レコーダーの電源オフ** ① ライブ画面でタスクバーの［FUNC］ボタンを押す、ライブ画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押してファンクションメニューを表示し、［システム］→［電源オフ］を選択します。 ② 確認画面が表示されるので［はい］を選択します。
2	**周辺機器の電源オフ** NS04R（HDD 増設ユニット）、ハブ等ネットワーク機器、カメラの周辺機器（TDM ハブ、ワンケーブルアダプタ、マイクなど）、ならびにカメラの電源をオフにします。

7 - 6 ログイン手順

・ レコーダーの設定で自動ログアウトが設定されており、一定期間レコーダーの操作が行われなかったとき
・ 手動でログアウト操作を行ったとき
・ レコーダーの設定を工場出荷状態に初期化したとき

は、レコーダーからログアウトした状態になっています。レコーダーの操作を開始するためには、以下の手順でログインしてください。

1	**ログイン画面にレコーダーに登録されたユーザーとパスワードを入力する**
2	**ログイン画面の［OK］ボタンを選択する** 入力したユーザー名、パスワードが正しければログインし、レコーダーが操作可能となります。

要　点
ログイン後操作できる範囲は、ログインしたユーザーに与えられた操作権限に依存します。

7 - 7 ログアウト手順

レコーダーからログアウトし、レコーダーを操作できない状態にします。
レコーダーを再度操作可能な状態にするには、レコーダーに登録されたユーザー名とパスワードでログインする必要があります。

1	**ライブ画面でタスクバーの［FUNC］ボタンを押す、ライブ画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押してファンクションメニューを表示し、［システム］→［ログアウト］を選択する。**
2	**確認画面で［はい］を選択する**

7 - 8 操作ロックの手順

レコーダーの操作をロックし、関係者以外が操作できないようにします。

1	**ライブ画面でタスクバーの［FUNC］ボタンを押す、ライブ画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押してファンクションメニューを表示し、［システム］→［ロック］を選択する。**
2	**確認画面で［はい］を選択する**

7 - 9 操作ロック解除の手順

操作ロックを解除し、レコーダーを操作できるようにします。

1	**マウスを左クリックする**
2	**ログイン画面でパスワードを入力する**

要　点

ログアウトとロックの違いは以下の通りです。用途に応じて使い分けてください。

ログアウト	ログアウト中は、ライブ映像も表示されません。 ログイン時にユーザー名とパスワードの両方を入力する必要があります。 ログインユーザーごとに異なる操作権限を与える運用をしている場合に、現ログインユーザーでの作業を完了するときなどに使用してください。
ロック	ロック中は、ライブ画面が表示されていますが、そのほか一切の操作ができません。 ロック解除時、ユーザー名は固定表示され（ロックしたときのユーザー名が表示されます）、パスワードのみ入力が必要となります。 同一ユーザーが連続して操作する中で、一時的にレコーダーを操作できない状態にするときに使用してください。

8 運用設定

レコーダーの運用を開始するまでの設定項目を、実際の作業を想定した順番で説明します。

ここで説明するのは、一般的な運用における必要最小限の設定手順となります。実際の設定内容については設置環境や運用仕様に応じて適宜調整してください。また、各設定項目の詳細については、「14-1 メニュー」を参照してください。

8 - 1 設定作業の始め方と終わり方

8 - 1 - 1 設定の始め方

ライブ画面下部ツールバーの［メニュー］を左クリックする、ライブ画面でマウスを右クリックしてファンクションメニューを表示させて、[システム] ＞ ［メニュー］を選択する、リモコンの［メニュー］ボタンを押す、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押してファンクションメニュー（ライブ）を開き、[システム] ＞ ［メニュー］を選択することで、各種設定を行うメニュー画面が表示されます。メニュー画面の構成は以下のようになっています。

メインメニュー	各種設定メニューで設定する設定のジャンルを選択します。選択されているアイコンは明るい色になります。
サブメニュー	選択したメインメニューに関連した設定項目がタブで表示されます。
設定項目	選択したサブメニューに対する設定項目が表示されます。
設定を保存	編集内容を保存するときに選択します。表示されている設定項目に変更がないときにはボタンが無効になっています。 ボタンが有効の状態で設定メニュー画面を閉じたり、別の設定画面に移動したりすると、保存を確認する画面が開きます。

8 - 1 - 2 設定の終わり方

メインメニューの [✕] ボタンを選択します。[✕] ボタンを選択してメニュー画面を閉じるとき、保存していない設定があると保存を確認する画面が開きます。

8 - 2 管理者 ID とパスワードを変更する。

要　点
・ ID とパスワードを初期値のまま使用すると、不正なアクセスによる画像・音声・情報の閲覧、漏洩につながる恐れがあります。管理者用 ID、管理者用パスワードは必ず工場出荷時の初期値から変更してご利用ください。 ・ 変更されたパスワードがわからなくなった場合は、レコーダーを弊社に返送いただき機器の初期化が必要となります。パスワードは厳重に管理の上、必要時には取り出せるようにしておいてください。

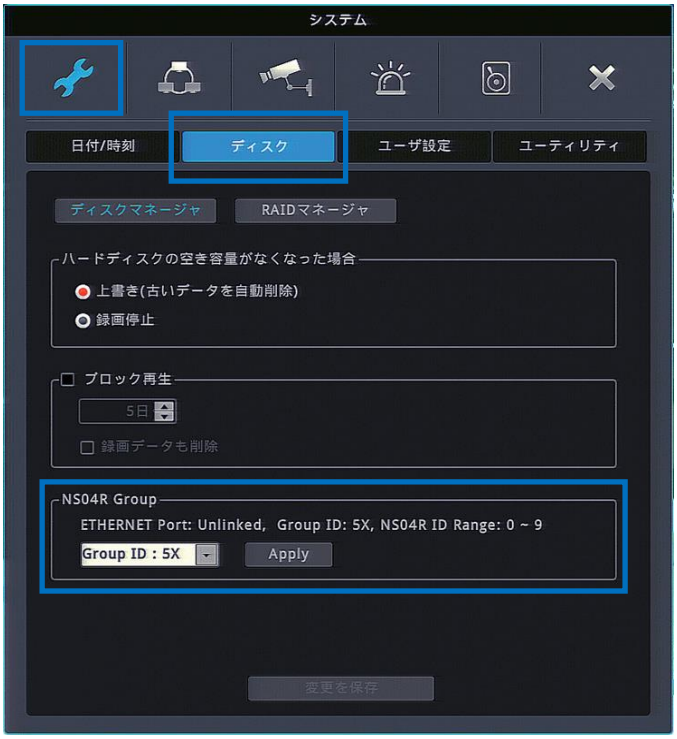
1	**ID/パスワード変更画面を開く** ① [メニュー] ＞ [システム] ＞ [ユーザー設定] の順番でメニュー画面を切り替えます ② [ユーザ] を admin に合わせ、[ID/パスワードの変更] ボタンを選択します。

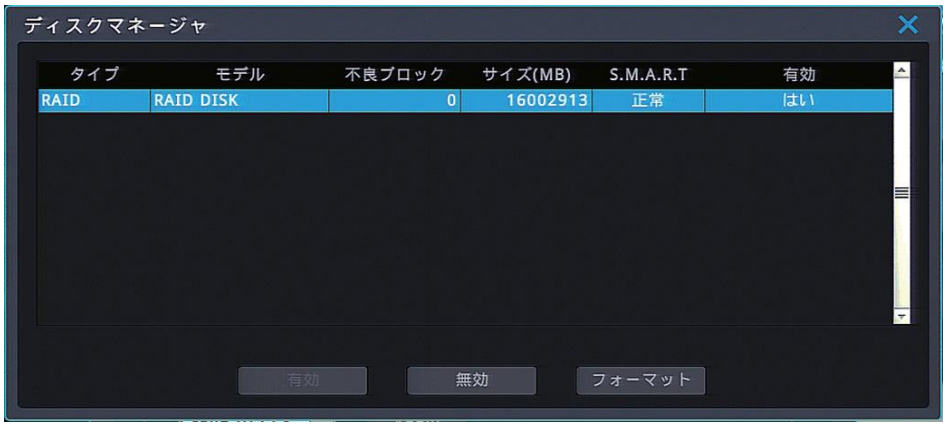
2	**管理者の ID/パスワードを変更する** ① [管理者 ID] を変更します（英数字記号 1~20 文字） ② [管理者パスワード] に新しいパスワードを入力します（英数字記号 5~15 文字） ③ [パスワードの確認] に新しいパスワードをもう一度入力します ④ ID/パスワード変更画面の左上にある [×] を選択して ID/パスワード変更画面を閉じます

要　点
この項目に関する詳細な説明は「14-1-3 システム」の「システム＞ユーザ設定」を参照してください。

8 - 3 NS04R（増設 HDD ユニット）を使えるようにする

レコーダーに NS04R を接続しているときは、以下の手順で NS04R を使えるようにします。

1	**NS04R のグループ ID を選択する** ① ［メニュー］ ＞ ［システム］ ＞ ［ディスク］ の順番でメニュー画面を切り替えます ② ［NS04R Group］ の値を接続している NS04R の GROUP ID に合わせます ③ ［Apply］ ボタンを選択して編集内容を確定します 

2	**RAID マネージャで NS04R の RAID 構成を設定する** ① ［メニュー］ ＞ ［システム］ ＞ ［ディスク］ の順番でメニュー画面を切り替えます ② ［RAID マネージャ］ ボタンを選択して、RAID マネージャ画面を表示します。 ③ NS04R の RAID 構成を設定し、［更新］ ボタンを選択して編集内容を確定します
3	**ディスクマネージャで新たに構築した RAID DISK を使用可能な状態とします** ① ［メニュー］ ＞ ［システム］ ＞ ［ディスク］ の順番でメニュー画面を切り替えます ② ［ディスクマネージャ］ ボタンを選択して、ディスクマネージャ画面を表示します ③ 新たに構築した RAID DISK を選択状態にします ④ ［有効］ ボタンを選択して状態を ［はい］ にします ⑤ ［フォーマット］ ボタンを選択して RAID DISK を初期化します 

要　点
この項目に関する詳細な説明は「14-1-3 システム」の「システム＞ディスク」を参照してください。

要　点

NS04R で使用可能な RAID レベルは以下の 3 種類（＋RAID なし）です。

RAID レベル	動作概要	HDD 使用効率（録画に使用できる容量）
なし	―	全容量を録画で使用可能
1	ミラーリング	全容量÷2
5	ストライピング＋分散パリティ	全容量－ドライブ 1 台分の容量
10	ミラーリング＋ストライピング	全容量÷2

要　点

NS04R を RAID 構成で使用するときは、レコーダーに実装された HDD も RAID 構成としてシステム全体を冗長化してください。

8 - 4 カメラをレコーダーに登録する

1

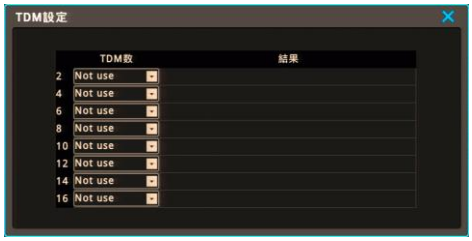
カメラの接続状態

① ［メニュー］ ＞ ［デバイス］ ＞［カメラ］ の順番でメニュー画面を切り替えます

② カメラを接続しているチャンネルのチェックを有効にします

③ ［タイプ］ が ［BNC（ADX1004/ADX1008）］ または ［BNC-Auto（ADX2016）］ になっていることを確認します

タイプ	動作	備考
BNC	BNC 接続されたカメラを自動認識します	ADX1004/ADX1008 のみ
BNC-Auto		ADX2016 のみ
IP	IP カメラを接続します	使用しません
HD-SDI	HD-SDI のカメラを接続します	ADX2016 のみ
EX-SDI	EX-SDI のカメラを接続します	
EX-SDI 2.0	EX-SDI Ver.2.0 のカメラを接続します	
EX-SDI 4M	EX-SDI（4M）カメラを接続します	
EX-SDI 8M	EX-SDI（4K）カメラを接続します	

2	**TDM の設定（ADX2016 のみ）** ① ［メニュー］ ＞ ［デバイス］ ＞ ［カメラ］ の順番でメニュー画面を切り替えます ② ［TDM Config］ ボタンを選択して TDM 設定画面を開き、TDM ハブの接続設定をします 
3	**PTZ の設定** ① 「メニュー＞デバイス＞ PTZ」の順番でメニュー画面を切り替えます ② ポート、デバイス、アドレス、ボーレートを接続しているカメラに合わせて設定します。

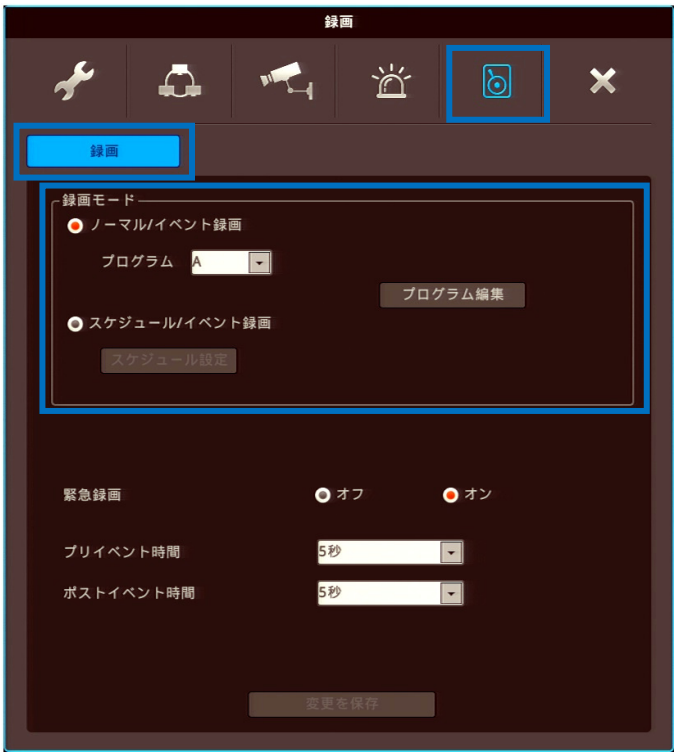
要　点
この項目に関する詳細な説明は「14-1-5 デバイス」の「デバイス＞カメラ」を参照してください。

8 - 5 マイクをレコーダーに登録する

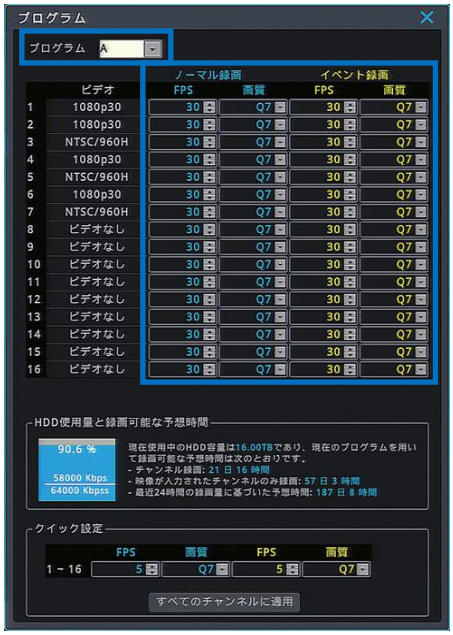
1	**音声の設定** ① ［メニュー］ ＞ ［デバイス］ ＞ ［音声］ の順番でメニュー画面を切り替えます ② ビデオチャンネル・音声録音を、接続しているマイクと運用条件に合わせて設定します。

要　点
この項目に関する詳細な説明は「14-1-5 デバイス」の「デバイス> 音声」を参照してください。

８-６録画モード･プログラムを調整して録画期間を希望に合わせる

1	**録画モードの設定** ① ［メニュー］＞［録画］＞［録画］の順番でメニュー画面を切り替えます ② 録画モードが［ノーマル/イベント録画］なっていること、プログラムが「A」となっていることを確認します。 

2	**プログラムの編集（録画期間の調整）** ① ［メニュー］ ＞ ［録画］ ＞ ［録画］ の順番でメニュー画面を切り替え、［録画モード］ フレーム内の ［プログラム編集］ ボタンを選択します。 ② プログラム編集画面が開いたら、編集中のプログラムが ［A］ であることを確認します。 ③ ［ノーマル録画］［イベント録画］ それぞれの FPS、画質を設定します。



FPS	1 秒当たりのコマ数を設定します。1～30 で設定します（録画条件により一部選択できないコマ数があります）。数値が大きいほど再生時の動きが滑らかになります。
画質	Low,Q2～Q9,High の 10 段階で設定できます。数値が大きいほど高画質になります。

要　点

「HDD の使用量と録画可能な予想時間」で、設定された条件における予想録画時間を確認できます。この時間は一般的な条件下における予想値であり、録画時間を保証するものではありません。予想値は目安としてご利用ください。

要　点

この項目に関する詳細な説明は「14-1-7 録画」の「録画＞録画」を参照してください。

8 - 7ビデオロスと HDD 異常を ALARM OUT へ出力する

1

動作させるリレーの選択と動作モードを設定する

① ［メニュー］ ＞ ［イベント］ ＞ ［イベント］ の順番でメニュー画面を切り替えます

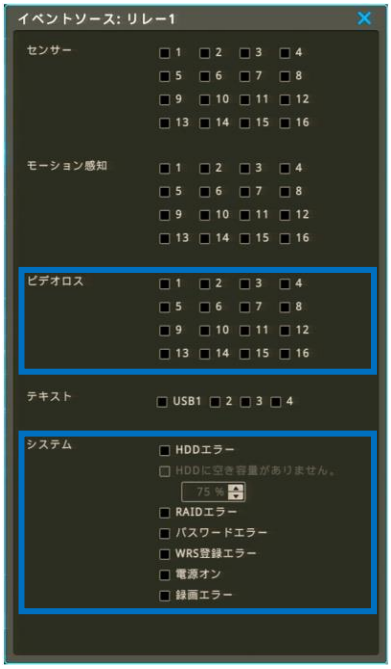
② ［イベント使用］ がチェックされていることを確認します

③ ［スケジュール］ が ［常にイベントを監視］ になっていることを確認します

④ ［イベント利用］ で、[リレー１] [リレー2]のうち使用する側にチェックを入れます。

⑤ ［アクション時間］ でリレーの動作モードを選択します

設定項目	選択肢	動作
アクション時間	イベント発生時に 5 秒間	オフトリガ/リトリガ有のタイマー動作 ただし、[システム] についてはオントリガ/リトリガ無のタイマー動作
	イベント発生時に 10 秒間	
	イベント発生時に 15 秒間	
	イベント発生時に 20 秒間	
	イベント発生時に 25 秒間	
	イベント発生時に 30 秒間	
	イベント発生時に 40 秒間	
	イベント発生時に 50 秒間	
	イベント発生時に 60 秒間	
	イベント発生時に継続維持	保持動作
	Clear after Confirm	応動動作

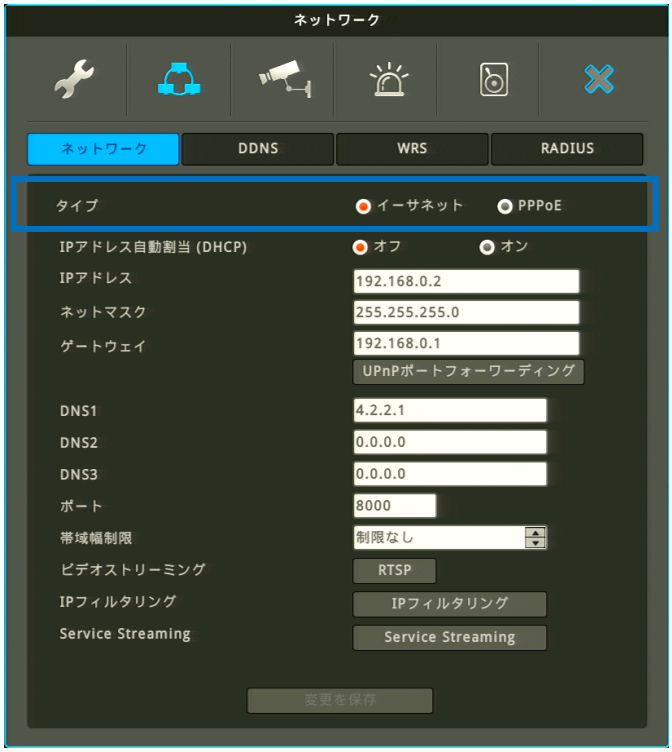
2	**イベントソースを設定する** ① ［メニュー］ ＞ ［イベント］ ＞ ［イベント］ の順番でメニュー画面を切り替えます ② ［リレー１］［リレー2］ のうち、使用する側の ［イベントソース］ ボタンを選択します。 ③ ［イベントソース］ 画面が開いたら、［ビデオロス］ でカメラが接続されているカメラチャンネルにチェックを入れます。 ④ ［システム］ の ［HDD エラー］ と ［RAID エラー］［録画エラー］ にチェックを入れます 

要　点
この項目に関する詳細な説明は「14-1-6 イベント」の「イベント＞イベント」を参照してください。

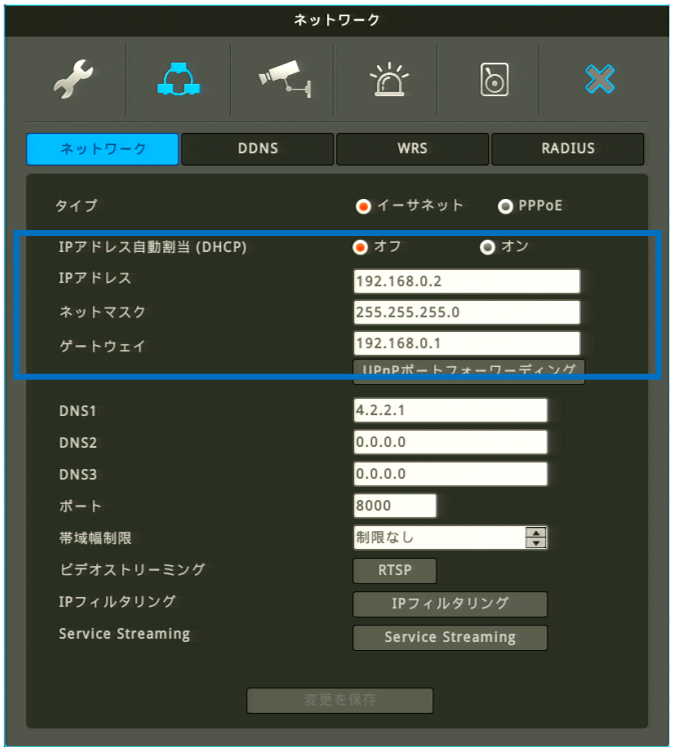
8 - 8 ネットワークに接続する

8 - 8 - 1 ネットワーク設定を接続先の LAN に合わせる

1	**ネットワーク設定メニューの表示** [メニュー] ＞ [ネットワーク] ＞ [ネットワーク] の順番でメニュー画面を切り替えます

2	**タイプの設定** [タイプ] が [イーサネット] であることを確認します 

3	**イーサネット設定** [IP アドレス自動割り当て] の項目を設定します。オフの場合は [IP アドレス] [ネットマスク] [ゲートウェイ] の各項目を適切に設定します。



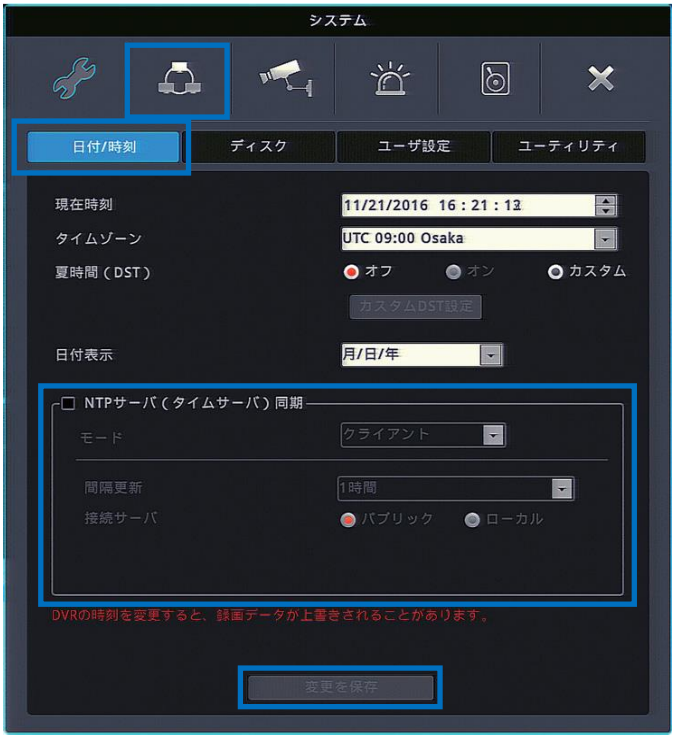
判断条件		「IP アドレス自動割当（DHCP）」の設定値
遠隔モニタリング	DHCP サーバー	
行う	—	オフ
行わない	あり	オン
	なし	オフ

4	**DNS サーバー、ポートの設定** [DNS1] [DNS2] [DNS3]、ならびにポートにそれぞれ適切な値を設定します。

要　点
この項目に関する詳細な説明は「14-1-4 ネットワーク」の「ネットワーク＞ネットワーク」を参照してください。

8 - 8 - 2 自動時刻補正を使う（NTP）

インターネット上のタイムサーバー（NTP サーバー）に定期的にアクセスしてレコーダーの日時を正しく維持するためには、以下の手順で設定を行ってください。

1	**NTP サーバーを設定する** ① ［メニュー］ ＞ ［システム］ ＞ ［日付／時刻］ の順番でメニュー画面を切り替えます ② ［NTP サーバー（タイムサーバー）同期］ にチェックを入れます ③ ［モード］ を ［クライアント］ に設定します ④ ［間隔更新］ で NTP 自動時刻同期を実行する間隔を設定します。 ⑤ ［接続サーバ］ を ［パブリック］ に設定します 
2	**設定の保存と動作確認** ［変更を保存］ ボタンを選択すると設定を保存し、それと同時に NTP 自動時刻補正を実行します。NTP 自動時刻補正の成否は ［NTP サーバ（タイムサーバ）同期］ フレームの下部に表示される情報で判断します。 同期成功 ： 最終同期日時 ： *[同期を行った日時]* 同期失敗 ： 最終同期日時 ： 失敗

要　点
この項目に関する詳細な説明は「14-1-3 システム」の「システム＞日付／時刻」を参照してください。

8-8-3 ビデオロス・HDD 異常を電子メールで通知する（SMTP）

ビデオロス、HDD の異常などを電子メールで遠隔地に通知するときは、以下の手順で設定を行ってください。

1

電子メール通知を有効にする

① ［メニュー］ ＞ ［イベント］ ＞ ［イベント］ の順番でメニュー画面を切り替えます

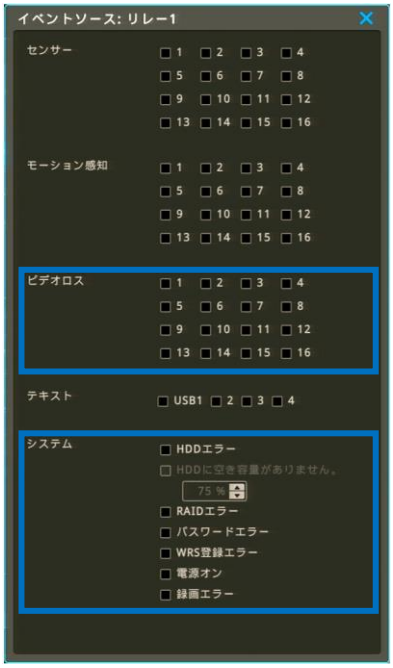
② ［イベント使用］ がチェックされていることを確認します

③ ［スケジュール］ が ［常にイベントを監視］ になっていることを確認します

④ ［イベント利用］ で、［電子メール］ にチェックを入れます

⑤ ［アクション時間］ にメールを送信する最短の間隔を設定します

設定項目	選択肢	動作
アクション時間	1 分ごとに	電子メール通知するイベントが多発していても、アクション時間で設定した時間の間は電子メール通知を行わない。
	2 分ごとに	
	3 分ごとに	
	4 分ごとに	
	5 分ごとに	
	10 分ごとに	
	15 分ごとに	
	20 分ごとに	
	25 分ごとに	
	30 分ごとに	

2	**電子メール通知するイベントを選択する** ① ［メニュー］ ＞ ［イベント］ ＞ ［イベント］ の順番でメニュー画面を切り替えます ② ［電子メール］ の ［イベントソース］ ボタンを押します ③ ［イベントソース］ 画面が開いたら、［ビデオロス］ でカメラが接続されているカメラチャンネルにチェックを入れます ④ ［システム］ の ［HDD エラー］ と ［RAID エラー］ ［録画エラー］ にチェックを入れます 

3

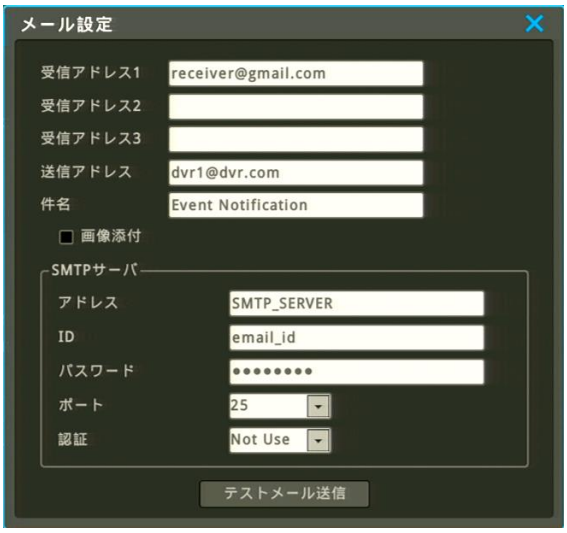
通知先のメールアドレスと SMTP サーバーの設定をする

① [受信アドレス 1～3] に宛先のメールアドレスを設定します。通報先が 3 か所に満たない場合は、使用していない [受信アドレス] を空欄にしておいてください。

② [送信アドレス] に送信元アドレスを入力します

③ 送信メールにイベント発生時の画像を添付する場合は [画像添付] にチェックを入れます

④ [SMTP サーバ] の各情報を入力します



4

動作確認を行う

[テストメール送信] ボタンを選択すると、すべての [受信アドレス] にテストメールが送信されます。テストメールが正しく受信できないときは、以下の点について確認してください。

症状	考えられる要因
レコーダーの画面にエラーメッセージが表示され、テストメールを受信できない	設定した各項目の入力内容に誤りがある
レコーダーの画面にエラーメッセージは表示されなかったが、テストメールを受信できない	・ 受信側で迷惑メールと判断されている ・ 設定項目のうち、[SMTP サーバ] フレームの [アドレス] [ポート] に存在しないアドレス、ポートを指定している。

要　点

この項目に関する詳細な説明は「14-1-6 イベント」の「イベント> イベント」を参照してください。

8-8-4 レコーダーを遠隔モニタリングする（DDNS）

レコーダーに対し、インターネットを介して遠隔地からアクセスする場合は、以下の手順で設定を行ってください。

1	DDNS ドメインを登録する ① ［メニュー］ ＞ ［ネットワーク］ ＞ ［DDNS］ の順番でメニュー画面を切り替えます ② ［使用］ にチェックを入れます ③ ［WNS（mycam.to）］ を選択します ④ ［.mycam.to］ の左側に取得したいドメイン名（英数字 2～32 文字）を入力し、［ドメイン作成］ ボタン（すでにドメイン取得済みのばあいは ［ドメイン変更］ ボタンとなります）を選択します（ドメイン取得に成功すると ［成功］ のダイアログが、失敗すると ［失敗］ のダイアログが表示されます）。 ⑤ ［変更を保存］ ボタンを選択して設定内容を保存します

2	**ブロードバンドルーターのポートを解放する** レコーダーが参加しているネットワークのブロードバンドルーターに対し、ポートの開放設定を行います。ポートの解放は［メニュー］＞［ネットワーク］＞［ネットワーク］の順番でメニュー画面を切り替えて表示される設定画面中の［ポート］に設定された番号（初期値：8000）の TCP 側に対して行ってください。

要　点

- ブロードバンドルーターの設定について不明な点は、ブロードバンドルーターの説明書をお読みいただくか、購入先またはブロードバンドルーターのメーカーにお問い合わせください。
- 使用するネットワーク（回線事業者、プロバイダを含む）やブロードバンドルーター、ADSL モデムなどの機器の状態によっては、ポート開放が出来ない場合があります。
- 本製品が提供する DDNS サービス（WNS,WRS）は、メンテナンスその他の要因により予告なくサービスの提供を停止することがあります。ご了解いただける場合にのみご利用ください（確実な接続を求められる場合は、接続する回線に固定 IP アドレスをご用意ください）。

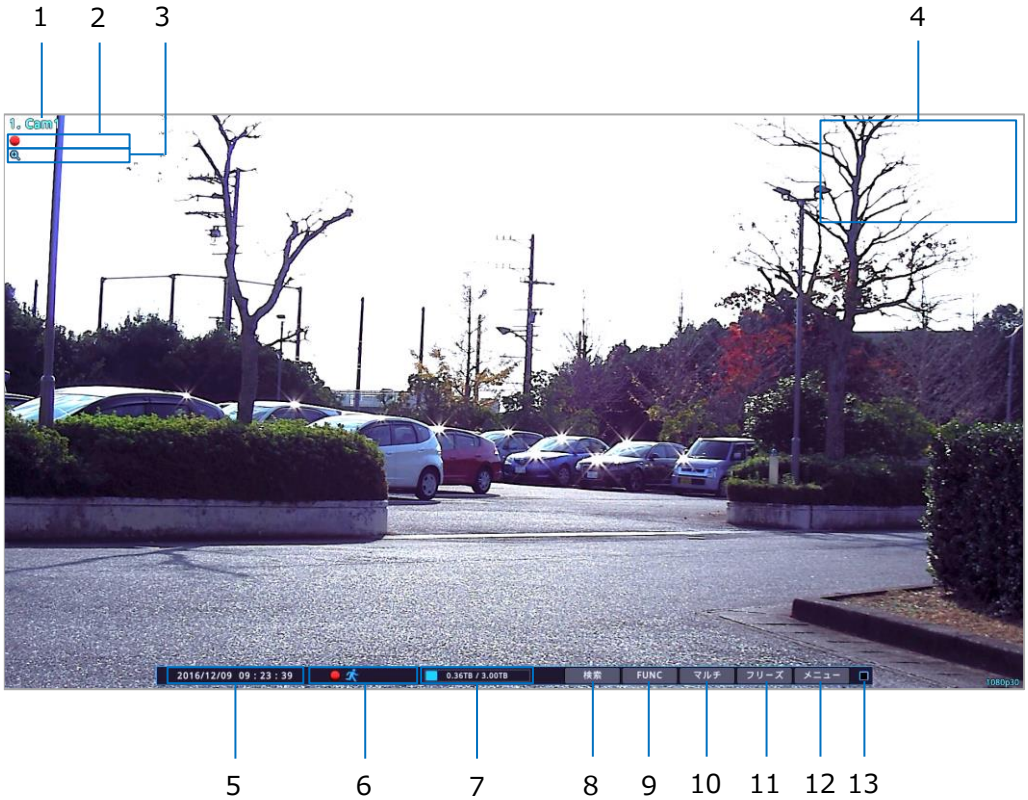
要　点

この項目に関する詳細な説明は「14-1-4 ネットワーク」の「ネットワーク> DDNS」を参照してください。

9 ライブ画面

9 - 1 ライブ画面上の表示・アイコン・ボタン

各カメラの映像内、並びに画面下部のツールバーに、レコーダーの動作状態を表すアイコンが表示されます。
また、ツールバー内にはよく使う機能にアクセスするためのボタンが表示されます。



番号	名称	機能
1	カメラ番号・カメラ名称	カメラのチャンネル番号、カメラ名称を表示します。
2	録画アイコン表示エリア（カメラ）	このカメラの録画状況を表示します。 録画中 モーション検知 炎検知（使用しません） アラーム検知 テキスト検知（使用しません）
3	補助アイコン表示エリア	操作の補助を行うアイコンを表示します。

番号	名称	機能
4	ポップアップメッセージ表示エリア	モーションやアラームなどのイベントポップアップ中表示など、システムの動作に関するポップアップメッセージを表示します。 Video Popup
5	システム日時	レコーダーの現在日時を表示します。
6	録画アイコン表示エリア（全体）	レコーダー全体の録画状況を表示します。 緊急録画モード中 録画中 モーション検知 炎検知（使用しません） アラーム検知 テキスト検知（使用しません）
7	HDD 情報	ハードディスクの状態を「使用量／全容量」の形式で表示します。 **要　点** HDD を RAID 構成にしているとき、全容量として表示される値は、RAID ドライブとして認識される容量です。実際に搭載されている HDD の容量と表示される全容量に差異が発生する場合があるので注意してください。
8	検索	前回再生を行ったときの最後の日時を起点として、検索・再生画面を表示します。
9	FUNC	ファンクションメニューを表示します。
10	マルチ	マルチ表示方法選択画面を表示します。
11	フリーズ	ライブ画面のカメラ映像を一時停止します。 **要　点** フリーズしても録画データーには影響しません。
12	メニュー	各種設定メニューを表示します。
13	Auto Hide	チェックを入れると、ツールバーを自動的に隠します。 マウスを動かすなどの操作を行うとツールバーは表示されます。

9 - 2 ファンクションメニュー（ライブ）

ライブ画面でマウスを右クリックする、ツールバーの［FUNC］ボタンを選択する、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押すことでファンクションメニュー（ライブ）を開き、各種操作や設定を行うことができます。

ファンクションメニューは階層構造になっています。ファンクションメニューの構成は以下のようになっています。

項目	サブ項目	説明
検索	最後の再生時点に移動	前回再生を行ったときの最後の日時を起点として、検索・再生が面を表示します。
	録画データの最後に移動	録画データーの最後を起点として、検索・再生画面を表示します。
コピー	—	録画データーを USB メモリーに保存できます。
ツール	PTZ	PTZ 操作ができます。
	インスタント PTZ	機能を有効にすると、PTZ 設定がされたカメラチャンネルを全画面表示にしたとき、自動的に PTZ 操作画面に切り替わります。
	カメラ設定	カメラ側の設定をレコーダー側から行うことができます。
	マルチ	マルチ表示方法を選べます。
	シーケンス	一定時間ごとに画面を切り替えるシーケンス機能を起動します。
	カスタム設定	表示中の画面をユーザーチャンネルとして登録できます。登録したユーザーチャンネルは、マルチ設定の［カスタム］に表示されます。
	SPOT	スポットモニターに表示するカメラチャンネルを設定できます。
	デジタルズーム	カメラ映像を拡大表示できます。
	フリーズ	表示中の画面を固定します。
	スナップ写真	表示中の画面を画像データーとして USB メモリーに保存できます。
	マニュアルリレー	リレー出力端子の状態を手動で制御できます。
	緊急録画	緊急録画を開始／終了します。
	All Event Confirm	イベント発生に伴い発生しているブザー鳴動・リレー出力端子の動作をリセットします。
	ブックマーク	表示中の画面にブックマークを追加します。

項目	サブ項目	説明
情報	画面表示情報	画面情報の表示のしかたを設定できます。
	Screen（SPOT）	スポットモニターの画面情報の表示のしかたを設定できます。
	ビデオ	接続しているカメラのタイプや映像信号などの情報を確認できます。
	ネットワーク	ETHERNET 端子の通信状況を確認できます。
	録画	接続しているカメラの録画情報を確認できます。
	ディスク	ハードディスクの情報を確認できます。
	システム	レコーダーの情報を確認できます。
	システムアラーム	システムアラームの発生状況を確認できます。
システム	メニュー	レコーダーの設定メニューを表示します。
	ロック	レコーダーを操作できないようロックします。
	ログアウト	レコーダーからログアウトします。
	電源オフ	レコーダーの電源をオフにします。
	再起動	レコーダーを再起動します。

１０検索

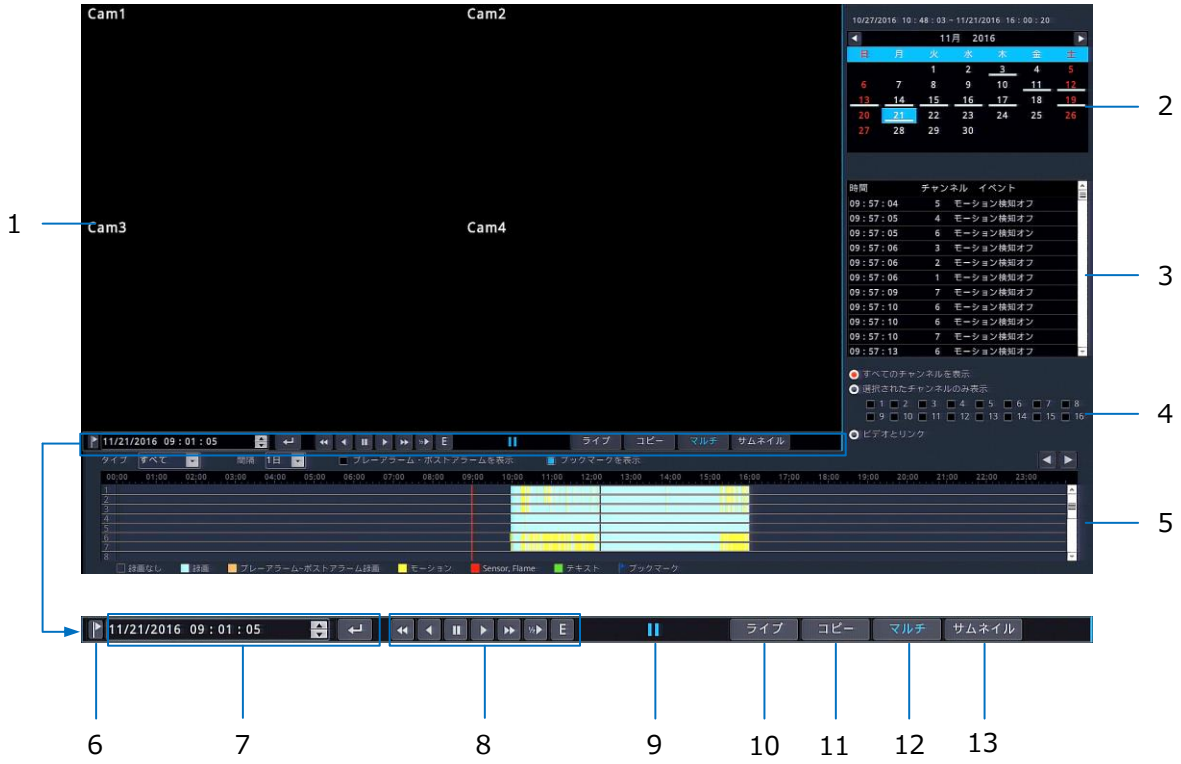
１０-１検索・再生を始める

1	**以下いずれかの方法で検索・再生画面を表示します** ・ ライブ画面下 ツールバーの［検索］ボタンを選択する ・ ライブ画面でマウスを右クリックすると表示される「ファンクションメニュー（ライブ）」の［検索］を選択する ［最後の再生時点に移動］を選ぶと、前回検索・再生を行ったデーターが表示されます。 ［録画データの最後に移動］を選ぶと、最新の録画データーが表示されます。 ・ リモコンの［SEARCH］ボタンを押す

１０-２検索・再生を終わる（ライブ画面に戻る）

1	**検索・再生画面下 ツールバーの［ライブ］を選択する** 検索・再生画面を終了し、ライブ画面に戻ります。

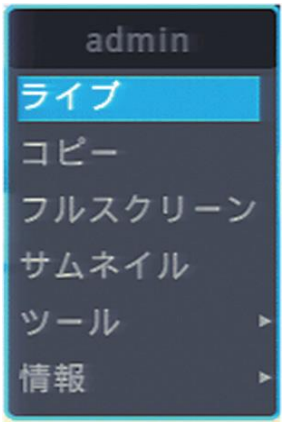
１０-３検索・再生画面の構成



番号	名称	機能
1	再生画面	録画画像が表示されます。
2	カレンダー	カレンダーを表示します。
3	イベントログ	タイムラインに表示されている時間帯について、イベントの発生履歴を表示します。
4	カメラチャンネル選択エリア	タイムラインに表示するカメラチャンネルを選びます。
5	タイムライン	どの時間帯にどの種類の録画データーがあるかを横バー表示します。マウスで左クリックした時間帯に赤い縦バーが移動し、そこが再生ポイントとなります。 タイムライン上部のドロップダウンリストやボタンでタイムラインに表示する情報を切り替えることができます。 [タイプ] タイムライン上に表示するイベントの種類を選べます。 [間隔] タイムラインの表示間隔を変更できます。タイムライン右肩にある［◀][▶］ボタンで表示時間を切り替えることができます。 [プレアラーム・ポストアラームを表示] タイムライン上にプレアラーム・ポストアラームの発生時点が表示されます。 [ブックマークを表示] タイムライン上にブックマークが表示されます。 **要　点** タイムラインの色は、録画状態やタイプを示します。 色の意味はタイムライン下部に凡例として示してあります。
6	ブックマーク	ブックマーク一覧が表示されます。
7	再生時間	再生画像の日時が表示されます。
8	再生操作ボタン群	一時停止、早送りなど再生に関する操作を行うボタン群です。
9	再生ステータス	現在の再生状態を表示します。
10	ライブ	検索・再生を終了し、ライブ画面に戻ります、
11	コピー	録画データーの一部をレコーダーから USB メモリーにコピーします
12	マルチ	画面分割表示方法を選択します
13	サムネイル	サムネイル検索画面を表示します。

１０-４ファンクションメニュー（検索・再生）

検索・再生画面でマウスを右クリックする、ツールバーの［FUNC］ボタンを選択する、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押すことでファンクションメニュー（検索・再生）を開き、各種操作や設定を行うことができます。



項目	サブ項目	説明
ライブ	—	検索・再生を終了し、ライブ画面に戻ります。
コピー	—	録画データーのコピーができます。
フルスクリーン	—	再生画面から、検索条件の情報を消してカメラの映像をフルスクリーン表示にします。フルスクリーン表示のとき、このメニュー項目は［検索］と表示され、フルスクリーン表示を終了することができます。
サムネイル	—	サムネイル検索ができます。
ツール	デジタルズーム	カメラ映像を拡大表示できます。
	スナップ写真	表示中の画面を画像データーとして USB メモリーに保存できます。
	マルチ	マルチ表示方法を選べます。
	ブックマーク	表示中の画面にブックマークを追加します。
情報	画面表示情報	画面情報の表示のしかたを設定できます。

１０-５再生する日付、時間を決定する

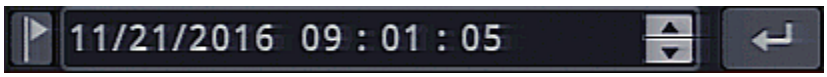
１０-５-１カレンダーとタイムラインで指定する

カレンダー、タイムラインを用いて再生する日付、時間を決定します。

1	**カレンダーで日付を選ぶ** カレンダーに表示されている日付をマウスで左クリックすると、再生する日付が確定します。 ・ アンダーバーがついている日付には録画データーがあります ・ カレンダーの年月表示の左右にある［◀］［▶］を選択すると月の切り替えができます
2	**タイムラインで再生を開始する時間に赤い縦バーを移動する** タイムラインに表示されている時間から、再生を開始したい時間をマウスで左クリックすると、再生する時間が確定し、再生が始まります ・ 再生したい時間がタイムラインに表示されていないときは、タイムライン右肩の［◀］［▶］を選択して、表示時間帯を変更してください。 ・ タイムライン表示のタイムスケールが大きく、再生時間の選択が難しいときは、[間隔] を使用してタイムスケールを変更してください。
3	**再生ボタン群を使用して再生操作を行う** 再生開始後の操作については、「10-6 再生操作」を参照してください。

１０-５-２日時を直接指定する

再生したい日時を数値で指定します。

1	**再生時間表示エリアで再生を開始する日時を設定する** 再生時間の［年/月/日　時:分:秒］のうち、変更したい個所をマウスで左クリックし、再生時間表示エリア右側の［▲］［▼］ボタンを選択すると値を変えることができます。この要領で再生時間を、再生を開始する日時に設定します。 
2	**再生時間の右側にある ↵ ボタンを選択して、再生を開始する。** 指定した時間から再生を開始します。
3	**再生ボタン群を使用して再生操作を行う** 再生開始後の操作については、「10-6　再生操作」を参照してください。

１０-５-３イベントログから選択する

イベントログ（モーション、センサー、緊急録画）から再生したい情報を選択して再生します。

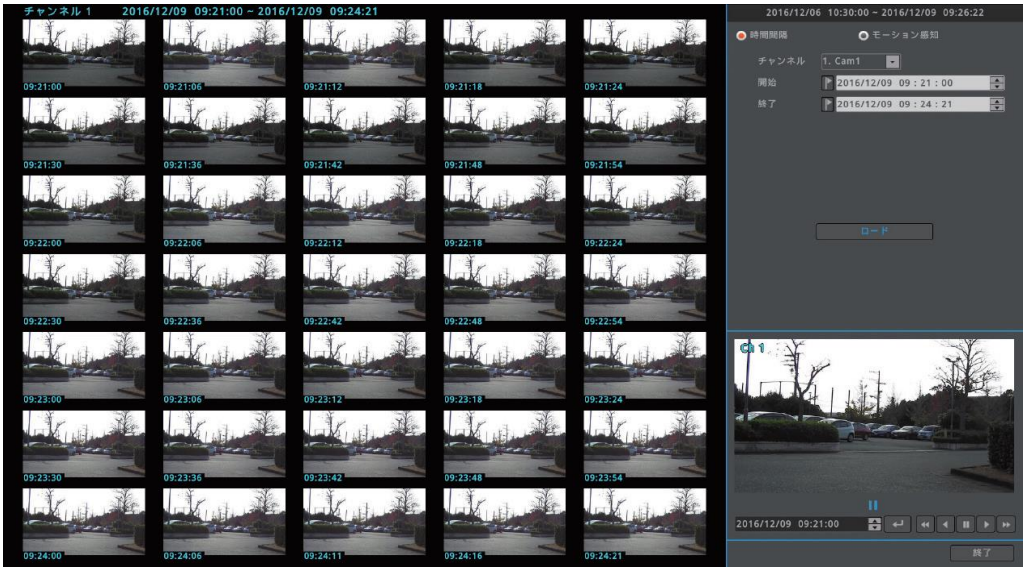
1	**イベントログから見たいイベントを選ぶ** イベントを選択すると、イベント発生日時から再生を開始します。 時間　チャンネル　イベント 09 : 57 : 04　5　モーション検知オフ 09 : 57 : 05　4　モーション検知オフ 09 : 57 : 05　6　モーション検知オン 09 : 57 : 06　3　モーション検知オフ 09 : 57 : 06　2　モーション検知オフ 09 : 57 : 06　1　モーション検知オフ 09 : 57 : 09　7　モーション検知オフ 09 : 57 : 10　6　モーション検知オフ 09 : 57 : 10　6　モーション検知オン 09 : 57 : 10　7　モーション検知オン 09 : 57 : 13　6　モーション検知オフ
2	**再生ボタン群を使用して再生操作を行う** 再生開始後の操作については、「10-6　再生操作」を参照してください。

要　点
イベントログには、タイムラインに表示されている時間帯のイベントのみが表示されます。

１０-５-４サムネイル検索機能を使う

縮小画像（サムネイル）を一覧表示し、その映像を見ながら再生を始める日付、時間を指定します。

サムネイルの一覧を作成する方法は、一定時間ごとにサムネイルを抽出する「時間間隔」と、動きがあった映像をサムネイルとして抽出する「モーション感知」の２種類から選ぶことができます。

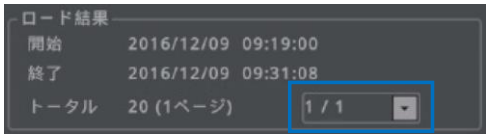
1	**検索・再生画面下のツールバーから［サムネイル］を選択する** サムネイル検索画面に切り替わります。「ファンクションメニュー（検索・再生）」の［サムネイル］から表示を切り替えることができます。 
2	**検索方法を設定する** 検索方法として［時間間隔］と［モーション感知］のいずれかを選択します。
3	**検索条件を設定する** ［時間間隔］の場合 検索対象期間を 35 分割してサムネイルを作成します。

チャンネル	検索対象となるカメラチャンネルを選択します。
開始	検索対象となる期間の開始日時を設定します。左側の を選択するとブックマークリストから開始日時を選ぶことができます。
終了	検索対象となる期間の終了日時を設定します。左側の を選択するとブックマークリストから終了日時を選ぶことができます。

[モーション感知] の場合

検索対象期間から動きがある個所を検出し、サムネイルを作成します。

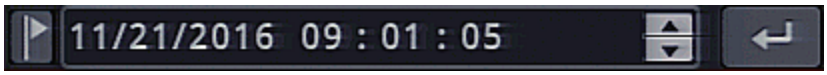
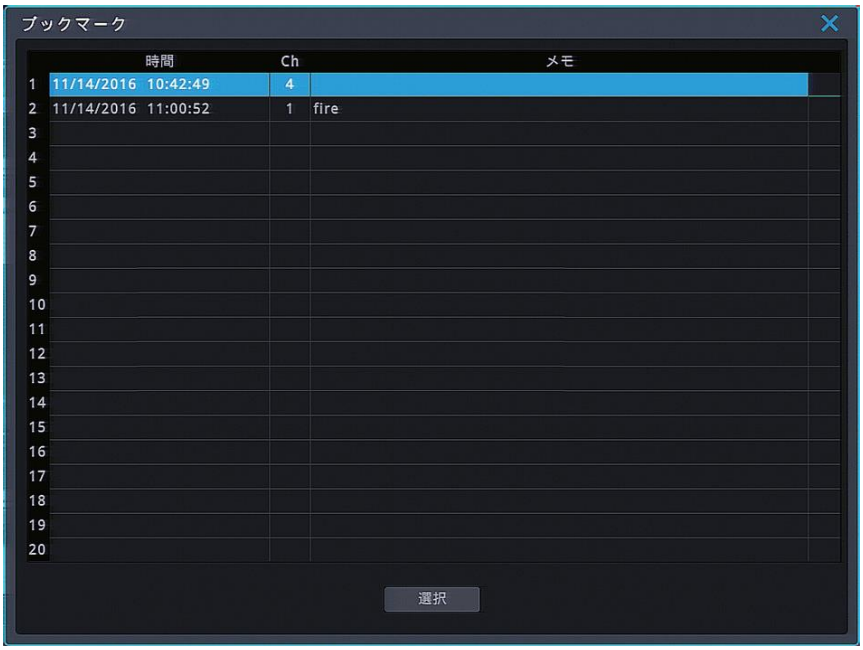
チャンネル	検索対象となるカメラチャンネルを選択します。
開始	検索対象となる期間の開始日時を設定します。左側の を選択するとブックマークリストから開始日時を選ぶことができます。
終了	検索対象となる期間の終了日時を設定します。左側の を選択するとブックマークリストから終了日時を選ぶことができます。
チェック間隔	モーション感知をチェックする間隔を設定します。 時間を短くすると検出の精度は上がりますがサムネイルを作成する時間が長くなります。
感知エリア	モーションを感知するエリアを設定します。選択すると全画面表示となり、感知エリアのオン／オフをマウスの左ボタンをダブルクリックすることで切り替えることができます。

4	**[ロード] を選択してサムネイル一覧を作成する** [時間間隔] の場合 検索期間の長短にかかわらず 35 枚のサムネイルが作成されます。 [モーション感知] の場合 モーションが感知された数だけサムネイルが作成されます。 サムネイルが画面に収まりきらないときは複数のページが作成されます。ページの切り替えは検索条件の下部に表示される［ロード結果］から行います。 
5	**再生したいサムネイルを選び再生を開始する** 再生開始後の操作については、「10-6 再生操作」を参照してください。
6	**[終了] を選択するとサムネイル検索を終了し、検索・再生画面に戻ります**

１０-５-５ブックマークから選択する

ブックマークを付けた位置から再生します。

ブックマークの付け方については「12-15 ブックマーク」を参照してください。

1	**再生日時左側の を選択してブックマークリストを表示する** 
2	**ブックマークリストから再生したいブックマークを選択して［選択］で再生日時を確定する** 
2	**再生時間の右側にある ボタンを選択して再生を開始する** 指定した時間から再生を開始します。
3	**再生ボタン群を使用して再生操作を行う** 再生開始後の操作については、「10-6 再生操作」を参照してください。

１０-６再生操作

再生を開始したのちは、リモコンやマウスで各種の再生操作ができます。

リモコンでの操作は「5．各部の名称と働きーリモコン」を参照してください。

マウスでの操作は、画面上の再生操作アイコン群で行います。

	巻き戻し クリックするごとに 1 倍速→ 2 倍速→ 4 倍速→ 8 倍速→ 16 倍速→ 32 倍速→ 64 倍速の順に切り替わります。
	逆再生
	一時停止
	再生
	早送り クリックするごとに 1 倍速→ 2 倍速→ 4 倍速→ 8 倍速→ 16 倍速→ 32 倍速→ 64 倍速の順に切り替わります。
	1/2 倍速再生
	イベント再生 イベント録画の映像のみを再生します。

１１コピー

録画画像をレコーダーから USB メモリーにコピーできます。

要　点
・　本製品のコピー機能は、ハードディスク内の記録画像から重要な個所のみを取り出すことを目的としています。ハードディスク全体をコピーすることはできません。 ・　1 時間程度を目安にコピー期間を設定してください。 ・　USB メモリーは、USB2.0 以上で、FAT32 フォーマットされたものをご用意ください。 ・　USB メモリーは、コピー作業開始前にレコーダーの USB ポートに接続し、コピーが完了してから取り出してください。

１１-１録画画像を USB メモリーにコピーする

1	**以下いずれかの方法でコピー画面を表示する** ・「ファンクションメニュー（ライブ）」の［コピー］を選択する ・「ファンクションメニュー（検索・再生）」の［コピー］を選択する ・　検索・再生画面下のツールバーから［コピー］を選択する ・　リモコンの［COPY］ボタンを押す
2	**コピー条件を設定する**

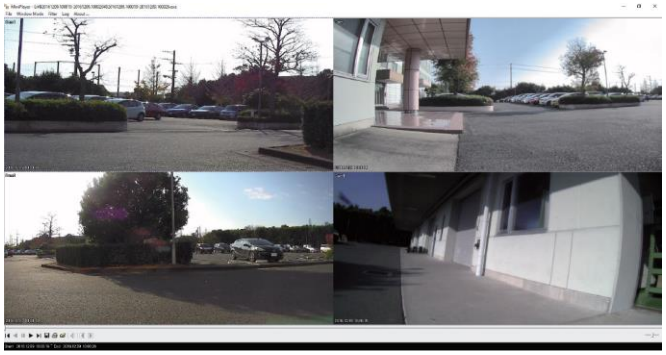
タイプ	保存ファイル形式を選びます。 [EXE] 実行形式でファイルが保存されます。EXE ファイルには以下の特徴があります。 ・ ファイル単体で再生可能 ・ 複数のカメラチャンネルをまとめてコピー可能 ・ タイムスタンプあり ・ Windows のみで再生可能 [AVI] 汎用の映像形式であるAVIでファイルが保存されます。AVIファイルには以下の特徴があります。 ・ 別途再生アプリケーションが必要 ・ カメラチャンネル 1 つずつのコピー ・ タイムスタンプなし ・ OS に依存しない
チャンネル	録画画像を保存するカメラチャンネルを選びます。 [すべて選択] を選ぶとすべてのカメラチャンネルを選択します。 [リセット] を選ぶと選択がすべてのカメラチャンネルの選択を解除します。 [タイプ] が [AVI] のとき、選択できるカメラチャンネルは 1 つです。
コピー可能範囲	コピー可能な録画期間が表示されます。この範囲のなかでコピー期間を設定します。
開始／終了	保存する期間を設定します。左側の で、ブックマークリストから時間を選べます。
ディスクリスト	接続されている USB 機器が表示されます。
予想ファイルサイズ	設定内容でファイルを作成した場合の予想ファイルサイズを計算します。
開始	コピーを開始します。
フォーマット	接続されている USB 機器をフォーマットします。 [フォーマット] を選ぶと直ちにフォーマットが実行されます、確認画面はありませんので注意してください。

3	**[開始] を選びコピーを開始する**
4	**[バックアップ完了] と表示されたら [OK] を選ぶ**

１１-２コピーした映像を再生する

コピーした画像は、パソコンで再生することができます。

1	**USB メモリーをパソコンに接続する**
2	**バックアップファイルをパソコンにコピーする**
3	**バックアップファイルをダブルクリックする** EXE 形式の場合は専用のビューワーが起動します。 AVI 形式の場合はファイル形式に対応した動画再生ソフトをご利用ください。



Window mode	分割表示パターンを切り替えます。
スライダーバー	再生時間を表示します。クリックやドラッグで再生個所を変更できます。
	ボタンを押すたびにコマを戻します。
	録画画像を逆再生します。
	再生を一時停止します。
	録画画像を再生します。
	ボタンを押すたびにコマ送りします。
	映像を静止画（bmp 形式）として保存します。
	映像をプリンターに出力します。
	バックアップファイルを開きます。
	音声の出力状態を表示します。また、音声出力中に押すとミュートします。
	複数カメラチャンネルを保存している場合に、前のカメラチャンネルを表示します。
	複数カメラチャンネルを保存している場合に、次のカメラチャンネルを表示します。

要　点
録音がされているカメラチャンネルをバックアップした場合、そのカメラチャンネルを 1 画面表示にすることで音声が再生されます（マルチ表示では音声は出力されません）。

１２ツール

１２-１PTZ

PTZ カメラが接続されているとき、ライブ画面上からレンズの向きを変えたり、ズームの操作をしたりできます。

要　点
PTZ カメラを操作するには、各種設定メニューの［デバイス］＞［PTZ］でカメラの設定を行う必要があります。

１２-１-１PTZ カメラを操作する。

1	**ライブ画面下部ツールバーの［FUNC］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を開き、［ツール］＞［PTZ］を選択する。**
2	**PTZ 制御画面でカメラを操作する**
3	**［×］を選んで PTZ 設定画面を閉じる**

チャンネル	制御するカメラチャンネルをドロップダウンリストから選択します。
パン／チルト	［▲］［▼］［◀］［▶］のボタンを押した方向にレンズを動かします。
ズーム	ズームイン（テレ）、ズームアウト（ワイド）します。
フォーカス	ピントを近く（ニア）、遠く（ファー）に合わせます。
Aux	補助機能のオン／オフを実行します。 補助機能の設定は、各種設定メニューの［デバイス］＞［PTZ］＞［etc］で設定できます。
プリセット	プリセットの呼び出し（ロード）、保存（セーブ）、消去（クリア）を行います。

１２-２インスタント PTZ

PTZ カメラが接続されたカメラチャンネルを全画面表示にすると、自動的に簡易 PTZ 機能が有効になります。

１２-２-１インスタント PTZ をオン／オフする

1	**ライブ画面下部ツールバーの［FUNC］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を開き、[ツール］＞［インスタント PTZ］を選択する。**
2	**［インスタント PTZ］の左側のチェックマークを確認する** ・ チェックマークあり：インスタント PTZ 有効 ・ チェックマークなし：インスタント PTZ 無効

１２-２-２インスタント PTZ 制御を行う

1	**PTZ 制御したいカメラチャンネルを全画面表示にする** 画面中央に十字が表示され、インスタント PTZ 制御可能であることを示します。
2	**PTZ 制御を行う** ・ 映像を見たい方向をマウスで左クリックするとレンズがその方向に動きます ・ ホイールを回転させると、ズームイン／ズームアウトします

１２-３カメラ設定

PTZ カメラが接続されたカメラチャンネルでは、カメラ側設定のうち、OSD(On Screen Display)メニューを用いて設定する部分を、レコーダーから遠隔操作できます。

1	**ライブ画面下部ツールバーの［FUNC］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を開き、[ツール] ＞ [カメラ設定] を選択する。**
2	**カメラ設定画面を用いてカメラ設定を行う**
3	**[×] を選んでカメラ設定画面を閉じる**

要　点
本製品がサポートするのは、カメラの OSD メニューを呼び出すことと、OSD 上の操作（上下左右のカーソル動作、決定、ズーム、フォーカス）です。 各操作信号を受信したカメラがどのような振る舞いをするか、またカメラの設定内容に関してはカメラ側の仕様によります。カメラの説明書を参照してください。

１２-４マルチ

画面の分割方法や表示するカメラチャンネルを選択します。

1	**ライブ画面下部ツールバーの［FUNC］ボタンを押す、ライブ画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を開き、[ツール］＞［マルチ］を選択する。**
2	**マルチ設定画面で表示方法を選ぶ**
3	**[×］を選んでマルチ設定画面を閉じる**

	選択したカメラチャンネルを全画面表示します。 表示するカメラチャンネルはドロップダウンリストから選びます。
A B C	「ファンクションメニュー（ライブ）」の［カスタム設定］で登録したカメラチャンネルを表示します。
	アイコンの上に表示されているカメラチャンネルを４分割で表示します。
	アイコンの上に表示されているカメラチャンネルを６分割で表示します。
	アイコンの上に表示されているカメラチャンネルを９分割で表示します。
	アイコンの上に表示されているカメラチャンネルを 10 分割（大 2、小 8）で表示します。
	アイコンの上に表示されているカメラチャンネルを 13 分割（大 1、小 12）で表示します。
	アイコンの上に表示されているカメラチャンネルを 16 分割で表示します。
自動設定	４Ｋカメラの映像を通常のカメラ４台分のスペースで表示します。

１２-５シーケンス

複数のカメラチャンネルを自動的に切り替えて表示します。

１２-５-１シーケンスを開始する

1	**ライブ画面右上に SEQ が表示されていないことを確認する** SEQ が表示されているときはすでにシーケンスを実行中です。
2	**ライブ画面下部ツールバーの［FUNC］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を開き、［ツール］＞［シーケンス］を選択する。**
3	**シーケンスが開始され画面右上に SEQ が表示される**

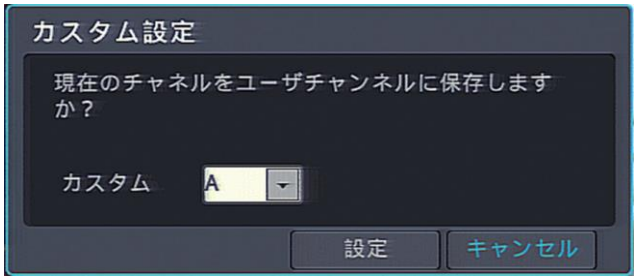
１２-５-２シーケンスを終了する

1	**ライブ画面右上に SEQ が表示されていることを確認する** SEQ が表示されていないときはすでにシーケンスは停止しています。
2	**ライブ画面下部ツールバーの［FUNC］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を開き、［ツール］＞［シーケンス］を選択する。**
3	**シーケンスが終了し、画面右上の SEQ が消える**

要　点
シーケンス画面が切り替わる時間やカメラチャンネルの表示順序などは、各種設定メニューの［デバイス］＞［モニター］で設定します。

１２-６カスタム設定

カスタム設定を使用すると、マルチ画面のカメラ配置を任意に変更できます。

1	**マルチ画面のカメラ配置をカスタム設定に登録したい配置にする** ① ライブ画面をカスタム設定に登録したい分割にします。 ② ライブ画面下部ツールバーの［FUNC］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を開き、[情報］＞［画面表示］を選択します。 ③ 画面表示設定画面の［チャンネル名］を一番下のドロップダウン形式に変更します ④ 画面表示画面右上の［✕］を選択して画面表示設定画面を閉じます ⑤ ライブ画面に表示されるカメラ番号・カメラ名称がドロップダウンダウン形式となり、カメラ表示位置を入れ替えできるようになります。 ⑥ カメラ配置の変更が終わったら、①～③の手順で［チャンネル名］を元の表現形式に戻します。
2	**ライブ画面下部ツールバーの［FUNC］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を開き、[ツール］＞［カスタム設定］を選択する。**
3	**カスタム設定画面で登録する**  ドロップダウンリストから登録先を選び、［設定］で登録します。

１２-７SPOT

スポットモニターの表示パターンを設定します。

1	**ライブ画面下部ツールバーの［FUNC］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を開き、［ツール］＞［SPOT］を選択する。**
2	**SPOT 設定画面で表示パターンを選ぶ** チャンネル選択：選択したカメラチャンネルを表示します。 自動シーケンス：シーケンス表示します。
3	**[×] を選んで SPOT 設定画面を閉じる**

要　点
自動シーケンスするカメラ、順番は、各種設定メニュー＞［デバイス］＞［モニター］＞［Spot Sequence］で設定します。

１２-８デジタルズーム

モニタリング中に気になる点があった場合、その部分を拡大して詳細を確認できます。

要　点
・　デジタルズームはマルチ表示やシーケンス表示中は使用できません。 ・　検索・再生画面でも同様の手順でデジタルズームを使用できます。 ・　デジタルズームは、レコーダー側に表示されている映像のドットを大きくすることで映像をズームします。そのためズーム倍率を上げると画像が荒くなりますが異常ではありません。

1	**デジタルズームを行うカメラチャンネルを全画面表示にする**
2	**画面左上に表示されている　アイコンを選択する** 　アイコンが表示されていない場合はライブ画面下部ツールバーの［FUNC］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を開き、[ツール] ＞ ［デジタルズーム］を選択してもデジタルズームを開始できます。
3	**拡大したい範囲をマウスでドラッグする** マウスでドラッグした範囲が拡大表示されます。アスペクト比は自動調整されます。
4	**デジタルズーム設定画面で表示領域を調整する** ［＋］を選択すると拡大、［－］を選択すると縮小します。 10 倍まで拡大できます。 拡大表示する位置を矢印の方向に移動します。 拡大表示する位置はマウスのドラッグでも移動できます。 等倍表示に戻します。
5	**［×］を選んでデジタルズーム設定画面を閉じる**

１２-９フリーズ（ライブ画面の一時停止）

モニタリングに気になる点があった場合、ライブ画面をフリーズ（一時停止）して確認することができます。

１２-９-１画面をフリーズする

1	**ライブ画面右上に FREEZE が表示されていないことを確認する** FREEZE が表示されているときはすでにフリーズを実行中です。
2	**ライブ画面下部ツールバーの［フリーズ］ボタンを選択する** ライブ画面下部ツールバーの［FUNC］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を開き、［ツール］＞［フリーズ］を選択しても画面をフリーズできます。
3	**画面がフリーズし、画面右上に FREEZE が表示される。**

１２-９-２フリーズを解除する

1	**ライブ画面右上に FREEZE が表示されていることを確認する** FREEZE が表示されていないときはすでにフリーズ解除中です。
2	**ライブ画面下部ツールバーの［フリーズ］ボタンを押す** ライブ画面下部ツールバーの［FUNC］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を開き、［ツール］＞［フリーズ］を選択しても画面のフリーズを解除できます。
3	**フリーズが解除され、画面右上の FREEZE が消える。**

要　点
フリーズ中も、録画はカメラからの映像を動画として記録し続けます。

１２-１０スナップ写真（静止画記録）

モニタリング中、気になる場面を静止画で USB メモリーに保存することができます。

要　点
・　静止画の保存先は USB メモリーとなります。あらかじめレコーダーの USB 端子に USB メモリーを接続してください。 ・　USB メモリーは USB 2.0 以上で FAT32 フォーマットされたものをご使用ください。 ・　スナップ写真はマルチ表示やシーケンス表示中は使用できません。 ・　検索・再生画面でも同様の手順でスナップ写真を保存することができます。

1	**ライブ画面下部ツールバーの［FUNC］ボタンを押す、ライブ画面でマウスを右クリックする、検索・再生画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー」を開き、[ツール］＞［スナップ写真］を選択する。** ライブ画面でフリーズ中に、画面右上の SNAPSHOT を選択してもスナップ写真を保存することができます。

１２-１１マニュアルリレー

リレーの出力状態を手動操作で変更できます。

1	**ライブ画面下部ツールバーの［FUNC］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を開き、［ツール］＞［手動リレー］を選択する。**
2	**手動リレー設定画面で操作する** 手動で操作したいリレーチャンネルの［オン］、［オフ］を選択すると、リレー出力の状態が変化します。

要　点
マニュアルリレーにより現在のリレー状態を変更したのち、他のリレー動作要因（例：ビデオロスや HDD の異常）が発生したときは、他のリレー動作要因によりリレー状態が変化します。 マニュアルリレーによる操作でリレー状態をラッチするわけではありませんので注意してください。

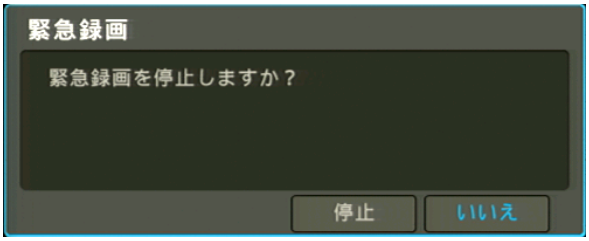
１２-１２緊急録画

録画設定上録画していないとき（イベント録画のみ設定でイベントが発生していないときなど）、急遽録画が必要となったとき、録画設定にかかわらず手動操作で録画を開始することができます。

１２-１２-１緊急録画を開始する

1	**ライブ画面下部ツールバーに ! アイコンが表示されていないことを確認する** ! アイコンが表示されているときは、すでに緊急録画中です。
2	**ライブ画面でマウスを右クリックする、リモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を開き、[ツール] ＞ ［緊急録画］を選択する、またはリモコンの［REC］ボタンを押す。** 画面下部ツールバーに ! アイコンが表示され緊急録画中であることを表します。

１２-１２-２緊急録画を終了する

1	**ライブ画面下部ツールバーに ! アイコンが表示されていることを確認する** ! アイコンが表示されていないときは、すでに緊急録画は終了しています。
2	**ライブ画面でマウスを右クリックする、リモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を開き、[ツール] ＞ ［緊急録画］を選択する、またはリモコンの［REC］ボタンを押す。**
3	**確認画面で［停止］を選択する**  画面下部ツールバーから ! アイコンが消え、緊急録画が終了していることを表します。

１２-１３All Event Confirm

アラーム出力、ブザー鳴動が発生するイベント（例：ビデオロス、HDD 異常）が発生し、要因となるイベントが復旧しているにもかかわらずアラーム出力、ブザー鳴動が続いているとき、アラーム出力、ブザー鳴動を停止します。

1	**ライブ画面下部ツールバーの［FUNC］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を開き、[ツール] ＞ [All Event Confirm] を選択する。**

要　点
All Event Confirm の操作を行っても、イベント発生の要因がすべて復旧していないと、アラーム出力、ブザー鳴動は停止しません。

１２-１４ブックマーク

モニタリング中、気になる点（後から再生する可能性がある）が発生した場合、録画データーにその日時をブックマーク（しおり）できます。

要　点
ブックマークは、検索・再生画面でも登録できます。

1	**ライブ画面下部ツールバーの［FUNC］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックする、検索・再生画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を開き、[ツール] ＞ [ブックマーク] を選択する。**
2	**ブックマーク設定画面でブックマークを登録する**

番号	ブックマークの登録番号を選択します。
時間	ブックマークする日時を設定します。
ch	ブックマークするカメラチャンネルを選択します。
メモ	ブックマークにメモ（ブックマークした理由など）を入力します。 英数字が使用できます。
追加／上書き	ブックマークを追加、上書きします。

要　点
ブックマークの利用方法については「10-5-5 ブックマークから選択する」を参照してください。

１３情報

１３-１画面表示設定

画面に表示する文字の色やサイズ、各種情報の表示・非常時や表示形式を設定できます。

<table>
<tr><td>1</td><td>ライブ画面下部ツールバーの［FUNC］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックする、検索・再生画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を開き、[情報] ＞ ［画面表示設定］を選択する。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>画面表示設定を編集する

<table>
<tr><td>チャンネル名</td><td>カメラチャンネルの表示方法を選択します。
<table><tr><th>要　点</th></tr><tr><td>表現方法でドロップダウンリストを選択すると、マルチ表示画面でカメラ表示位置の変更ができるようになります。</td></tr></table></td></tr>
<tr><td>ビデオ上のテキスト</td><td>画面に表示される文字の色、サイズ、文字の縁取りを設定します。</td></tr>
<tr><td>表示/非表示/自動表示</td><td>画面に表示される項目の有無、表示方法を設定します。</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

１３-２Screen（SPOT）

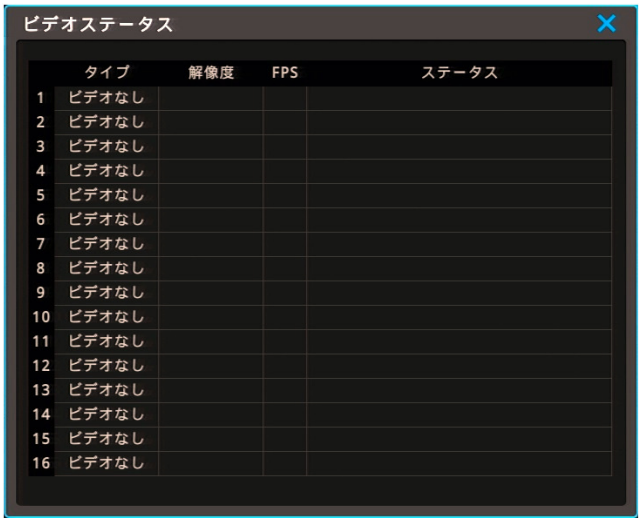
スポットモニターへのカメラチャンネル名称の表示方法を設定できます。

1	**ライブ画面下部ツールバーの［FUNC］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックする、検索・再生画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を開き、[情報] ＞ [Screen(SPOT)] を選択する。**
2	**Screen（SPOT）設定を編集する**

Channel Name Show	スポットモニターにカメラチャンネル名称を表示するか、しないかを設定できます。 [表示] を選ぶと、カメラチャンネル名称を表示します。 [非表示] を選ぶと、カメラチャンネル名を表示しません。
Channl Name Experession	[Channnel Name Show] が [非表示] のとき、画面に表示するカメラチャンネル名の形式を設定できます。 [1.Cam1] を選ぶと、「カメラチャンネル番号＋カメラチャンネル名」で表示します [Cam1] を選ぶと、「カメラチャンネル名」で表示します。 [1] を選ぶと、「カメラチャンネル番号」で表示します。

１３-３ビデオ

各カメラチャンネルに接続されたカメラの情報を表示できます。

1	**ライブ画面下部ツールバーの［FUNC］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックする、検索・再生画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を開き、[情報] ＞ [ビデオ] を選択する。**
2	**ビデオ情報を確認する** 

１３-４録画

各カメラチャンネルの録画状況を表示できます。

1	**ライブ画面下部ツールバーの［FUNC］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックする、検索・再生画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を開き、[情報] ＞ [録画] を選択する。**
2	**録画状況を確認する**

	解像度	FPS	画質	ビデオ	音声
1	ビデオなし	-	-	-	-
2	ビデオなし	-	-	-	-
3	ビデオなし	-	-	-	-
4	ビデオなし	-	-	-	-
5	ビデオなし	-	-	-	-
6	ビデオなし	-	-	-	-
7	ビデオなし	-	-	-	-
8	ビデオなし	-	-	-	-
9	ビデオなし	-	-	-	-
10	ビデオなし	-	-	-	-
11	ビデオなし	-	-	-	-
12	ビデオなし	-	-	-	-
13	ビデオなし	-	-	-	-
14	ビデオなし	-	-	-	-
15	ビデオなし	-	-	-	-
16	ビデオなし	-	-	-	-

１３-５ディスク

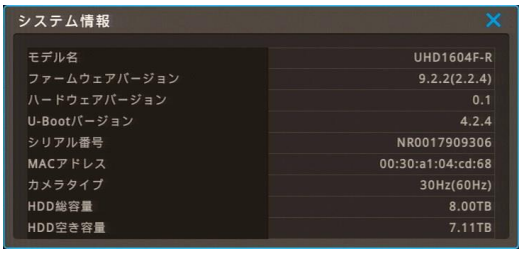
レコーダーで認識しているハードディスクの情報を表示します。

1	**ライブ画面下部ツールバーの［FUNC］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックする、検索・再生画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を開き、[情報] ＞ [ディスク] を選択する。**
2	**ハードディスク情報を確認する**

タイプ	モデル	不良ブロック	サイズ(MB)	S.M.A.R.T	有効
Int A	ATA WDC WD40PUR	0	4000786	良好	はい
Int B	ATA WDC WD40PUR	0	4000786	良好	はい

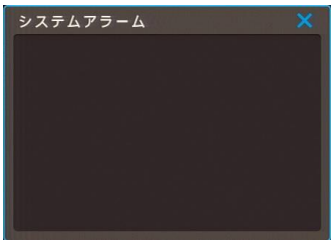
１３-６システム

レコーダーのモデル名やファームウェアのバージョンなどの詳細情報を表示します。

1	**ライブ画面下部ツールバーの［FUNC］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックする、検索・再生画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を開き、[情報] ＞ [システム] を選択する。**
2	**システム情報を確認する** 

１３-７システムアラーム

レコーダーでシステムアラームが発生している場合、その情報を表示できます。

1	**ライブ画面下部ツールバーの［FUNC］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックする、検索・再生画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を開き、[情報] ＞ [システムアラーム] を選択する。**
2	**システムアラーム情報を確認する** 

１４システム

１４-１メニュー

製品の各種設定を行います。

１４-１-１メニュー画面の使い方

1	**ライブ画面下部ツールバーの［メニュー］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックするかリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を表示させ、［システム］＞［メニュー］を選択する、またはリモコンの［MENU］ボタンを押す。** 各種設定を行うメニュー画面が表示されます。
2	**メニュー画面で設定項目を選び、設定する**

メインメニュー	メニューで設定する設定のジャンルを選択します。選択されているアイコンは明るい色になります。 選択されているアイコンに合わせ、サブメニューの表示項目は変化します。
サブメニュー	選択したメインメニューに関連した設定項目がタブで表示されます。
設定項目	選択したサブメニューに対する設定項目が表示されます。
変更を保存	編集内容を保存するときに押します。表示されている設定項目に変更がないときにはボタンが無効になっています。

3	**[設定を保存] ボタンを選択して設定の編集内容を確定する**
4	**メインメニューから [×] を選択してメニュー画面を閉じる**

１４-１-２メインメニュー、サブメニューマップ

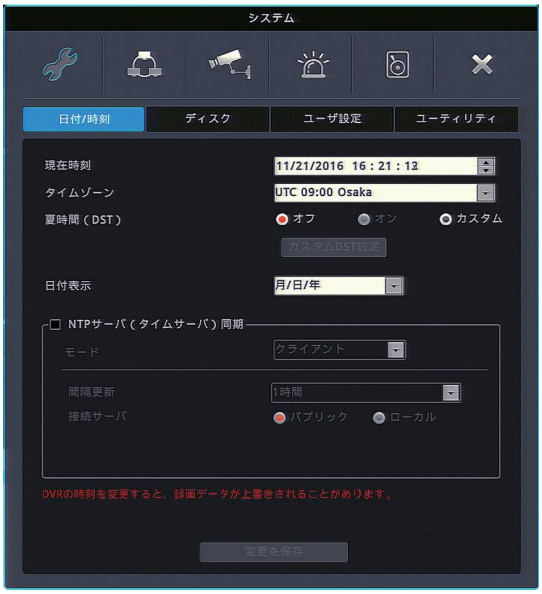
メインメニュー	サブメニュー	主な設定項目
システム	日付／時刻	現在時刻、タイムゾーン、NTP
	ディスク	ディスクマネージャ、RAID マネージャ、上書き設定
	ユーザ設定	ユーザーID、パスワード、操作権限
	ユーティリティ	リモコン ID、システム情報、システムログ
ネットワーク	ネットワーク	IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNS、ポート
	DDNS	DDNS ドメイン
	WRS	WRS 登録
	Radius	（使用しません）
デバイス	Camera	使用/未使用、カメラ名
	PTZ	ポート、デバイス、アドレス、ボーレート
	モニター	シーケンス設定、解像度、スポットシーケンス設定
	音声	使用/未使用、割り付けカメラチャンネル、録音
	テキスト	（使用しません）
イベント	イベント	リレー、ブザー、電子メール、ポップアップ
	モーション	使用/未使用、モーションエリア、感度
	センサー	使用/未使用、NO/NC
録画	録画	録画モード、プログラム
終了	—	メニューを閉じます

１４-１-３システム

レコーダー全般の設定を行います。

システム> 日付／時刻

レコーダーの時計合わせなど、日時について設定します。



現在時刻	現在の日付／時刻が表示されます。 年・月・日など変更したい部分にカーソルを合わせ右側の上下矢印で数値を変更できます。	
タイムゾーン	現在のタイムゾーンが表示されます。 ドロップダウンリストからタイムゾーンを設定できます。 [UTC 09:00 Osaka] を選んでください。	
夏時間（DST）	夏時間を利用するかどうか選べます。 [オフ] に設定してください。	
日付表示	年、月、日の並び順を選べます。	
NTP サーバ （タイムサーバ）同期	チェックすると、ネットワーク上のタイムサーバと日時を自動的に同期機能が有効になり、以下の項目が設定可能となります。	
	モード	[クライアント] はタイムサーバと内部時計を同期します。 [サーバ] はレコーダーがタイムサーバーになります。 [クライアント＋サーバ] 両方の機能が働きます。
	間隔更新	サーバと日時を同期する間隔を設定します。
	接続サーバ	[パブリック] はインターネット上のデフォルトタイムサーバを使用します。 [ローカル] はタイムサーバを手動設定します。
	サーバ IP アドレス	[接続サーバ] を [ローカル] にした場合、サーバーの IP アドレス、またはドメインを指定します。

要　点
・　日付／時刻の設定が実際の日付／時刻と大きく違っていても、レコーダーはその時間を基準に録画を行います。録画データーのタイムスタンプが実際の日付／時刻と大きく違っていると、検索などのときに正しい画像を検索できなくなりますので、日付／時刻はできるだけ正確に設定してください。 ・　インターネットに接続できる環境でご使用になるときは、インターネット上のタイムサーバと同期させることをお勧めします。

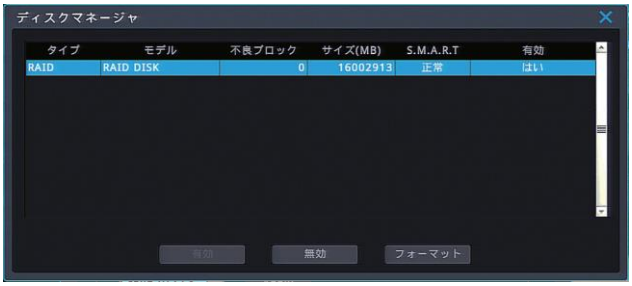
システム＞ディスク

ハードディスクの管理や動作方法の設定ができます。

デバイスマネージャ	ハードディスクの管理ができます。
RAID マネージャ	RAID の構築ができます。
ハードディスクの 空き容量がなくなった場合	ハードディスクの空き容量がなくなったときの動作を設定します。 [上書き（古いデータを自動削除）] を選ぶと、古い記録から上書きして録画します。 [録画停止] を選ぶと、録画を自動停止します。
ブロック再生	機能を有効にすると、設定した期間の録画データーのみ再生できます。 [録画データも削除] を有効にすると、設定した期間の録画データーのみ残し、それよりも古い録画データーを削除します。 **要　点** 一度削除した録画データーは元に戻せません。ご注意ください。
NS04R グループ	増設 HDD ユニット NS04R が接続されているとき、接続されている NS04R のグループ ID が表示されます。 レコーダー側で任意のグループ ID を設定することもできます。

デバイスマネージャ

内蔵および増設 HDD ユニット NS04R 内のハードディスクを管理します。



タイプ	ハードディスクのタイプが表示されます。
モデル	ハードディスクの名前が表示されます。
不良ブロック	不良ブロックがある場合に数を表示します。問題がない場合は、0 が表示されます。
サイズ（MB）	ハードディスクの容量が MB（メガバイト）で表示されます。
S.M.A.R.T	ハードディスクの状態が表示されます。 [正常] のときは、正しく動作しています。 [異常] のときは、ハードディスクに異常があります。ハードディスクの交換が必要です。
有効	ハードディスクが利用可能かどうか表示されます。 [はい] のときは、利用可能です。 [いいえ] のときは、利用できません。
有効（ボタン）	[有効] が [いいえ] のディスクを有効にできます。
無効（ボタン）	[有効] が [はい] のディスクを無効にできます。
フォーマット（ボタン）	選択したディスクをフォーマットできます。 **要　点** [フォーマット] ボタンを押すと、確認画面無しでフォーマットが実行されます。フォーマットにより失われた録画データーは復旧できませんので注意してください。

RAID マネージャ

RAID 情報の確認や RAID の構築ができます。

全体的な状態	RAID の動作状況が表示されます。 ストレージを選択すると、[ディスク情報]、［RAID 情報］に選択したストレージの詳細が表示されます。
ディスク情報	RAID を構成するハードディスクの情報が表示されます。
RAID 情報	RAID の状態が表示されます。 [削除］ボタンを押すと RAID 構成を削除します。
RAID 作成	RAID を構築できます。 RAID を構築するには、［RAID メンバー］で RAID を構成するハードディスクを選び、［RAID レベル］で RAID レベルを選択したのち、［RAID 作成］ボタンを選択します。
更新	設定変更内容を更新します。

要　点
RAID 構成を変更後は、［ディスクマネージャ］で RAID ドライブを有効化後、フォーマットを実行してください。

システム＞ユーザ設定

レコーダーの操作を行うユーザーの設定を行います。

ユーザ	設定を行うユーザーを選択します。
ID/パスワードの変更	ID/パスワードの編集画面を開きます。
閲覧チャンネル	選択したユーザーが閲覧できるカメラチャンネルを設定できます。
操作権限	選択したユーザーが使用可能な機能を設定できます。
追加ユーザー管理	追加設定画面を開きます。

要　点

製品出荷時に登録されているユーザーと操作権限は以下の通りです。

出荷時の閲覧チャンネル/操作権限一覧		
閲覧チャンネル／操作権限	ID	
	admin	User1～User10
閲覧チャンネル	すべてオン	すべてオフ
再生/検索	○	×
メニュー	○	×
コピー	○	×
PTZ	○	×
カメラ設定	○	×
マニュアルリレー	○	×
電源オフ	○	×
ネットワーク音声	○	×

ID/パスワードの変更

IDとパスワードを変更します。IDは英数字20文字以内、パスワードは英数字で5~15文字の間で登録できます。

要　点

- IDとパスワードを初期値のまま使用すると、不正なアクセスによる画像・音声・情報の閲覧、漏洩につながる恐れがあります。特に管理者用ID、管理者用パスワードは必ず工場出荷時の初期値から変更してご使用ください。
- 変更されたパスワードがわからなくなった場合は、レコーダーを弊社に返送いただき機器の初期化が必要となります。パスワードは厳重に管理の上、必要時には取り出せるようにしておいてください。
- 本製品出荷時のユーザー名とパスワードは以下の通りです。

出荷時のIDとパスワード			
ID	パスワード	ID	パスワード
admin	12345	User6	66666
User1	11111	User7	77777
User2	22222	User8	88888
User3	33333	User9	99999
User4	44444	User10	00000
User5	55555		

追加ユーザー管理

追加設定ができます。

自動ログイン	有効にすると、起動時に設定したユーザーで自動的にログインします。 無効にすると、起動時にログインが必要となります。
自動ログアウト	有効にすると、設定時間の間無操作状態が続いた場合、自動的にログアウトします。
Auto Lock	有効にすると、設定時間の間無操作状態が続いた場合、自動的に操作ロックがかかります。

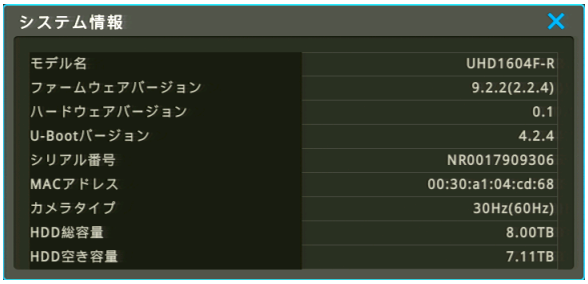
システム＞ユーティリティ

レコーダーの基本的なシステム設定を行います。

DVR 名	レコーダーの名称を設定できます。
言語	レコーダーで使用する言語を設定できます。
ボタン音	リモコン操作時の応答音をオン／オフできます。
DVR キーボード ID	使用しません。
リモコン ID	リモコン操作時の ID を設定できます。 複数のレコーダーを 1 台のリモコンで操作するときはレコーダーそれぞれに異なるリモコン ID を設定してください。
システム情報	レコーダーのシステム情報を表示できます。
システムログ	レコーダーのシステムログを表示できます。
録画状況	レコーダーの録画状況を表示できます。
ファームウェア　アップグレード	レコーダーのファームウェアをアップデートできます。
ビデオステータス	レコーダーに接続されたカメラの情報を表示できます。
ネットワークステータス	レコーダーに遠隔接続している機器の情報を表示できます。
工場初期化	設定内容を初期化できます。
設定インポート	設定内容を USB メモリーからインポートできます。
設定エクスポート	設定内容を USB メモリーにエクスポートできます。
NTSC/PAL	アナログ映像信号の種類を設定できます。
セットアップウィザード	レコーダーの設定を行うセットアップウィザードを起動します。

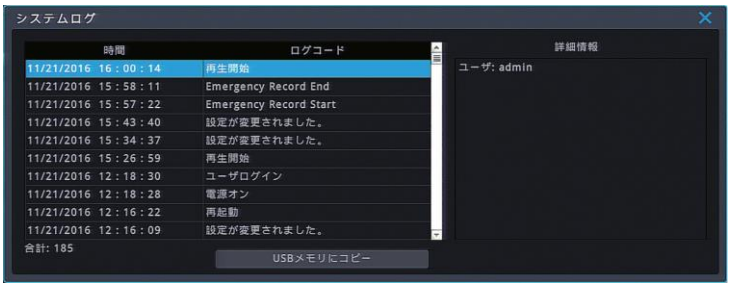
システム情報

レコーダーのモデル名やファームウェアバージョンなどの詳細設定が表示できます。



システムログ

システムの起動やユーザーログイン、設定変更など、レコーダーの稼働状況を一覧表示できます。

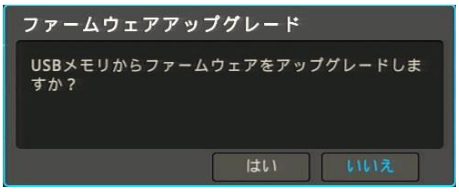


録画状況

各カメラチャンネルの録画状況を表示できます。

ファームウェアアップグレード

レコーダーのファームウェアをアップデートします。



1	**ファームウェアアップグレードファイルの入った USB メモリーを USB 端子に接続する**
2	**[ファームウェアアップグレード] ボタンを押す**
3	**確認画面で [はい] ボタンを押す** ファームウェアのアップデートが始まります。アップデートが完了するとレコーダーは自動的に再起動します。

要　点
USB メモリーに、現在使用中のファームウェアより新しいバージョンのアップデートファイルが確認されると、レコーダーは自動的にアップデート確認画面を表示します。

ビデオステータス

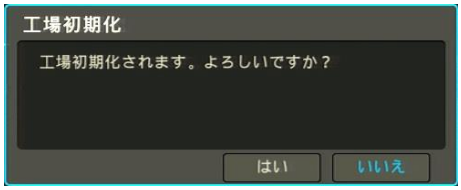
各カメラチャンネルに接続されたカメラの情報を表示できます。

ネットワークステータス

レコーダーに遠隔接続している機器の情報を表示できます。

工場初期化

レコーダーの設定を工場出荷状態に初期化できます。

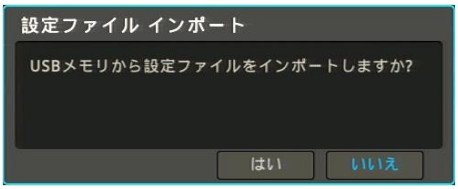


1	**[工場初期化] ボタンを押す**
2	**確認画面で [はい] ボタンを押す** レコーダーの設定が工場出荷状態に初期化され、ログイン画面となります。

要　点
[工場初期化] が実行できるのは管理者ユーザーのみです。

設定インポート

USB メモリーに保存されたレコーダーの設定を、レコーダー本体に取り込むことができます。



1	**レコーダーの設定ファイルの入った USB メモリーを USB 端子に接続する**
2	**[設定インポート] ボタンを押す**
3	**確認画面で [はい] ボタンを押す** USB メモリーからレコーダー本体に設定ファイルが取り込まれます。

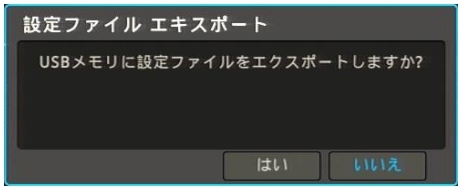
要　点

以下の設定項目については [設定インポート] で取り込むことができません、[設定インポート] 実施後、必要に応じて手動で設定の変更をしてください。

設定メニュー	設定項目
[ユーティリティ] ＞ [NTSC/PAL]	[NTSC/PAL]
[ネットワーク] ＞ [ネットワーク]	[タイプ] / [IP アドレス自動割り当て] / [IP アドレス] / [ネットマスク] / [ゲートウェイ]
[デバイス] ＞ [モニター]	[Configure HDMI Resolution] / [VGA 解像度]
[イベント] ＞ [電子メール設定]	[パスワード]
[イベント] ＞ [FTP 設定]	[ユーザアカウントパスワード]

設定エクスポート

レコーダー本体の設定を USB メモリーに取り出すことができます。



1	**USB メモリーを USB 端子に接続する**
2	**[設定エクスポート] ボタンを押す**
3	**確認画面で [はい] ボタンを押す** レコーダー本体の設定ファイルが USB メモリーに取り出されます。

NTSC/PAL

アナログ映像信号の方式を選びます。

Auto	レコーダーが信号を認識し、NTSC/PAL を自動的に切り替えます。
NTSC	映像信号を NTSC（30/60Hz）に固定します。
PAL	映像信号を PAL（25/50Hz）に固定します。

１４-１-４ネットワーク

レコーダーのネットワーク設定を行います。

ネットワーク＞ネットワーク

ネットワークの接続方式や設定を変更できます。

タイプで［イーサネット］を選んだ場合の設定項目

LAN からネットワークに接続する場合に選びます。

IP アドレス自動割当（DHCP）	［オフ］を選ぶと、レコーダーに割り当てる IP アドレスは手動設定になります。 ［オン］を選ぶと、レコーダーに割り当てる IP アドレスを DHCP サーバーから取得して自動設定します。
IP アドレス	IP アドレス自動割り当てが［オフ］のとき、IP アドレスを入力します。 入力する IP アドレスは、接続するネットワークの管理者に確認してください。
ネットマスク	IP アドレス自動割り当てが［オフ］のとき、サブネットマスクを入力します。 入力するサブネットマスクは、接続するネットワークの管理者に確認してください。
ゲートウェイ	IP アドレス自動割り当てが［オフ］のとき、デフォルトゲートウェイを入力します。 入力するデフォルトゲートウェイは、接続するネットワークの管理者に確認しくてください。
UPnP ポートフォワーディング	UP n P を利用して自動でポート開放設定を行うことができます。 **要　点** UP n P によるポート開放が成功するか失敗するか、また成功ののち安定して動作するかはルーターの性能に依存します。安定動作のため、UPnP ポートフォワーディングは使用しないことをお勧めします。

UPnP ポートフォワーディング

オン	UPnP を使用して、ルーターにポート開放設定を登録します。
オフ	UPnP を使用して、ルーターに登録済みのポート開放設定を削除します。

要　点
安定した遠隔モニタリングのため、本設定は［オフ］として、ルーターのポート開放は手動で行うことをお勧めします。

タイプで[PPPoE]を選んだ場合の設定項目

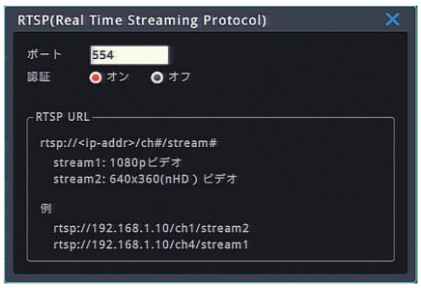
使用しません。

共通項目

DNS1~DNS3	DNS サーバーを入力します。少なくとも 1 つは設定する必要があります。 入力する DNS サーバーは、接続するネットワークの管理者に確認してください。
ポート	PC やスマートフォンからレコーダーにアクセスするときにサービスを提供するポート番号を設定できます。
帯域制限	PC やスマートフォンからレコーダーにアクセスした際に、レコーダーが送出するデータ量を制限できます **要　点** 通信帯域を制限すると、NS04R（HDD 増設ユニット）との通信にも制限がかかります。NS04R を接続しているときは必ず［制限なし］に設定してください。
ビデオストリーミング	RTSP でストリーミング映像を見るための情報を表示できます。
IP フィルタリング	レコーダーへアクセスする IP アドレスの許可リスト／拒否リストを設定できます。
Service Streaming（ADX2016 のみ）	サービスストリーミングの種類を選択できます。

RTSP（Real Time Stream Protocol）

RTSP でライブ映像を見るための情報が表示されます。



ポート	RTSP サービスを提供するポート番号を設定できます。
認証	[オン] の場合は、認証されたユーザーのみ RTSP サービスにアクセスし、ライブ映像を見ることができます。 [オフ] の場合は、RTSP ポートに接続したすべてのユーザがライブ映像を見ることができます。

IP フィルタリング

レコーダーにアクセスする機器を、IP アドレスで制限することができます。

有効化	チェックすると機能が有効になります。
タイプ	[許可] の場合は、指定した IP アドレスのみレコーダーにアクセスできます。 [拒否] の場合は、指定した IP アドレスからのアクセスを拒否します。
1~10	IP アドレスを登録します。

Service Streaming（ADX2016 のみ）

サービスストリーミングの種類を選択できます。

Service Streaming	サービスストリーミングの種類を［Service Channel］と［Remote DVR］から選択します。

ネットワーク> DDNS

DDNS サーバーを利用するときに設定します。

使用	チェックすると DDNS 機能が有効になります。
WNS（mycam.to）／ カスタム DDNS	[WNS] の場合は、本製品専用サービスでドメインを設定します。 取得したい任意のドメイン名を、.mycam.to の左側の欄に入力し、[ドメイン変更] ボタンを押すとドメインを取得できます。 [カスタム DDNS] の場合は、その他の DDNS サーバーで設定されたドメインを使用します。 設定に関しては、ネットワーク管理者に確認してください。
ユーザーアカウント （オプション）	チェックすると、mycam.to 上で複数のドメインを同一ユーザーアカウントの情報として一括管理できるようになります。 あらかじめ作成したユーザアカウントの [ユーザーID] と [パスワード] を設定してください。
ユーザーアカウントの作成 （オプション）	ユーザーアカウントを作成できます。 [サインアップ] ボタンを押すとアカウントの作成画面が開きます。

要　点
WNS で取得したドメイン情報は、およそ 10 分ごとに更新されます。

ネットワーク＞WRS

インターネットを介してレコーダーに遠隔接続するときに WRS サーバーを利用するときに設定します。

WRS サーバーを使用すると、複数のレコーダーを 1 つの Group ID に紐づけることができ、Control Center、WebEye などの遠隔モニタリング用プログラムからレコーダーに接続する際、Group ID を使用して簡単にレコーダーを検索・登録することができます。

使用	チェックすると WRS 機能が有効になります。
状況	WRS サーバーへの接続状況が表示されます。
URL	接続しているサーバーの URL が表示されます。
Group ID	レコーダーを登録するグループ名を設定します。

要　点
WRS の設定を行うためにはレコーダーがインターネット網に接続されており、かつルーターのポート開放ができていることが条件となります。解放するポートは、[ネットワーク] ＞ [ネットワーク] の [ポート] に設定された番号の TCP です。

ネットワーク> RADIUS

ネットワーク接続に Radius 認証を使用します。

設定についてはネットワーク管理者に確認してください、。

IP アドレス	Radius サーバーのアドレスを入力します。
ポート	Radius サーバーのサービスポート番号を入力します。

１４-１-５デバイス

レコーダーに接続された機器の設定を行います。

デバイス＞カメラ

レコーダーに接続されているカメラの機器設定を行います。

タイプ	接続方式を設定します。 通常は[BNC]（ADX1004/ADX1008）/ [BNC-Auto]（ADX2016）を選んでください。
設定	タイプが [BNC] [BNC-Auto] の場合は、カメラの映像設定ができます。 タイプが [IP] の場合はネットワークの接続設定を行います。
プライバシー	ライブ表示や録画したくない部分にマスクをかけて、プライバシーを保護する設定ができます。
名称	カメラ名称を設定できます。
TDM Config （ADX2016 のみ）	TDM ハブの接続設定を行います。

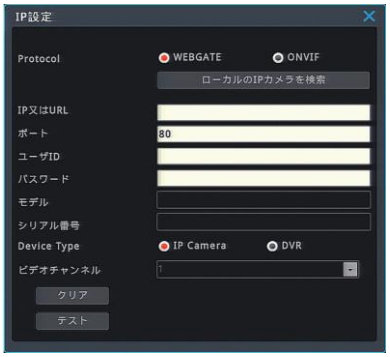
設定（タイプが［BNC］の場合）

コントラスト	コントラストの調整ができます。
明るさ	明るさの調整ができます。

要　点
カメラの種類によって、設定できる項目が異なります。 EX-SDI、HD-SDI 映像に対して映像の設定はできません。

設定（タイプが［IP］の場合）

IP カメラの接続設定を行います。

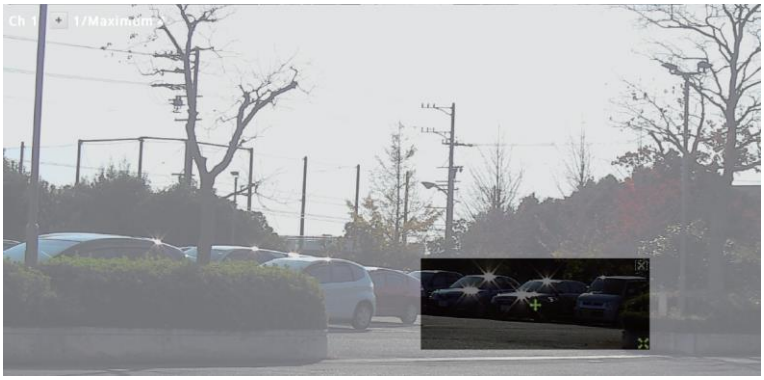


Protocol	接続するカメラのプロトコルを選びます。
ローカルの IP アドレスを検索	レコーダーと同じネットワークに接続されたカメラを検索します。 ネットワーク内にカメラがあった場合は、そのカメラを登録できます。
IP 又は URL	手動で IP カメラを登録するときに、カメラの IP アドレス、または URL を入力します。
ポート	手動で IP カメラを登録するときに、カメラのポート番号を入力します。
ユーザーID	手動で IP カメラを登録するときに、ユーザーID を入力します。
パスワード	手動で IP カメラを登録したときに、パスワードを入力します。
モデル	カメラのモデル名が表示されます。
シリアル番号	カメラのシリアル番号が表示されます。

プライバシー

ライブ表示や録画したくない部分にマスクをかけて、プライバシーを保護する設定ができます。

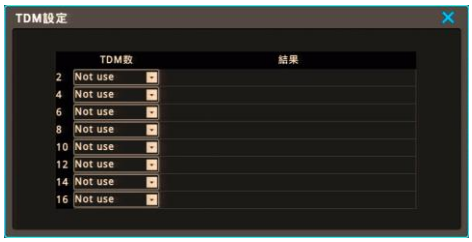
最大 4 か所までマスクをかけることができます。

1	**設定したいカメラの［プライバシー］ボタンを押す**
2	**マスク設定画面左上の ＋ をクリックする** 画面中央にマスクが表示されます。
3	**マスクの位置とサイズを調整する**  マスクの中央をドラッグすると、マスクの位置を変更できます。 マスクの右下をドラッグすると、マスクのサイズを変更できます。 マスクを削除する場合は、マスク右上の［×］を選択します。
4	**マスク設定画面右上の X を選択してマスク設定画面を終了する**

要　点
プライバシー設定でマスクをかけたエリアは、録画映像にもマスクがかかった状態となります（マスクをかけたエリアのカメラ側映像は失われます）。

TDM Config（ADX2016 のみ）

レコーダーに接続する TDM ハブの設定を行います。



2,4,8,10,12,14,16	レコーダーの VIDEO IN 端子の番号を表します。
TDM 数	VIDEO IN 端子に接続した TDM ハブに、カメラを何台接続するか設定します。 TDM 数を設定すると、レコーダーは VIDEO IN 端子の CH を起点にして、若番方向に TDM 数分のカメラチャンネルを TDM ハブ用として予約します。 TDM ハブに接続されたカメラとレコーダーに表示するカメラチャンネルの関係は、TDM ハブ側のカメラ接続端子に設定する TDM ID により決まります。 TDM ID は、TDM ハブを接続する VIDEO IN 端子ごとに 1 から連番で設定してください。

要　点

VIDEO IN 端子、TDM 数、TDM ID、カメラチャンネルの関係については以下の表を参考にしてください。

VIDEO IN（接続 CH）	TDM 数（カメラ台数）	TDM ID	カメラチャンネル（表示する CH）
2	2	1,2	1,2
4	1	1	4
	2	1,2	3,4
	3	1～3	2～4
	4	1～4	1～4
6	2	1,2	5,6
	3	1～3	4～6
	4	1～4	3～6
	5	1～5	2～6
	6	1～6	1～6
8	2	1,2	7,8
	3	1～3	6～8
	4	1～4	5～8
	5	1～5	4～8
	6	1～6	3～8
	7	1～7	2～8
	8	1～8	1～8

VIDEO IN （接続 CH）	TDM 数 （カメラ台数）	TDM ID	カメラチャンネル （表示する CH）
10	2	1,2	9,10
	3	1～3	8～10
	4	1～4	7～10
	5	1～5	6～10
	6	1～6	5～10
	7	1～7	4～10
	8	1～8	3～10
12	2	1,2	11,12
	3	1～3	10～12
	4	1～4	9～12
	5	1～5	8～12
	6	1～6	7～12
	7	1～7	6～12
	8	1～8	5～12
14	2	1,2	13,14
	3	1～3	12～14
	4	1～4	11～14
	5	1～5	10～14
	6	1～6	9～14
	7	1～7	8～14
	8	1～8	7～14
16	2	1,2	15,16
	3	1～3	14～16
	4	1～4	13～16
	5	1～5	12～16
	6	1～6	11～16
	7	1～7	10～16
	8	1～8	9～16

デバイス> PTZ

PTZ 機能を持つカメラを接続した場合の設定ができます。

ポート	レコーダー背面の RS485 端子より制御しているカメラの場合は、接続している COM ポートに合わせて [COM2]、[COM3] から選択します。 TDM ハブ経由で接続しているカメラの場合は [CoC (UCC-A)] を選択します。
デバイス	接続しているカメラの制御プロトコルを選択します。 本製品は [PELCO-D] をサポートします。
アドレス	[ポート] で [COM2]、[COM3] を選択している場合は、カメラに設定した RS485 ID を設定します。 [ポート] で [CoC (UCC-A)]を選択している場合は、TDM ハブのカメラ入力端子に設定した TDM ID を設定します。 **要　点** TDM ハブ経由で接続しているカメラの、カメラ側に設定する RS485 ID は、常に 1 に設定してください。
ボーレート	カメラとの通信速度を設定します。
etc	プリセットなどの設定ができます。

etc

プリセットなどの設定ができます。

プリセット	プリセット名とカメラに送信する値を設定できます。
補助機能	補助機能名とカメラに送信する値を設定できます。
ツアー	ツアー名と、ツアー設定ができます。
Park	一定時間無操作となったときの動作を設定できます。
その他	通信に関する詳細設定ができます。
プリセット補助機能の設定	この画面の設定した内容の動作確認ができます。

設定

1~8	ツアー実行時に表示したい順番を、etc の［プリセット］のプリセット名で設定します。
Interval (sec)	次のプリセットに移動するまでの待ち時間を、秒で設定します。
Preset Rotation	ツアー実行時に、何番までを使用するかを設定します。

デバイス＞モニター

画面表示の各種設定を行います。

自動シーケンス（SEQ）	ライブ画面でシーケンスを実行したときの表示順や各画面の表示時間などを設定できます。
「MULTI」ボタン動作順序	リモコンの［MULTI］ボタンを押したときの動作を設定できます。
Configure CVBS output（ADX1004 のみ）	モニター出力の方法を設定できます。
Configure VGA/CVBS output（ADX1008 のみ）	
SDI/VGA/CVS output（ADX2016 のみ）	
VGA 解像度（ADX1008 のみ）	モニター出力の解像度を設定できます。
Resolution and format（ADX2016 のみ）	
Configure Spot Sequence（ADX1008/ADX2016）	スポットモニターでシーケンスを実行したときの表示順や各画面の表示時間などを設定できます。

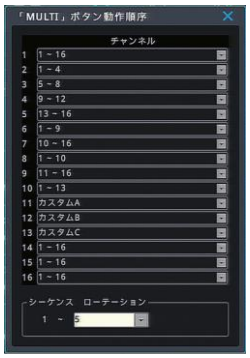
自動シーケンス（SEQ）動作順序の編集

ライブ画面でシーケンスを実行したときの表示順や各画面の表示時間などを設定できます。

1~16	この順番でシーケンス表示されます。
チャンネル	表示するカメラチャンネルを選びます。 マルチ表示を選ぶこともできます。
シーケンスローテーション	何番まで表示するか設定します。

「MULTI」ボタン動作順序の編集

リモコンの［MULTI］ボタンを押したときの動作を設定できます。



1~16	この順番でシーケンス表示されます。
チャンネル	表示するカメラチャンネルを選びます。 マルチ表示を選ぶこともできます。
シーケンスローテーション	何番まで表示するかを設定します。

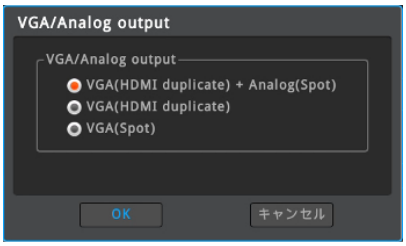
Configure CVBS output（ADX1004 のみ）

スポット出力の有無を設定できます。

CVBS Output	[Analog(Spot)] を選ぶと SPOT にアナログスポット映像を出力します。 [オフ] を選ぶと SPOT のアナログスポット映像を停止します。

Congigure VGA/CVBS output（ADX1008 のみ）

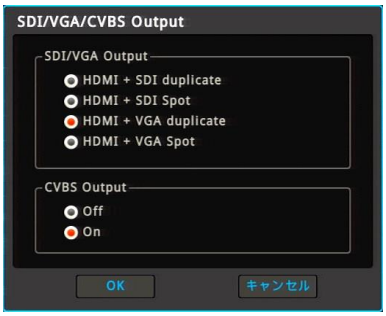
モニター出力の方法を設定できます。



VGA/Analog Output	VGA 出力の方法を設定できます。HDMI はメイン画面として常時出力となります。 [VGA(HDMI duplicate) + Analog(Spot)] は、VGA にメイン画面を出力し、SPOT にアナログスポット映像を出力します。 [VGA(HDMI duplicate)] は、VGA にメイン画面を出力し、SPOT のアナログスポット映像を停止します。 [VGA(Spot)]は VGA にスポット画面を出力し、SPOT のアナログスポット映像を停止します。

Configure SDI/VGA/CVBS output（ADX2016 のみ）

モニター出力の方法を設定できます。



SDI/VGA Output	SDI/VGA 出力の方法を設定できます。HDMI はメイン画面として常時出力となります。 [HDMI + SDI duplicate] は、SDI-OUT にメイン画面を出力します。 [HDMI + SDI Spot] は、SDI-OUT にスポット画面を出力します。 [HDMI + VGA duplicate] は、VGA にメイン画面を出力します。 [HDMI + VGA Spot] は、VGA にスポット画面を出力します。
CVBS Output	[off] を選ぶと SPOT のアナログスポット映像を停止します。 [on] を選ぶと SPOT にアナログスポット映像を出力します。

要　点
SDI と VGA はいずれか一方への出力となります、両方同時の出力はできません。

Configure HDMI Resolution（ADX2016 のみ）

HDMI 出力の解像度を設定できます。

HDMI Resolution	VIDEO OUT 出力の解像度を以下から選択します。 [1920×1080] [UHD/4K (Prefered)] [UHD/4K (Fixed)]

VGA 解像度（ADX1008 / ADX2016）

VGA 出力の解像度を設定できます。

VGA 解像度	VGA 出力の解像度を以下から選択します。 [800×600] [1024×768] [1280×1024] [1920×1080]

要　点
・ 1280×1024、1024×768、800×600 の解像度を選択したとき、画面に表示される文字がややぼやけて見える場合がありますが正常です。 ・ ADX1004 の VGA 出力解像度は、1920×1080 固定です。

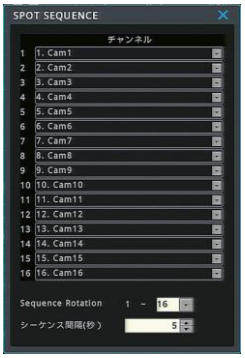
SDI Format（ADX2016 のみ）

SDI 出力のフォーマットを設定できます。

SDI FORMAT	SDI-OUT 出力の映像信号を以下から選択します。 [HD-SDI] [EX-SDI] [EX-SDI 2.0]

Configure Spot Sequence

スポットモニターの表示順を設定できます。



1~16	この順番でシーケンス表示されます。
チャンネル	表示するカメラチャンネルを選びます。 マルチ表示を選ぶこともできます。
シーケンスローテーション	何番まで表示するかを設定します。
シーケンス間隔（秒）	各カメラチャンネルの表示時間を設定します。

デバイス> 音声

AUDIO IN（オーディオ入力）端子に接続されたマイクの設定を行います。

音声チャンネル	AUDIO-IN 端子の番号です。
ビデオチャンネル	音声をリンクさせるカメラチャンネルを選びます。
音声録音	音声を録音するかどうか設定できます。 [オン] にした場合、録画画像に音声も録音されます。 [オフ] にした場合、ライブ表示のときのみ音声が流れます。
音声ゲイン	音声ゲインを調整できます。
音声出力チャンネル	ライブ画面のときに出力する音声チャンネルを選びます。

デバイス＞テキスト

使用しません。

１４-１-６イベント

イベントについての設定を行います。

イベント> イベント

イベントの監視スケジュールやイベントに連動して動作する機器の設定ができます。

イベント使用	チェックを入れると、イベント監視を行います。
スケジュール	イベント監視スケジュールを設定します。 [常にイベント監視] を選ぶと、常にイベント監視を行います。 [カスタム] を選ぶと、イベント監視スケジュールを設定できます。[カスタムスケジュール] ボタンから設定を行います。
イベント連動	イベント発生した場合に連動して動作する出力や通知方法を選びます。
イベントソース	イベント連動項目の動作条件を設定します。
アクション時間	イベントが発生してからの通知動作の作動時間を設定します。
電子メール設定	イベントを電子メールで通知する場合の設定をします。
FTP 設定	イベント発生時の画像を FTP サーバーに転送する場合の設定をします。

要　点

イベント毎のアクション時間選択肢と動作は以下の通りです。

イベント	アクション時間選択肢	動作
リレー１ リレー２ ブザー	イベント発生時に 5 秒間	オフトリガ/リトリガ有のタイマー動作 ただし、[システム] についてはオントリガ/リトリガ無のタイマー動作
	イベント発生時に 10 秒間	
	イベント発生時に 15 秒間	
	イベント発生時に 20 秒間	
	イベント発生時に 25 秒間	
	イベント発生時に 30 秒間	
	イベント発生時に 40 秒間	
	イベント発生時に 50 秒間	
	イベント発生時に 60 秒間	
	イベント発生時に継続維持	保持動作
	Clear after Confirm	応動動作
電子メール	1 分ごとに	電子メール通知するイベントが多発していても、アクション時間で設定した時間の間は電子メール通知を行わない。
	2 分ごとに	
	3 分ごとに	
	4 分ごとに	
	5 分ごとに	
	10 分ごとに	
	15 分ごとに	
	20 分ごとに	
	30 分ごとに	
FTP システムアラーム カメラプリセット アラームプッシュ	イベント発生時、常に	イベント発生時毎回動作
ビデオポップアップ	イベント発生時に、2 秒間	選択した時間ポップアップ状態を保持
	イベント発生時に、3 秒間	
	イベント発生時に、4 秒間	
	イベント発生時に、5 秒間	
	イベント発生時に、6 秒間	
	イベント発生時に、7 秒間	
	イベント発生時に、8 秒間	
	イベント発生時に、9 秒間	
	イベント発生時に、10 秒間	
	イベント発生時に、継続維持	

カスタムスケジュール

イベント監視スケジュールの設定を行います。

[スケジュール] で [カスタム] を選んだ場合に設定できます。

スケジュール追加	時間と曜日を設定して、[追加] で設定できます。 すでにスケジュールが設定されている場合は上書きできません。変更するときはあらかじめ削除しておいてください。
スケジュール削除	[選択されたスケジュールの削除] を選ぶと、削除したい曜日を選んで、削除できます。 [すべて削除] を選ぶと、設定されているすべてのスケジュールを削除できます。

イベント連動

チェックした項目がイベント発生時に連動して動作します。

リレー1	RERAY OUT 端子が動作します（イベント発生時クローズ）
リレー2	
ブザー	レコーダー内部のブザーを鳴らします
電子メール	登録されたメールアドレスにテキスト情報・イベント発生時の画像を送信します。
FTP	指定した FTP サーバーにイベント発生時の画像をアップロードします。
ビデオポップアップ	イベントが発生したカメラチャンネルをライブ画面に表示します。 複数のイベントが同時に発生した場合は、イベントが発生しているカメラチャンネルすべてを分割画面で表示します。
システムアラーム	ポップアップメッセージを表示します。
カメラプリセット	PTZ カメラに対し、あらかじめ設定したプリセットを実行します。
アラームプッシュ	モバイルアプリケーションにプッシュ通知をします。

イベントソース

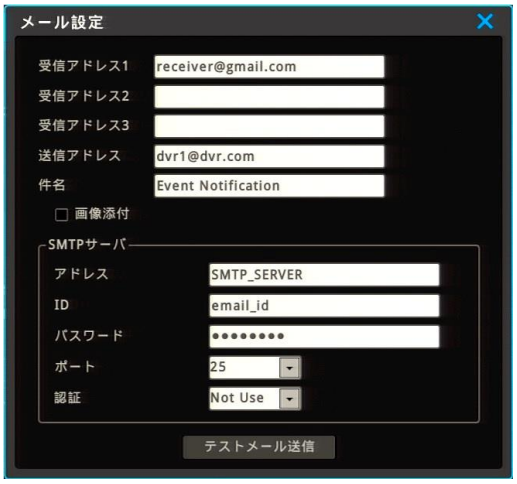
イベント連動項目が動作する条件を設定できます。

イベントの発生を監視するカメラチャンネルや項目をチェックします。

センサー	SENSOR IN 端子の状態を監視します。
モーション感知	カメラチャンネルごとに映像の変化を監視します。
ビデオロス	カメラチャンネルごとに映像信号の消失を監視します。
テキスト	使用しません。
システム	システムの運用にかかわる以下のエラーを監視します。 [HDD エラー] [HDD に空き容量がありません]（閾値設定可能） [RAID エラー] [パスワードエラー] [WRS 登録エラー] [電源オン] [録画エラー]

電子メール設定

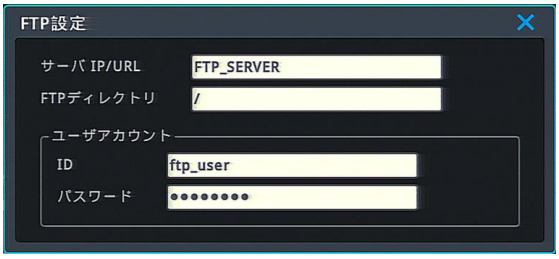
イベント発生を電子メールで通知する設定をします。



受信アドレス１	メールを受信するアドレスを、最大３件まで登録できます。
受信アドレス２	
受信アドレス３	
送信アドレス	送信元のアドレスを入力します。
件名	メールの件名を入力します。
画像添付	チェックすると、メールにイベント発生時のカメラ画像が添付されます。
SMTP サーバー	メール送信サーバーの設定をします。 各項目の設定内容については、レコーダーを接続するネットワークの管理者に確認してください。
テストメールを送信	[受信アドレス 1~3]に対してテストメールを送信します。

FTP 設定

イベント発生時のカメラチャンネルの画像（jpg 形式）を受信する FTP サーバーを設定します。



サーバ IP／URL	FTP サーバーの IP、または URL を入力します。
FTP ディレクトリ	ファイルを保存するフォルダディレクトリを入力します。
ID	FTP サーバーにアクセスする ID を入力します。
パスワード	FTP サーバーにアクセスするパスワードを入力します。

イベント> モーション

モーション検出の設定をします。

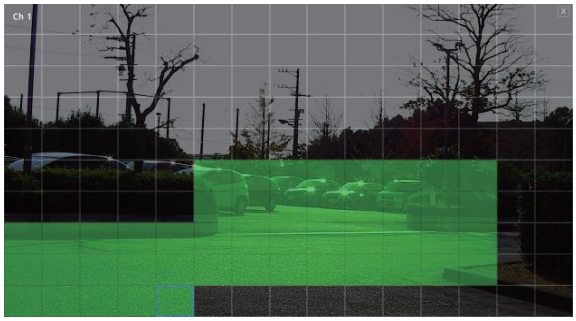
ビデオチャンネル	設定するカメラチャンネルを選びます。
モーション検知	チェックすると機能が有効になります。
感度	モーション検知の感度を設定します。1 が最も感度が弱く、10 が最も感度が強くなります。
領域変更	モーション検知を動作させる領域を設定します。
すべてのチャンネルに適用	設定内容をすべてのカメラチャンネルに適用します。

領域変更

モーション検知を動作させる領域を設定します。

マウスの左ボタンをダブルクリックすると検知オン／オフを切り換えることができます。緑色が検知エリアとなります。

画面右上の［×］で設定を終了します。



イベント> センサー

センサー入力の設定をします。

名称	センサー名を表示します。 名前の左側をチェックすると、SENSOR IN が有効になります。
タイプ	使用しません。 常に［Rear Panel］に設定して使用してください。
設定	SENSOR IN の接点タイプを設定します。 [ノーマルオープン（NO）］は、接点が閉じると異常を検知します。 [ノーマルクローズ（NC）］は、接点が開くと異常を検知します。
Remote Sensor Device	使用しません。

１４-１-７録画

録画方法の設定を行います。

録画＞録画

録画品質や録画スケジュールなど、録画に関する設定ができます。

録画モード	[ノーマル/イベント録画] を選ぶと、[プログラム] で設定した録画品質で 24 時間録画します。 [スケジュール/イベント] を選ぶと、[プログラム] で設定した録画画質と、[スケジュール設定] で設定した録画スケジュールに従って録画します。
プログラム	[録画モード] が [ノーマル/イベント録画] のときに使用する録画品質を設定したプログラムを選択できます。
プログラム編集	録画品質をプログラム A~I から選んで設定できます。
スケジュール設定	[録画モード] が [スケジュール/イベント] のときに使用する録画スケジュールを設定できます。
緊急録画	緊急録画を使用するか、しないかを設定できます。 [オフ] を選ぶと、緊急録画は使用できません。 [オン] を選ぶと、緊急録画を使用できます。
プリイベント時間	イベント発生前の映像を何秒間録画するか設定できます。
ポストイベント時間	イベント復旧後の映像を何秒間録画するか設定できます。

プログラム編集

録画品質を [プログラム A]~[プログラム I] に設定できます。

プログラム	設定するプログラム名を選びます。 A ～ I の９ 種類登録できます。
ビデオ	接続されたカメラの映像種別が表示されます。
ノーマル録画	通常録画時とイベント録画時それぞれの録画品質を設定できます。 [fps] でフレームレートを設定できます。 [画質] で画質を設定できます。Low,Q2 ～ Q9,High の 10 段階で設定でき、数値が大きいほど高画質になります。
イベント録画	
HDD 使用量と録画可能な予想時間	画質設定内容で予想されるハードディスク使用量と録画可能時間を表示します。
クイック設定	すべてのカメラチャンネルの録画品質をまとめて設定します。数値を設定後、[すべてのチャンネルに適用] ボタンを押すと設定に反映されます。

要　点
「HDD の使用量と録画可能な予想時間」で、設定された条件における予想録画時間を確認できます。この時間は一般的な条件下における予想値であり、録画時間を保証するものではありません。予想値は目安としてご利用ください。

スケジュール設定

録画モードを［スケジュール/イベント録画］に設定した場合に、録画スケジュールを設定できます。

スケジュール追加	時間と曜日、プログラムを設定して、[追加］で設定できます。プログラムは［プログラム編集］で設定した内容になります。 すでにスケジュールが設定されている場合は上書きできません。変更するときはあらかじめスケジュールを削除しておいてください。
スケジュール削除	[選択されたスケジュールの削除］を選ぶと、削除したい曜日を選んで、削除できます。 [すべてを削除］を選ぶと、設定されているすべてのスケジュールを削除できます。

１４-１-８出荷時設定

システム			
日付／時刻	現在時刻		現在の時間
	タイムゾーン		UTC +09:00 Osaka
	サマータイム（DST）		オフ
	日付表示		年 / 月 / 日
	NTP サーバー（タイムサーバ）同期		オフ
ディスク	ハードディスクの空き容量がなくなった場合		上書き
	ブロック再生		オフ / 5 日間
ユーザ設定	ユーザ		admin
	パスワード		12345
	追加ユーザ管理	自動ログイン	オン / admin
		自動ログアウト	オフ / 1 分
		Auto Lock	オフ / 1 分
ユーティリティ	DVR 名		DVR0
	言語		日本語
	ボタン音		オン
	リモコン ID		すべて
	NTSC/PAL		NTSC
	セットアップウィザード		-

ネットワーク		
ネットワーク	タイプ	イーサネット
	IP アドレス自動割当（DHCP）	オフ
	IP アドレス	192.168.0.2
	ネットマスク	255.255.255.0
	ゲートウェイ	192.168.0.1
	UPnP ポートフォワーディング	オフ
	DNS	4.2.2.1 / 0.0.0.0 / 0.0.0.0
	ポート	8000
	帯域幅制限	制限なし
	ビデオストリーミング（RTSP）	ポート 554 / 認証 オン
	IP フィルタリング	オフ
DDNS	使用'	オフ
WRS	使用	オフ
Radius	使用	オフ

デバイス			
カメラ	使用		オン
	タイプ		BNC（BNC-Auto）
	名称		Cam[n]
	プライバシー		オフ
PTZ	ポート		なし
	デバイス		なし
	アドレス		1
	ボーレート		2400
	etc	ホームタイム / Park	オフ
		ストップビット	1 ビット
		データビット	8 ビット
		パリティービット	なし
	キーボード	ポート	なし
モニター	自動シーケンス（SEQ）動作順序の編集	チャンネル	Cam1～Cam[4/8/16]
		シーケンスローテーション	1～[4/8/16]
	シーケンス間隔（秒）		5
	イベントポップアップ後に復旧		オフ
	「MULTI」ボタンの順序	シーケンスローテーション	ADX1004：1～1 ADX1008：1～3 ADX2016：1～5

イベント			
イベント	イベント使用		オン
	スケジュール		常にイベントを監視
	イベント連動	リレー1	イベント発生後時に 10 秒間 センサー：オフ モーション感知：オフ ビデオロス：オフ システム：オン(HDD エラー、RAID エラー、録画エラー)
		リレー2	イベント発生後時に 10 秒間 センサー：オフ モーション感知：オフ ビデオロス：オフ システム：オン(HDD エラー、RAID エラー、録画エラー)
		ブザー	オフ
		電子メール	オフ
		FTP	オフ
		ビデオポップアップ	オフ
		システムアラーム	イベント発生時常に モーション感知：オフ ビデオロス：オフ システム:オン(HDD エラー、RAID エラー、録画エラー)
		カメラプリセット	オフ
		Alarm Push	イベント発生時常に モーション感知：オフ ビデオロス：オフ システム:オン(HDD エラー、RAID エラー、録画エラー)
	電子メール設定	受信アドレス 1	receiver@gmail.com
		受信アドレス 2	-
		受信アドレス 3	-
		送信アドレス	dvr1@dvr.com
		件名	Event Notification
		画像添付	オフ
		SMTP サーバ アドレス	SMTP_SERVER
		SMTP サーバ ID	email_id
		SMTP サーバ パスワード	********
		SMTP サーバ ポート	25
		SMTP サーバ 認証	Not Use
	FTP 設定	サーバ IP/URL	FTP_SERVER
		FTP ディレクトリ	/
		ユーザアカウント ID	ftp_user
		ユーザアカウント パスワード	********

イベント		
モーション	ビデオチャンネル	1.Cam1～[4/8/16].Cam[4/8/16]
	モーション検知	オン
	感度	5
	領域	全領域選択

録画		
録画	録画モード	ノーマル / イベント録画
	プログラム	A（全チャンネル ノーマル：7fps,Q7 / イベント：7fps,Q7）
	緊急録画	オン
	プリイベント時間	5 秒
	ポストイベント時間	5 秒

１４-２ロック

レコーダーの操作にロックをかけて、関係者以外が操作できないようにします。

１４-２-１操作ロックの手順

レコーダーの操作をロックし、関係者以外が操作できないようにします。

1	**ライブ画面でタスクバーの［FUNC］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を表示し、[システム] > [ロック］を選択する。**
2	**確認画面で［はい］を選択する**

１４-２-２操作ロック解除の手順

操作ロックを解除し、レコーダーを操作できるようにします。

1	**画面を左クリックする**
2	**ログイン画面でパスワードを入力する**

１４-３ログアウト

レコーダーからログアウトします。

1	**ライブ画面でタスクバーの［FUNC］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を表示し、[システム] > [ログアウト］を選択する。**
2	**確認画面で「はい」を選択する**

１４-４電源オフ

システムを終了し、電源をオフにします。

1	**ライブ画面でタスクバーの［FUNC］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を表示し、[システム] > [電源オフ］を選択する。**
2	**確認画面で［はい］を選択する**

１４-５再起動

システムを終了し、レコーダーを再起動します

1	**ライブ画面でタスクバーの［FUNC］ボタンを選択する、ライブ画面でマウスを右クリックする、またはリモコンの［FUNC］ボタンを押して「ファンクションメニュー（ライブ）」を表示し、[システム] > [再起動] を選択する。**
2	**確認画面で［はい］を選択する**

１５遠隔モニタリング

本製品は、LAN 内やインターネットに接続された遠隔地に存在する PC やスマートフォンからライブ映像や録画画像を確認できます。

１５-１接続の種類とできること

接続の種類

環境	アプリケーション名	アプリケーション種別	同時接続数
PC	ActiveX Webviewer	Web ブラウザー（InternetExplorer）	ライブ：10 再生：4 設定：1
	HTML5 Webviewer	Web ブラウザー（Google Chrome）	
	Control Cetnter	PC アプリケーション	
iOS	WebEye	App Store アプリ	
Android	WebEye	Google Play アプリ	

できること

接続方法	ライブ	再生	音声	PTZ	制御	コピー	設定
ActiveX Webviewer	○	○	○	○	○	○	×
HTML5 Webviewer	○	○	×	○	×	△※1	×
Control Center	○	○	○	○	○	○	○
WebEye	○	○	○	○	○	×	×
※1：単チャンネル・音声無しのみ対応							

１５-２PC からの接続

１５-２-１ActiveX Webviewer（InternetExplorer）

推奨環境

CPU	Core i5 3.0GHz 以上
メモリー	8GB 以上
ビデオメモリー	512MB 以上
ディスプレイ	AGP アクセラレーターをサポートする 1024MB PCI-E グラフィックカード（AMD Radeon HD7000 シリーズ以上）
PCI バス	PCI-E 16X 以上をサポート
ネットワーク	100/1000 Ethernet NIC
OS	Windows 7（x64）/Windows 8.1（x64）/Windwos 10（x64）
ブラウザー	Microsoft InternetExplorer11
その他	DirectX9.0 以降

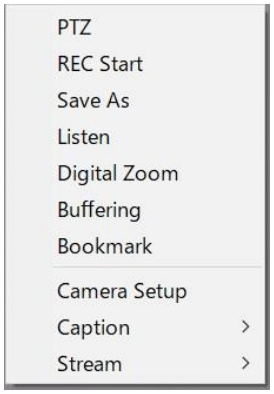
接続とライブ画面

1	**Internet Explorer を起動する**
2	**InternetExplorer のアドレスバーに接続先を入力する** WAN（インターネット）経由で接続する場合、レコーダーのドメイン名を入力してください。 http://adx_sample.mycam.to LAN 内から接続する場合、アドレスバーにレコーダーの IP アドレスを入力してください。 192.168.0.127/ ポートを 80 以外に設定した場合は、アドレスバーに「http:// [ドメイン名または IP アドレス]:[ポート番号]」と入力してください。 http://adx_sample.mycam.to:8080 **要　点** ・ ドメイン名は各種設定メニューの [ネットワーク] ＞ [DDNS] で確認できます。 ・ IP アドレスは各種設定メニューの [ネットワーク] ＞ [ネットワーク] で確認できます。 ・ ポート番号は各種設定メニューの [ネットワーク] ＞ [ネットワーク] で[ポート] で確認できます。 ・ ActiveX のインストールが求められたときは。画面の指示に従って、インストールしてください。 この Web サイトは、'Daemyung Corporation LTD' からのアドオン 'WESPWebViewer.cab' をインストールしようとしています。 危険性の説明(W) インストール(I)
3	**ログインウインドウで、レコーダーのユーザーID とパスワードを入力する**
4	**ライブ映像画面でモニタリングする**

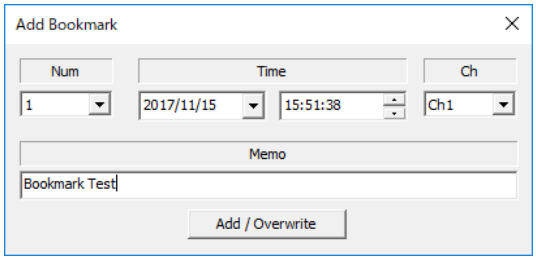
1　画面表示設定	画面分割の設定をします。左端のアイコンでフルスクリーン表示できます。
2　表示切替	カメラチャンネル表示を切り換えます。
3　検索・再生画面表示	検索・再生画面を表示します。
4　オプション	オプション設定ができます。
5　チャンネル設定	カメラチャンネルの表示をオン／オフします。
6　センサー表示	センサーの状態を表示します。 1　（水色）　：センサー検知 1　（灰色）　：センサー未検知
7　リレー操作	リレーの状態を表示します。アイコンをクリックすることでリレーを手動で動作させることができます。 1　（水色）　：リレーオン 1　（灰色）　：リレーオフ
8　マイク設定	PC のマイク（PC → レコーダー）をオン／オフします。アイコンをクリックすることでマイクをオン／オフできます。 1　（水色）　マイクオン 1　（灰色）　マイクオフ
9　ライブ表示	カメラの映像がライブ表示されます。マルチ表示のとき、ドラッグ操作で映像の表示位置を変更できます。画面右上のアイコンには以下の機能が割り当てられています。 チャンネルを非表示にします 音声（レコーダー → PC）をオン／オフします PTZ カメラの操作ができます ライブ画面を録画してパソコンに保存できます
10　イベント表示	イベントログを表示します。アイコンの意味は以下の通りです。 ：モーション検出 ：災検出／復旧（使用しません） ：センサー発生／復旧 ：リレー出力／停止 ：映像なし／復旧

コンテキストメニュー（ライブ）

ライブ画面上で右クリックするとコンテキストメニュー（ライブ）が表示されます。コンテキストメニュー（ライブ）では、PTZ 操作やカメラ設定、表示設定など各種設定ができます。



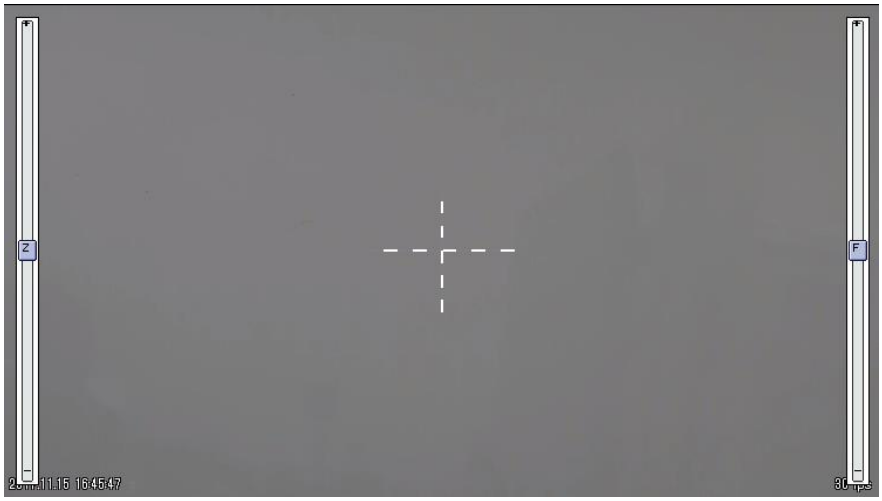
項目	サブ項目	説明
PTZ	—	この項目を選択すると PTZ 制御のオン／オフができます。 各カメラ映像右上の と同じ動作になります。 PTZ 制御がオンのときのみ、以下の [Goto Preset]、[Preset Setup]、[Auxiliary]、[Auxiliary]、[Enable Group] が表示されます。
Goto Preset	—	登録したプリセット位置を呼び出すことができます。 [Preset1]～[Preset16] から選択できます。 このメニューは PTZ 制御がオンのときのみ表示されます。
Preset Setup	Set	プリセット位置を登録することができます。 [Preset1]～[Preset16] から選択できます。 このメニューは PTZ 制御がオンのときのみ表示されます。
	Clear	プリセット位置を削除することができます。 [Preset1]～[Preset16] から選択できます。 このメニューは PTZ 制御がオンのときのみ表示されます。
Auxiliary	—	補助機能のオン／オフを実行できます。 [aux1]～[aux16] の On/Off から選択できます。 このメニューは PTZ 制御がオンのときのみ表示されます。
Enable Group	—	ツアーを実行実行できます。 [none], [patrol1]～[patrol8] から選択できます。 このメニューは PTZ 制御がオンのときのみ表示されます。

<table>
<tr><th>項目</th><th>サブ項目</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>REC Start／
REC Stop</td><td>―</td><td>ライブ画面を録画して PC に保存できます。
各カメラ映像右上の と同じ動作になります。
録画中は画面右上に［REC］と録画開始後の経過時間が赤文字で表示されます。
録画データーは専用形式（.re4）で保存されます。再生には PC 用集中監視ソフト「Control Center」が必要です。
録画中このメニューは［REC Stop］に表示が変わります。</td></tr>
<tr><td>Save As</td><td>―</td><td>ライブ画面の映像を、静止画として保存できます。
映像フォーマットは jpg、映像左下に yyyy.mm.dd HH:MM:SS 形式のタイムスタンプが入ります。</td></tr>
<tr><td>Listen</td><td>―</td><td>音声（レコーダー → PC）をオン／オフします。
各カメラ映像右上の と同じ動作になります。</td></tr>
<tr><td>Digital Zoom</td><td>―</td><td>ライブ画像を拡大表示できます。
このメニューは単画面表示のときのみ選択できます。メニューで Digital Zoom を選択選択したのち、拡大したい個所をマウスでドラッグしてください。</td></tr>
<tr><td>Buffering</td><td>―</td><td>ライブ映像をバッファリングしてから表示します。
バッファリングしているカメラは、していないカメラと比べ若干表示が遅れます。</td></tr>
<tr><td>Bookmark</td><td>―</td><td>モニタリング中、気になる点が発生した場合、レコーダーの録画データーにその日時をブックマーク（しおり）できます。
［Bookmark］を選択すると、Add Bookmark 画面が開きます。
 

<table>
<tr><td>Num</td><td>ブックマーク番号を選択できます。</td></tr>
<tr><td>Time</td><td>ブックマークする日時を設定できます。</td></tr>
<tr><td>Ch</td><td>ブックマークするカメラチャンネルを設定できます。</td></tr>
<tr><td>Memo</td><td>ブックマークにメモ（ブックマークした理由など）を入力します</td></tr>
<tr><td>Add/Overwrite</td><td>ブックマークを登録します。</td></tr>
</table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>項目</th><th>サブ項目</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>Camera Setup</td><td>—</td><td>PTZ カメラなど、レコーダーの画面でカメラ側の設定が行える機器の場合、カメラの設定を行うインターフェースを表示します。
[Camera Setup] を選択すると、画面右下に制御ボタンが表示されます。
</td></tr>
<tr><td>Caption</td><td>—</td><td>各カメラに表示するキャプションを選択できます。
<table>
<tr><td>Show All</td><td>すべてのキャプションを表示します</td></tr>
<tr><td>Hide All</td><td>すべてのキャプションを非表示にします</td></tr>
<tr><td>Channel #</td><td>カメラ番号を表示します</td></tr>
<tr><td>Channel Name</td><td>カメラ名を表示します</td></tr>
<tr><td>Time</td><td>日時を表示します</td></tr>
<tr><td>Event</td><td>発生中のイベントを表示します</td></tr>
<tr><td>Speed</td><td>映像の fps を表示します</td></tr>
<tr><td>Timezone</td><td>タイムゾーンを表示します</td></tr>
<tr><td>User Count</td><td>レコーダーに接続している人数を表示します</td></tr>
</table></td></tr>
<tr><td>Stream</td><td>—</td><td>ビデオストリームのコーデックを選択できます。
[Auto] / [1.H.264,FHD,30fps] / [2.H.264,nHD,30fps] / [3.MPEG,nHD,1fps] から選択できます。
通常は [Auto] で使用してください。</td></tr>
</table>

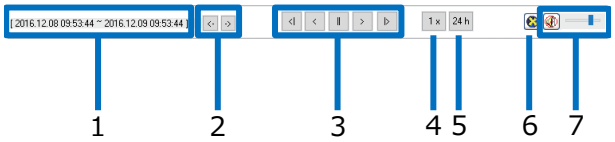
PTZ 制御

1	**制御を行うカメラ映像上で右クリックをしてコンテキストメニュー（ライブ）を開き、[PTZ] を選ぶ、またはライブ表示画面で をクリックする。** 画面中央に十字が表示され、PTZ 操作モードになります。  パン／チルト：画面をマウスで左クリックすると、クリックした方向にレンズが動きます。 ズーム：画面左端にカーソルを動かすと表示されるズームバーで調節します。 フォーカス：画面右端にカーソルを動かすと表示されるフォーカスバーで調節します。 プリセットに移動：「コンテキストメニュー（ライブ）」の [Go to Preset] でプリセットを選びます。 補助機能を有効にする：「コンテキストメニュー（ライブ）」の [Auxiliary] で補助機能を選びます。

検索／再生

1 **ライブ映像画面で Go をクリックする**

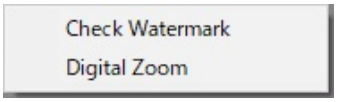
1	画面表示設定	画面分割の設定をします。左端のアイコンでフルスクリーン表示できます。
2	表示切替え	カメラチャンネル表示を切り換えます。
3	保存	選択したカメラチャンネルの画像を静止画（bmp 形式）で保存します。
4	印刷	選択したカメラチャンネルの画像を印刷します。
5	バックアップ	録画画像をバックアップします。
6	ライブ画面表示	ライブ画面に表示を切り換えます。
7	チャンネル選択	カメラチャンネルの表示をオン／オフします。
8	記録容量／ 録画期間表示	ハードディスクの容量と空き容量、録画期間を表示します。
9	カレンダー／時間	表示する日付と時間を選びます。 [◀] で前の月、[▶] で次の月が表示されます。 [◀◀] で前の年、[▶▶] で次の年が表示されます。 [Today] で当日が表示されます。 [Go to] で設定した日時の画像が表示されます。
10	再生操作	一時停止、コマ送りなど再生に関する操作ができます。

2	**カレンダー／時間で日時を選び［Go to］をクリックする** 再生画面に設定した日時の画像が表示されます。
3	**再生操作で再生する** 

1	再生範囲	現在の再生範囲を表示します。
2	再生範囲移動	<- ：再生範囲を前に移動します -> ：再生範囲を後ろに移動します
3	再生ボタン群	<| ：コマ戻し < ：逆再生 || ：一時停止 > ：再生 |> ：コマ送り
4	再生速度	再生速度を設定できます。再生スピードは、0.5x/1x/2x/4x/16x/32x/64x/All から選択します。
5	再生範囲単位	再生範囲の移動単位を設定できます。再生範囲の単位は、10min/30min/1hour/3hour/6hour/12hour/24hour から選択します。
6	DirectX 使用	DirectX を使用するか、しないかを設定できます。 通常はオンの状態でご利用ください。
7	音声設定	再生音声について設定します。アイコンで音声のオン／オフの設定、スライダーバーで音量を調整できます。

コンテキストメニュー（検索／再生）

検索／再生画面上で右クリックするとコンテキストメニュー（検索／再生）が表示されます。



項目	説明
Check Watertmark	再生画像がオリジナルかどうかを表示します。
Digital Zoom	再生画像を拡大表示できます。 このメニューは単画面表示のときのみ選択できます。メニューで Digital Zoom を選択したのち、拡大したい個所をマウスでドラッグしてください。

保存（静止画）

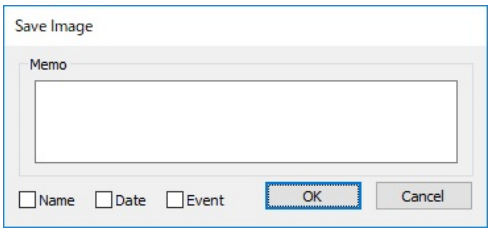
再生画面の映像を静止画（BMP 形式）で保存できます。

要　点
保存（静止画）機能を利用するには、InternetExplorer11 が管理者権限で実行されている必要があります。

1

検索／再生画面で Save をクリックする

Save Image ウィンドウが開きます。



Memo	保存する画像下部に表示するメモを入力できます。
Name	保存する画像にカメラ名を表示するときはチェックします。
Date	保存する画像に日時を表示するときはチェックします。
Event	保存する画像にイベントアイコンを表示するときはチェックします。
OK	画像を保存します。 [OK] ボタンを押すとファイル名と保存先を選択する OS 標準のエクスプローラーウィンドウが開きます。
Cancel	画像を保存せず Save Image ウィンドウを閉じます。

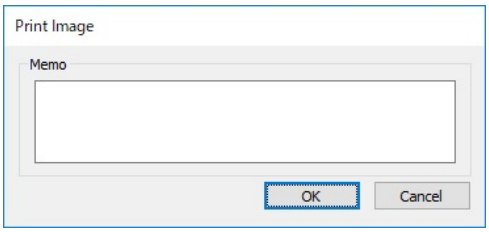
印刷

再生画像の映像を、PC に接続されているプリンターに出力できます。

1

検索／再生画面で Print をクリックする

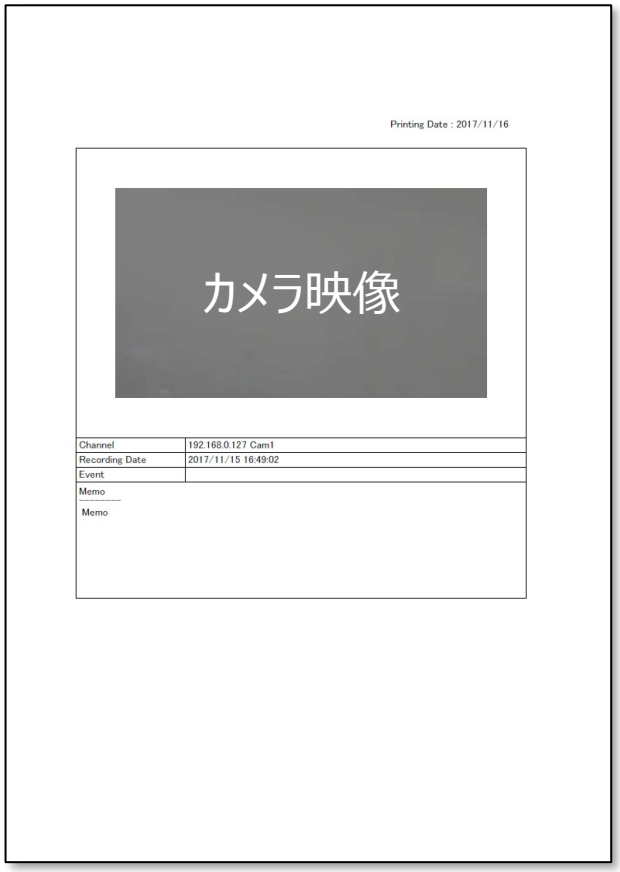
Print Image ウィンドウが開きます。



Memo	印刷する画像に添付表示するメモを入力できます。
OK	画像を印刷します。 [OK] ボタンを押すと OS 標準の印刷ウィンドウが開きます。
Cancel	画像を印刷せず Print Image ウィンドウを閉じます。

2

印刷イメージ



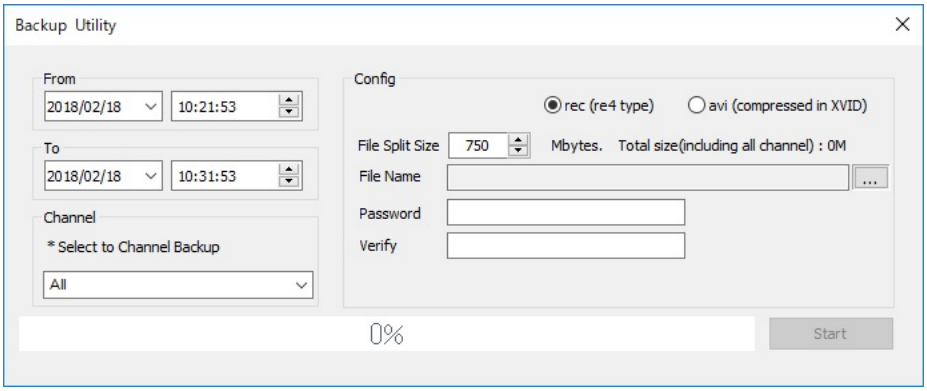
バックアップ

レコーダーの録画データーを PC にバックアップできます。

1

検索／再生画面で Backup をクリックする

Backup Utility ウィンドウが開きます。



From	バックアップする録画データーの開始時間を設定できます。
To	バックアップする録画データーの終了時間を設定できます。
Channel	バックアップするカメラチャンネルを選択できます。 バックアップデーターの形式として［rec］を選択した場合、複数のカメラチャンネルを選択できます。 バックアップデーターの形式として［avi］を選択した場合、1 台のカメラチャンネルのみ選択できます。
rec / avi	バックアップデーターの形式を選択できます。 ［rec］を選択すると、専用形式（.re4）で保存されます。再生には PC 用集中監視グソフト「Control Center」が必要です。 ［avi］を選択すると、汎用形式（.avi）で保存されます。再生に必要なプレーヤーソフトはユーザー様側でご用意ください。
File Split Size	バックアップデーター 1 ファイルあたりの最大サイズを設定できます。 最大サイズを超えるバックアップ期間が設定された場合、バックアップデーターは［File Split Size］に設定されたサイズで分割された複数のファイルとして出力されます。
File Name	バックアップデーターのファイル名と保存先を設定できます。 … をクリックしてエクスプローラーを開き、ファイル名と保存先を設定してください。

Password / Verify	バックアップデーターにパスワードを設定することができます。 [Password] と [Verify] に同じ文字列を入力してください。 パスワードはバックアップデーターの形式として [rec] を選択した場合に設定できます。
Start / Stop	バックアップを開始します。 バックアップの進捗は [Start] ボタンの左側に表示されます。 バックアップが始まると、[Start] ボタンは [Stop] ボタンに表示が変わり、バックアップの中断ができるようになります。

2

バックアップファイルをマウスでダブルクリックして再生を開始する

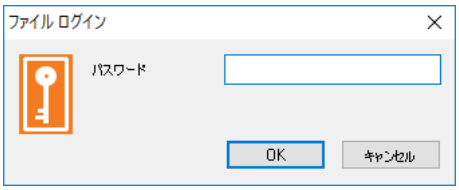
要　点
ここからの内容は [rec] でバックアップしたときの手順です。[avi] でバックアップしたときの手順については、ご用意いただいたプレーヤーソフトの説明を参照してください。

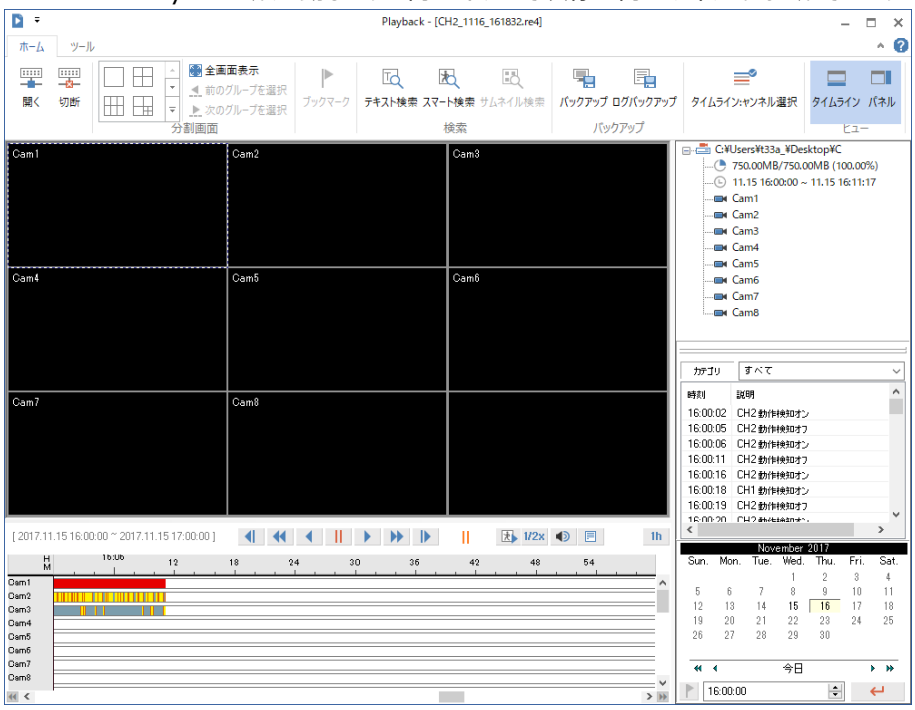
PC 用遠集中監視ソフト「Control Center」がインストールされた環境でバックアップファイル（.re4 形式）をダブルクリックします。

3

パスワードを入力する

バックアップ時に設定したパスワードを、[パスワード] に入力して [OK] ボタンを左クリックします。
パスワードを設定していない場合はこの画面は表示されません。



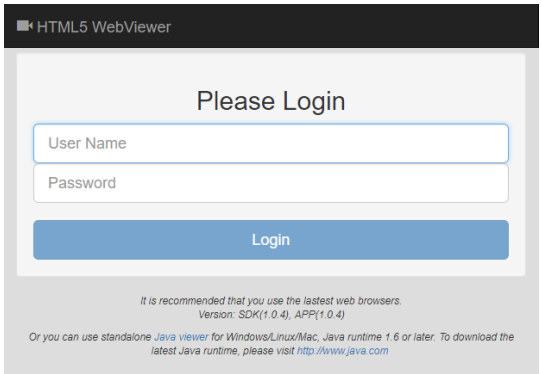
4	**再生する** Control Center Playback が起動します。再生ボタンで映像の再生、早送りなどができます。 

１５-２-２HTML5 Webviewer（Google Chrome）

推奨環境

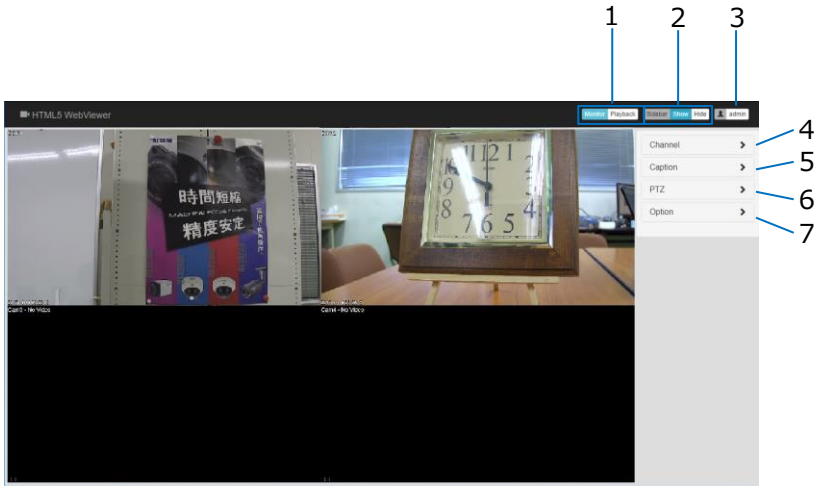
CPU	Core i5 3.0GHz 以上
メモリー	4GB 以上
ビデオメモリー	512MB 以上
ディスプレイ	AGP アクセラレーターをサポートする 1024MB PCI-E グラフィックカード
PCI バス	PCI-E 16X 以上をサポート
ネットワーク	100/1000 Ethernet NIC
OS	Windows 7（x64）/Windows 8.1（x64）/Windwos 10（x64）
ブラウザー	Google Chrome

接続とライブ画面

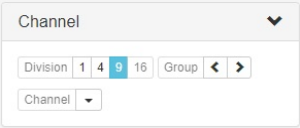
1	**Google Chrome を起動する**
2	**Google Chrome のアドレスバーに接続先を入力する** WAN（インターネット）経由で接続する場合、レコーダーのドメイン名を入力してください。 http://adx_sample.to LAN 内から接続する場合、アドレスバーにレコーダーの IP アドレスを入力してください。 192.168.0.127 ポートを 80 以外に設定した場合は、アドレスバーに「http:// [ドメイン名または IP アドレス]:[ポート番号]」と入力してください。 http://adx_sample.to:8080 **要　点** ・ ドメイン名は各種設定メニューの [ネットワーク] ＞ [DDNS] で確認できます。 ・ IP アドレスは各種設定メニューの [ネットワーク] ＞ [ネットワーク] で確認できます。 ・ ポート番号は各種設定メニューの [ネットワーク] ＞ [ネットワーク] で[ポート] で確認できます。
3	**ログインウインドウでレコーダーのユーザーID とパスワードを入力する** 

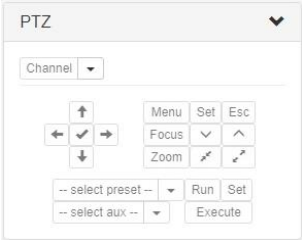
4

ライブ映像画面でモニタリングする



要　点
HTML5 Viewer のライブ映像画面は音声をサポートしていません。

1　表示モード	ライブ画面と検索/再生画面を切り替えることができます。
2　サイドバー表示	サイドバーの表示 / 非表示を切り替えることができます。
3　ユーザー名	ログインユーザー名を表示します。
4　チャンネル	[＞] をクリックすると、画面分割数、表示するカメラチャンネルの選択ができます。  Division：画面分割を選択できます。 Group：[＜] [＞] をクリックすると、現在の画面分割でページ切替ができます。 Channel：単画面表示するカメラを選択できます。

5　キャプション	[＞] をクリックすると、カメラ映像のキャプションを設定できます。 Show Caption：チェックを入れるとキャプションを表示します。 A：キャプションに下線を付けられます。 Color：文字の色を設定できます。 Border：文字の境界を設定できます。 Background：文字の背景色を設定できます。
6　PTZ	[＞] をクリックすると、PTZ の制御ができます。  Channel：PTZ 制御を行うカメラチャンネルを選択できます。 パン / チルトの制御ができます。 Menu Set Esc：カメラ側の設定ができます。 Focus：ピントの制御ができます。 Zoom：ズーム制御ができます。 -- select preset -- Run Set：プリセット移動 / 保存ができます。 -- select aux -- Execute：補助機能を実行できます。

7　オプション	[＞] をクリックすると、オプション設定ができます。 Key frame only：カメラ映像の表示をキーフレームのみにできます。 Stream type：ストリーム映像の種類を選択できます。

コンテキストメニュー（ライブ）

ライブ画面上で右クリックするとコンテキストメニュー（ライブ）が表示されます。

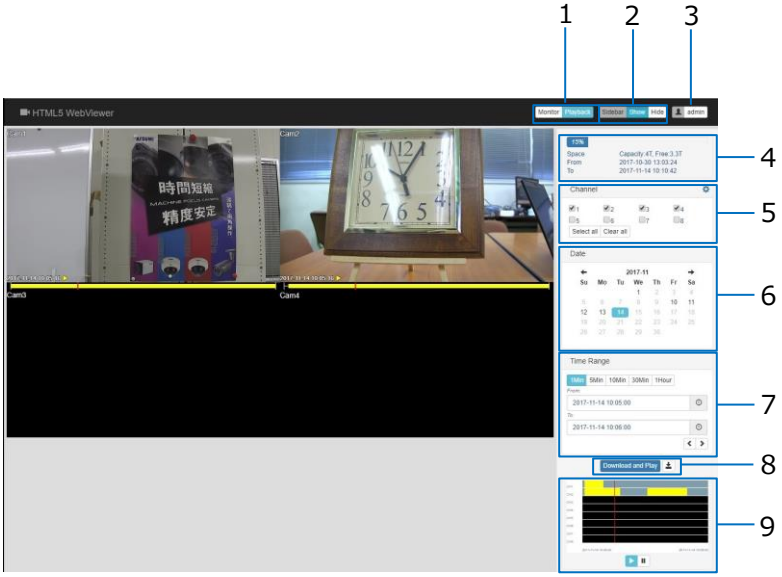
項目	説明
Cam[n]	選択中のカメラチャンネルを表示します。
Stream	ライブ画面の表示に使用するストリームを選択できます。 [Main Stream] / [Sub Stream] / [Jpeg Stream] から選択します。

検索／再生

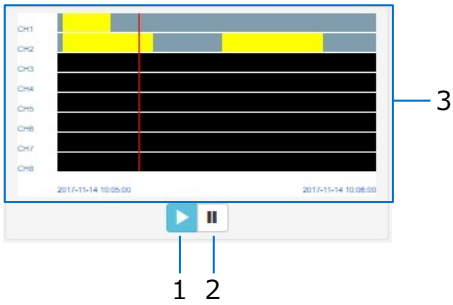
1

ライブ映像画面で Monitor Playback **の［Playback］をクリックする**

検索／再生画面に切り替わります。



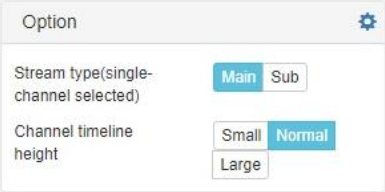
1	表示モード	ライブ画面と検索/再生画面を切り替えることができます。
2	サイドバー表示	サイドバーの表示 / 非表示を切り替えることができます。
3	ユーザー名	ログインユーザー名を表示します。
4	記録容量／ 録画期間表示	ハードディスクの容量と空き容量、録画期間を表示します。
5	チャンネル選択	カメラチャンネルの表示をオン／オフします。 右上の をクリックするとオプションが表示されます
6	カレンダー	再生する日付を選びます。録画データーがある日は太字で表示されます。 ←で前の月、→で次の月が表示されます。
7	時間	再生する期間を選びます。 再生単位を［1Min］/［5Min］/［10Min］/［30Min］/［1Hour］から選択したのち、［From］［To］で再生期間を指定します。［<］［>］を使用すると［From］［To］の時間を再生単位で前後に移動できます。
8	再生／バックアップ	［Download and Play］をクリックすると、レコーダーから録画データーをダウンロードして再生が始まります。 をクリックすると、バックアップができます。
9	再生操作	再生、一時停止、再生位置の移動ができます。

2	**再生するカメラチャンネルを選択する** 「チャンネル選択」で再生するカメラチャンネルを選択します。
3	**再生日・期間を選択し［Download and Play］をクリックする** 録画データーがレコーダーから PC にダウンロードされ、設定した日時の画像が表示されます。
4	**再生操作で再生する** 

1　再生	再生を開始します。
2　一時停止	再生を一時停止します。
3　タイムライン	再生期間中の各カメラにおける録画データーの状態を表示するとともに、現在の再生位置を赤い縦バーで示します。 タイムラインをマウスで左クリックすると、赤い縦バーがその位置に移動し、再生時間もジャンプします。

要　点
HTML5 Viewer の検索／再生は音声をサポートしていません。

オプション

1	**検索／再生画面で［Channel］の右側にある をクリックする** オプション設定が画面右側に表示されます。 

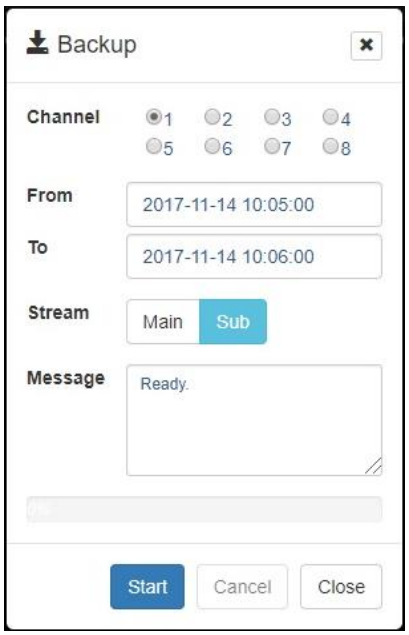
Stream type	再生画面を単チャンネル表示にしたときに使用するストリームを設定できます。 [Main] を選ぶとメインストリーム（高解像度）を使用します。 [Sub] を選ぶとサブストリーム（低解像度）を使用します。
Channel timeline height	カメラチャンネル下部に表示されるタイムラインのサイズを設定できます。 [Small] を選ぶと細く表示します。 [Nomal] を選ぶと中ほどの太さで表示します。 [Large] を選ぶと太く表示します。

バックアップ

1

検索／再生画面で［Download and play］の右側にある をクリックする

Backup 画面が表示されます。



Channnel	バックアップするカメラチャンネルを選択できます。 いずれか 1 カメラチャンネルの選択となります。
From	バックアップする録画データーの開始時間を設定できます。
To	バックアップする録画データーの終了時間を設定できます。
Stream	バックアップする録画データーのストリームを設定できます。 [Main] を選ぶと高解像度でバックアップされます。 [Sub] を選ぶと低解像度でバックアップされます。
Message	メッセージを残すことができます。
Start	バックアップを開始します。
Cancel	バックアップをキャンセルします。
Close	Backup 画面を閉じます。

要　点
・ HTML5 Viewer のバックアップは 1 カメラチャンネル単位です。 ・ バックアップデーターは汎用形式（.mp4）です。 ・ 音声はサポートしていません。

2

再生する

バックアップデーターは汎用形式（.mp4）です。再生に必要なプレーヤーソフトはユーザー様側でご用意ください。

１５-２-３Control Center（Windows アプリケーション）

PC 用集中監視ソフトウェア「Control Center」を使用すると、Windows パソコンから遠隔で複数のレコーダーを同時にモニタリングができます。
またその他にも、PTZ カメラの操作、録画データーの再生、アーカイブ、設定の変更なども可能です。
本ソフトウェアおよび取扱説明書は、弊社ホームページからダウンロードしてください。

［ダウンロード先］
弊社ホームページ（http://www.atsumi.co.jp）にアクセスし、「製品情報＞映像製品＞ EX-SDI ソリューション＞デジタルレコーダー＞製品名（ADX1004 / ADX1008 / ADX2016）＞資料ダウンロード」からダウンロードしてください。

１５-３スマートフォンからの接続

１５-３-１Web Eye（iOS）

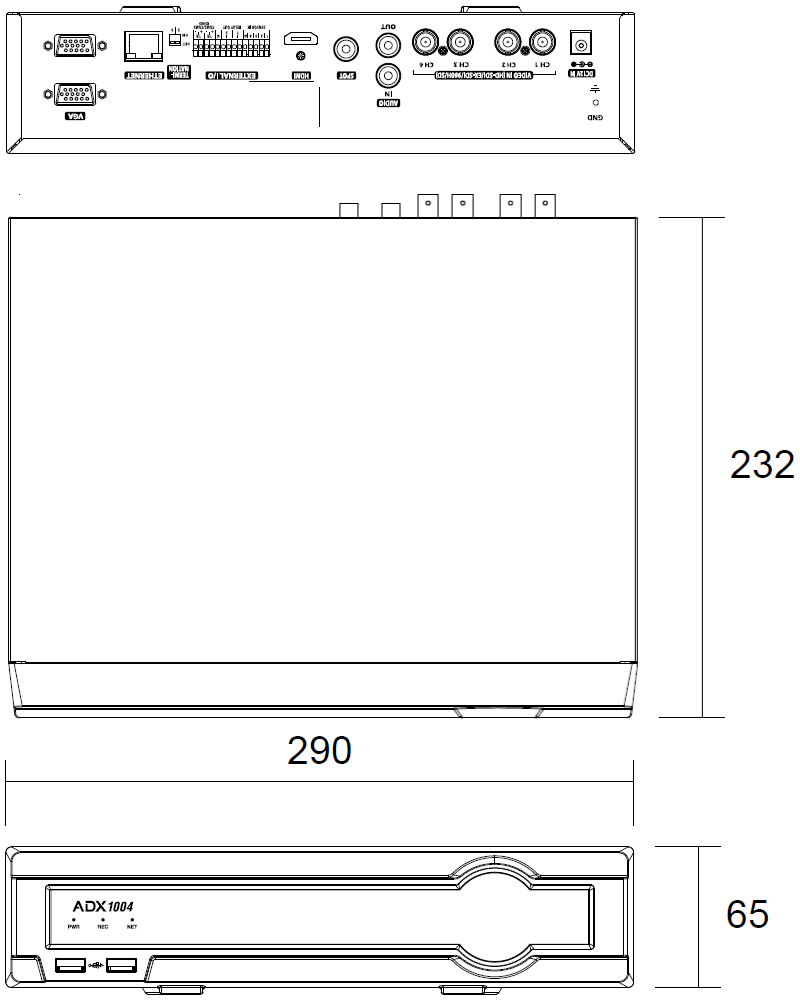
iOS 8.0 以降の iPhone、iPad、および iPod touch では、App Store アプリ［Webeye］を使用することで、ライブ映像のモニタリング、PTZ カメラの操作、録画データーの再生などができます。
［Webeye］は、App Store からダウンロード、インストールしてください。

１５-３-２Web Eye（Android）

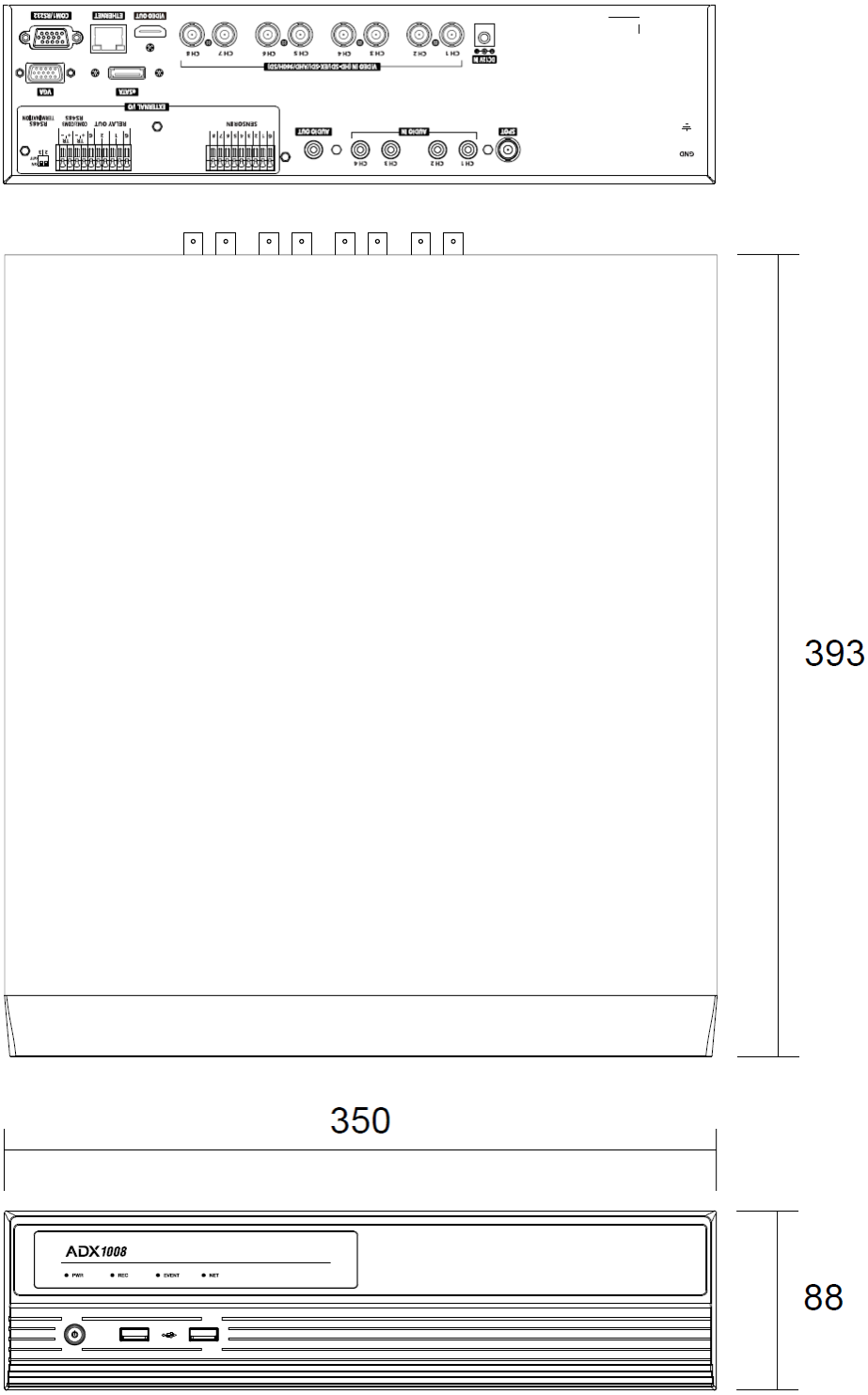
Android Ver.4.1 以降がインストールされたスマートフォンでは、Google Play アプリ［Webeye］を使用することで、ライブ映像のモニタリング、PTZ カメラの操作、録画データーの再生などができます。
［Webeye］は、Google Play からダウンロード、インストールしてください。

１６外形寸法

ADX1004

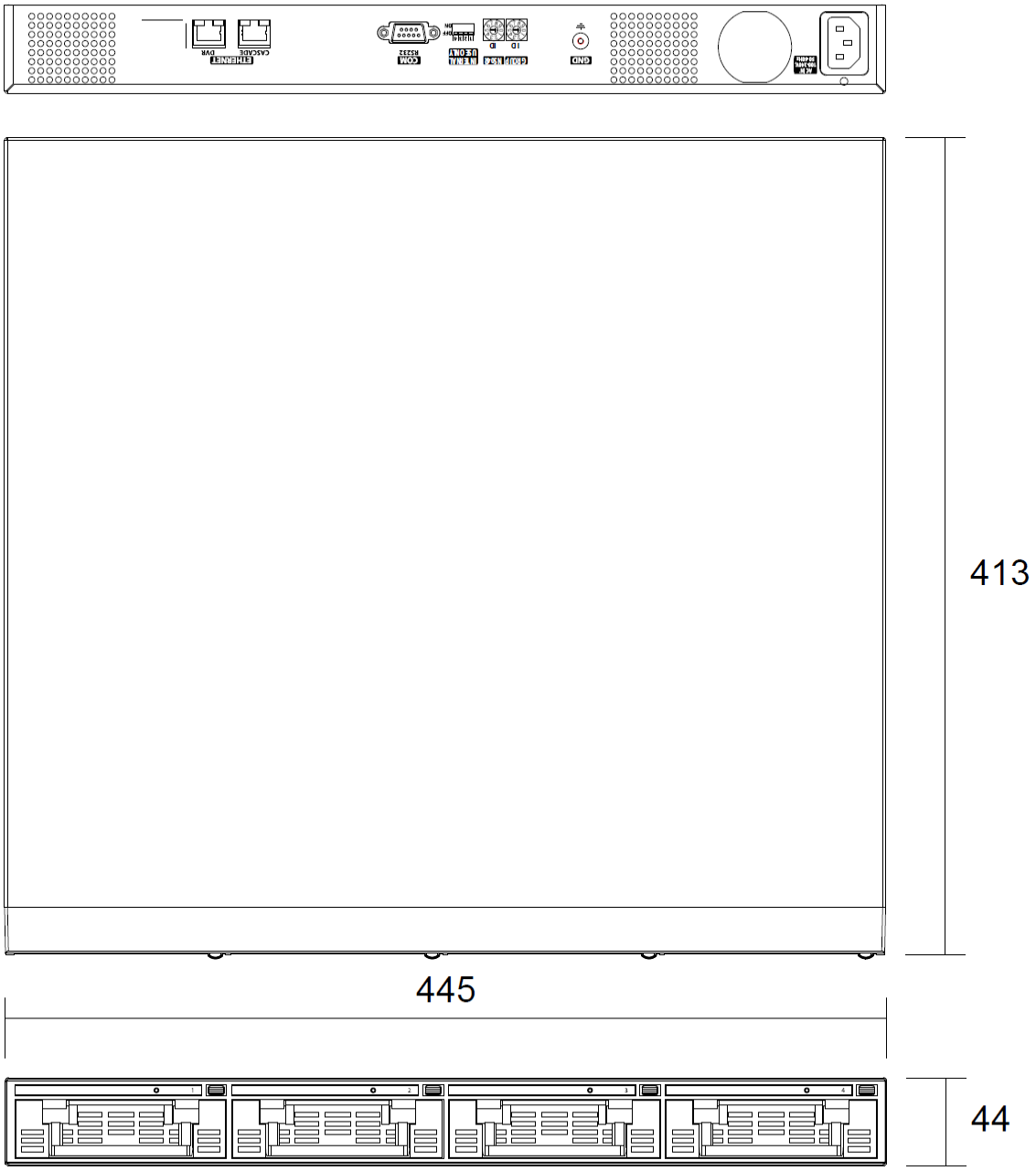


ADX1008



ADX2016

NS04R



１７仕様

ADX1004 / ADX1008 / ADX2016

<table>
<tr><th colspan="2">品番</th><th>ADX1004</th><th>ADX1008</th><th>ADX2016</th></tr>
<tr><td colspan="2">映像出力</td><td colspan="2">HDMI×1、VGA×1、BNC(CVBS)×1</td><td>HDMI×1、VGA×1、
BNC(CVBS)×1、BNC(SDI)×1</td></tr>
<tr><td colspan="2">映像出力モード</td><td>HDMI & VGA Main
+ CVBS Spot</td><td>HDMI & VGA Main
+ CVBS Spot
HDMI & VGA Main
HDMI Main
+ VGA Spot</td><td>HDMI & VGA Main + CVBS Sppt
HDMI & SDI Main + CVBS Spot
HDMI Main + VGA Spot + CVBS Spot
HDMI Main + SDI Spot + CVBS Spot</td></tr>
<tr><td rowspan="4">映像出力
解像度</td><td>HDMI</td><td colspan="2">1920×1080p60</td><td>1920×1080p60 /
3840×2160p30</td></tr>
<tr><td>VGA</td><td>1920×1080</td><td colspan="2">1920×1080/1280×1024/1024×768/800×600</td></tr>
<tr><td>SDI</td><td colspan="2">–</td><td>1920×1080
（HD-SDI/EX-SDI/EX-SDI V2）</td></tr>
<tr><td>CVBS</td><td colspan="3">720×480（相当）</td></tr>
<tr><td colspan="2">音声入力</td><td>RCA×1</td><td colspan="2">RCA×4</td></tr>
<tr><td colspan="2">音声出力</td><td colspan="3">RCA×1</td></tr>
<tr><td colspan="2">イーサネット</td><td colspan="3">RJ-45×1（10 / 100 / 1000Mbps）</td></tr>
<tr><td colspan="2">シリアルポート</td><td colspan="3">RS485×2（PTZ 制御用）</td></tr>
<tr><td colspan="2">アラーム入力（※1）</td><td>SENSOR IN×4
（NO/NC）</td><td>SENSOR IN×8
（NO/NC）</td><td>SENSOR IN×8
（NO/NC）</td></tr>
<tr><td colspan="2">アラーム出力（※2）</td><td colspan="3">RELAY OUT×2（NO）</td></tr>
<tr><td colspan="2">USB ポート</td><td colspan="2">USB2.0×2（前面）</td><td>USB2.0×3 （前面 2 / 背面 1）</td></tr>
<tr><td rowspan="2">録画ストレージ</td><td>筐体内</td><td>SATA HDD 2TB×1</td><td>SATA HDD 4TB×1</td><td>SATA HDD 4TB×2</td></tr>
<tr><td>外部</td><td colspan="2">–</td><td>イーサネットポート接続×8（最大）</td></tr>
<tr><td colspan="2">RAID</td><td colspan="2">–</td><td>RAID 1 / 5 / 10 対応</td></tr>
<tr><td colspan="2">外形寸法（W×H×D）mm</td><td>290×65×232
（突起部含まず）</td><td>350×88×393
（突起部含まず）</td><td>445×88×418
（突起部、ラック取り付け金具含まず）</td></tr>
<tr><td colspan="2">質量</td><td>約 2.5Kg</td><td>約 4Kg</td><td>約 7Kg</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用温度範囲</td><td colspan="3">+5℃～+40℃</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用湿度範囲</td><td colspan="3">80%以下（結露無きこと）</td></tr>
<tr><td colspan="2">使用可能電源電圧</td><td colspan="3">AC100V 50Hz/60Hz</td></tr>
<tr><td colspan="2">消費電力</td><td>最大 30W</td><td>最大 40W</td><td>最大 100W</td></tr>
<tr><td colspan="2">操作方法</td><td colspan="3">マウス、リモコン</td></tr>
</table>

<table>
<tr><th colspan="2">品番</th><th>ADX1004</th><th>ADX1008</th><th>ADX2016</th></tr>
<tr><td colspan="2">映像圧縮方式</td><td colspan="3">H.264 High Profile</td></tr>
<tr><td colspan="2">音声圧縮方式</td><td colspan="3">ADCPM（16bit）</td></tr>
<tr><td rowspan="3">映像信号形式</td><td>EX-SDI
(HD-SDI)</td><td colspan="2">1920×1080/30fps
1280×720/60fps</td><td>3840×2160/30fps
2560×1440/30fps
1920×1080/30fps</td></tr>
<tr><td>EX-SDI
TDM</td><td colspan="2">–</td><td>1920×1080/30fps</td></tr>
<tr><td>NTSC</td><td colspan="2">960×480（相当）</td><td>–</td></tr>
<tr><td colspan="2">録画フレームレート</td><td>最大 120fps</td><td>最大 240fps</td><td>最大 120fps（3840×2160）
最大 240fps（2560×1440）
最大 480fps（1920×1080）</td></tr>
<tr><td colspan="2">録画画質</td><td colspan="3">Low/Q2～Q9/High（10 段階）</td></tr>
<tr><td colspan="2">録画モード</td><td colspan="3">連続/イベント/緊急</td></tr>
<tr><td colspan="2">プレアラーム</td><td colspan="3">最大 5 秒</td></tr>
<tr><td colspan="2">再生モード</td><td colspan="3">日時指定/カレンダー/イベント/サムネイル/ブックマーク</td></tr>
<tr><td colspan="2">再生速度</td><td colspan="3">×1/×2/×4/×8/×16/×32/×64</td></tr>
<tr><td colspan="2">バックアップ方式</td><td colspan="3">EXE/AVI</td></tr>
<tr><td colspan="2">バックアップデバイス</td><td colspan="3">USB メモリー（USB2.0、FAT32 フォーマット）</td></tr>
<tr><td colspan="2">アラーム出力条件</td><td colspan="3">HDD 異常、HDD フル、パスワードエラー、WRS エラー、
録画異常、モーション検知、センサー入力、ビデオロス</td></tr>
<tr><td colspan="2">ネットワーク機能</td><td colspan="3">DDNS クライアント、DHCP クライアント、NTP クライアント、NTP サーバー、SMTP クライアント、
FTP クライアント、RTSP サーバー</td></tr>
<tr><td colspan="2">スマートフォン対応（※3）</td><td colspan="3">WebEye
ライブ、再生、アラーム出力制御、PTZ 制御、双方向音声、ログ</td></tr>
<tr><td rowspan="3">PC 対応</td><td>ActiveX web
Viewer</td><td colspan="3">InternetExplorer11
ライブ、再生、バックアップ（re4/AVI）、アラーム出力制御、PTZ 制御、双方向音声、ログ</td></tr>
<tr><td>HTML5 web
Viewer</td><td colspan="3">Google Chrome
ライブ、再生、バックアップ（mp4）</td></tr>
<tr><td>専用アプリ
（※4）</td><td colspan="3">Control Center
ライブ、再生、バックアップ（EXE/AVI）、アラーム出力制御、PTZ 制御、双方向音声、ログ</td></tr>
<tr><td colspan="2">ネットワーク機能接続数</td><td colspan="3">ライブ 10、再生 4、設定 1</td></tr>
</table>

【備考】

※1：無電圧接点入力 ループ抵抗 300Ω以下

※2：最大 DC24V/0.5A

※3：iOS/Android 版あり、AppStore（iOS）/Google Play（Android）からダウンロード

※4：弊社ホームページからダウンロード

NS04R

品番	NS04R
インターフェース	RJ-45×2（10/100/1000Mbps）、 ロータリースイッチ×2（Group ID、NS04R ID）
録画ストレージ	SATA HDD 4TB×4（フロントアクセス）（※1）
外形寸法（W×H×D）㎜	445×44×413（突起部、ラック取り付け金具含まず）
質量	約 9Kg
使用温度範囲	+5℃~+40℃
使用湿度範囲	80%以下（結露無きこと）
使用可能電源電圧	AC100V 50Hz/60Hz
消費電力	最大 85W
HDD LED 状態	緑点灯：正常認識中 緑フロー：認識待ち 緑点滅：データー読み書き中 赤点滅：修復中 赤点灯：異常発生
対応機種	ADX2016 に最大 8 台まで接続可能

【備考】

※1：HDD 交換は電源断状態で実施のこと

MEMO

MEMO

MEMO

・ 仕様、デザイン等は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

・ 品質に関しましては、弊社の保証規定に基づき１年間保証させて頂いております。万一不具合な点がございましたら、お買い上げの販売店にお申し出ください。

販売店

ATSUMI

映像監視・出入管理・防犯機器

アツミ電氣株式会社

営業本部／TEL 053-428-4111（代）
札幌営業所／TEL 011-280-1171（代）
東京支店／TEL 03-5217-1171（代）
浜松営業所／TEL 053-428-4111（代）
名古屋営業所／TEL 052-914-1171（代）
大阪営業所／TEL 06-6364-8131（代）
福岡営業所／TEL 092-412-3888（代）
技術サービス ／TEL 050-3786-1171

2018 年 2 月発行　AEX00042601